

市民意識調査

平成21年3月

座間市

は じ め に

座間市では、行財政改革や地方分権など大きな課題を抱えながらも、将来の都市像「みなぎる活力とやすらぎが調和するときめきのまち」の実現に向け、諸施策に積極的に取り組んでいるところであります。

このような状況のなか、市民の皆さまの意識やご要望を的確に把握し、今後の市政に反映させるため「市民意識調査」を実施いたしました。

前回の平成16年の調査同様、定住意識や市政に関する基礎事項についてお尋ねしたほか、今回は、将来のまちづくり計画や都市環境などの課題についても調査させていただき、たくさんの貴重なご意見をいただくことができました。

この調査結果は、市政推進の参考とさせていただきながら、諸計画立案の貴重な基礎資料として活用させていただきます。

調査にご協力いただきました多くの皆さまに心からお礼申し上げますとともに、今後も市政に対する一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成21年3月

座間市長 遠藤 三紀夫

も く じ

I. 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の仕様	1
3. 回収結果	1
4. 調査結果をみる上での注意事項	2
II. 調査結果の概要	3
III. 調査結果	9
1. 回答者の基本属性	9
(1) 性別	9
(2) 年齢	9
(3) 職業	10
(4) 勤務地(通学地)	10
(5) 同居の家族構成	11
(6) 住まいの形態	12
(7) 在住年数	13
(8) 住まいの地域	14
2. 生活環境について	15
(1) 座間市に住んだ理由	15
(2) 定住意識	16
(3) 今の場所に住みたい理由	20
(4) 他のところに移りたい主な理由	21
(5) 住まいの周辺環境についての満足度	22
(6) 総合的なまわりの環境	35
3. 座間市のまちづくりについて	37
(1) 今後力を入れるべきこと	37
4. 地域活動について	40
(1) 今後の近所づきあい	40
(2) 実際に参加している団体・活動	44
(3) 地域活動をしていない主な理由	48
5. 市民参加や広報、情報化について	50
(1) 要求や問題を市政に反映させる方法	50
(2) 日常生活に役立つ情報を得るための媒体(メディア)	52
(3) 市のお知らせの便利な伝達方法	55
(4) 「高度情報化」において重点的に行うこと	57
(5) 日常の場面でのインターネット利用状況	59
(6) 座間市のホームページの閲覧経験	61
(7) 座間市のホームページの満足度	62
6. 健康づくりについて	63
(1) 健康づくりのために重要だと思うこと	63
7. 自由時間(余暇)について	65
(1) 自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設	65
8. 環境問題について	67
(1) 一番気になる環境問題	67
(2) 環境のため今後とも気を付けて実行したいこと	69

9. 防災について	71
(1) 地震や火災に備えてとっている対策	71
(2) 防災対策として力を入れるべき施策	73
10. 都市景観・都市環境について	75
(1) 良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこと	75
(2) 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方	77
(3) 中高層建築物の具体的問題点	80
(4) 建築物の高さ制限の必要性について	82
11. 男女共同参画について	84
(1) 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて	84
(2) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由	86
(3) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由	88
(4) 女性が仕事をもつことにおいて望ましいこと	90
(5) 男性の育児休業制度取得を促す方法	92
(6) 家族の介護は誰が行うべきか	94
(7) 地域活動のリーダーに女性が少ない理由	96
(8) ドメスティック・バイオレンスの相談窓口の設置に対する認知度	98
(9) パートナー(配偶者、恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験	100
(10) 男女共同参画社会を実現していくための施策	102
12. 自由意見	104
IV. 調査票	114

I. 調査概要

1. 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望などを的確に把握し、今後の市政運営に反映させることを目的とする。

2. 調査の仕様

調査の仕様は以下の表に示すとおりである。

(1) 調査地域	座間市全域
(2) 調査対象	平成 20 年 11 月 1 日現在、座間市在住の 18 歳以上の男女個人
(3) 対象者数	2,500 人
(4) 抽出方法	住民基本台帳、外国人登録原票から単純無作為抽出
(5) 調査方法	郵送調査法(回答者は無記名)
(6) 調査期間	平成 20 年 11 月 27 日(木)～12 月 24 日(水)

3. 回収結果

全体の回収結果

抽出数	回収数	不明戻り	無効票数	有効回収数	有効回収率
2,500	1,227	23	8	1,219	48.8%

地区別回収数・回収率

地域名	新田宿・四ッ谷	座間	入谷・明王	立野台	緑ヶ丘	相武台・栗原・広野台	相模が丘	小松原	ひばりが丘	東原・さがみ野	栗原中央・西栗原・南栗原	無効票	全体
抽出数	103	115	402	95	154	287	420	92	319	201	312		2,500
回収数	50	97	204	56	72	117	187	50	146	86	146	8	1,219
回収率	48.5%	84.3%	50.7%	58.9%	46.8%	40.8%	44.5%	54.3%	45.8%	42.8%	46.8%		48.8%

4. 調査結果をみる上での注意事項

- ①本文、表、グラフなどに使われる n は、質問の回答者数を表す。
- ②百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ③複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える。
- ④文、表、グラフの表示の都合上、項目名を省略して表現する場合がある。
- ⑤本報告書で表現された百分率には、95%の信頼度(信頼度係数1.96)で、下表のような誤差がある。

回答者数 (n)	1,219	1,000	800	600	400	200	100
データの比率	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±
10%, 90%	1.7	1.9	2.1	2.4	2.9	4.2	5.9
20%, 80%	2.2	2.5	2.8	3.2	3.9	5.5	7.8
30%, 70%	2.6	2.8	3.2	3.7	4.5	6.3	9.0
40%, 60%	2.7	3.0	3.4	3.9	4.8	6.8	9.6
50%	2.8	3.1	3.5	4.0	4.9	6.9	9.8

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{\text{座間市の人口} - \text{質問の回答者数}}{\text{座間市の人口} - 1} \times \frac{\text{回答比率} \times (1 - \text{回答比率})}{\text{質問の回答者数}}}$$

II. 調査結果の概要

1. 回答者の基本属性

(1) 性別

「男性」(45.2%)、「女性」(54.1%)、「無回答」(0.7%)

(2) 年齢

「18～29歳」(12.5%)、「30～39歳」(16.2%)、「40～49歳」(16.2%)、「50～59歳」(15.9%)、「60～69歳」(21.5%)、「70歳以上」(17.4%)、「無回答」(0.2%)

(3) 職業

「商工・サービス業」(6.7%)、「農林業」(0.6%)、「その他自由業」(2.5%)、「専門・技術職」(10.2%)、「事務職」(14.4%)、「労務職」(8.0%)、「人材派遣会社への登録」(2.0%)、「パート、アルバイト、内職」(11.2%)、「学生」(4.0%)、「専業主婦」(20.4%)、「無職」(16.7%)、「その他」(2.5%)、「無回答」(0.8%)

(4) 勤務地(通学地)

「自宅」(6.9%)、「座間市内」(19.8%)、「県央地域」(30.4%)、「横浜市・川崎市」(14.9%)、「その他の県内」(4.8%)、「東京都内」(19.6%)、「その他」(0.8%)、「無回答」(2.8%)

(5) 同居の家族構成

「単身世帯」(10.6%)、「夫婦のみ」(24.7%)、「二世帯世帯(親と子)」(52.8%)、「三世帯世帯(親と子と孫)」(7.6%)、「その他」(3.4%)、「無回答」(0.8%)

(6) 住まいの形態

「持家(一戸建て)」(61.4%)、「持家(共同住宅)」(18.5%)、「民営借家(一戸建て)」(2.9%)、「民営借家(共同住宅)」(13.0%)、「公社・公団の共同住宅」(1.1%)、「公営住宅」(0.7%)、「官・公舎」(0.0%)、「その他」(1.6%)、「無回答」(0.7%)

(7) 在住年数

「昭和19年以前」(2.5%)、「昭和20年～昭和29年」(1.7%)、「昭和30年～昭和39年」(6.0%)、「昭和40年～昭和49年」(19.2%)、「昭和50年～昭和59年」(19.6%)、「昭和60年～平成6年」(17.8%)、「平成7～平成16年」(22.8%)、「平成17年以降」(9.5%)、「無回答」(0.9%)

(8) 住まいの地域

「新田宿・四ツ谷」(4.1%)、「座間」(8.0%)、「入谷・明王」(16.7%)、「立野台」(4.6%)、「緑ヶ丘」(5.9%)、「相武台・栗原・広野台」(9.6%)、「相模が丘」(15.3%)、「小松原」(4.1%)、「ひばりが丘」(12.0%)、「東原・さがみ野」(7.1%)、「栗原中央・西栗原・南栗原」(12.0%)、「無回答」(0.7%)

2. 生活環境について

(1) 座間市に住んだ理由

座間市に住んだ理由を聞いた結果最も多かったのは、「手ごろな家や土地があったから」(30.9%)であった。

(2) 定住意識

定住意識を聞いた結果最も多かったのは、「住み続けたい」(53.7%)であった。過去の調査結果と比較すると、減少傾向にあった「住み続けたい」は増加している。

住まいの地域別にみると、「住み続けたい」の比率が最も高い地域は60%以上の比率を示した立野台で、11地域中8地域で50%を超えた。

(3) 今の場所に住み続けたい理由

今の場所に住み続けたい理由を聞いた結果最も多かったのは、「自分の家や土地があるから」(47.1%)であった。

過去の調査結果と比較すると「自分の家や土地があるから」の比率は前回よりもやや低くなっており、「通勤・通学などが便利だから」、「人間関係が良いから」、「自分が生まれ育ったところだから」は年々比率が低くなっている傾向がみられる。

(4) 他のところに移りたい主な理由

他のところに移りたい主な理由を聞いた結果最も多かったのは、「通勤・通学などが不便だから」(14.4%)であった。

過去の調査結果と比較すると、前回から加わった「航空機騒音がひどいから」は大幅に比率が低くなっている。「通勤・通学などが不便だから」、「自分の家や土地ではないから」、「高級店や娯楽施設が少ないから」は年々増加傾向にある。

(5) 住まいの周辺環境についての満足度

周辺環境を18項目について評価してもらった結果、「満足」+「まあ満足」-「やや不満」-「不満」の比率で30%を超える良い評価だった項目は、「飲み水」、「日当たりや風通しなど」、「台所・風呂などの排水処理」、「周囲の自然環境」の4項目であった。反対に-30%を下回る悪い評価だった項目は、「騒音・大気汚染など」、「道路の整備状況」、「文化・スポーツ・娯楽など」の施設の3項目であった。

(6) 総合的なまわりの環境

総合的なまわりの環境を聞いた結果最も多かったのは、「まあ住みやすい」(50.4%)であった。次いで、「どちらともいえない」(23.3%)、「やや住みにくい」(12.6%)、「住みやすい」(9.7%)、「住みにくい」(3.1%)の順であった。「住みやすい」+「まあ住みやすい」-「やや住みにくい」-「住みにくい」の比率を《住みやすさ》とすると、《住みやすさ》は44.4ポイントであった。過去の調査と比較すると、「まあ住みやすい」が増加している傾向がみられる。「住みにくい」、「やや住みにくい」は年々減少している傾向にあり、《住みやすさ》は37.3ポイントから44.4ポイントへ増加している。

3. 座間市のまちづくりについて

(1) 今後力を入れるべきこと

今後座間市が力を入れるべきことを聞いた結果、「重要」+「やや重要」-「あまり重要ではない」-「重要ではない」の比率で80%を超えた項目は、「保健・医療の充実」、「高齢者・心身障害者福祉など福祉の充実」の2項目であった。次いで、「防犯・交通安全対策の推進」、「ゴミ・公害など環境対策」も75%を超えている。反対に10%台だった項目は、「観光の振興」、「国際交流や国内都市間交流の推進」の2項目であった。

4. 地域活動について

(1) 今後の近所づきあい

今後の近所づきあいを聞いた結果最も多かったのは、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」(49.5%)であった。

過去の調査結果と比較すると、「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は比率が高くなっており、近所づきあいの重要性が見直されている傾向がみられる。

(2) 実際に参加している団体・活動

実際に参加している団体・活動を聞いた結果最も多かったのは、「自治会」(43.2%)であった。「特に活動していない」(45.5%)も多い。

職業別にみると、「特に活動していない」の比率が高かったのは常勤の勤め人で、半数を超えた。反対に少なかったのは、専業主婦であった。前回(平成16年)の調査とほぼ同じ結果となっている。

(3) 地域活動をしていない主な理由

地域活動をしていない主な理由を聞いた結果多かったのは、「活動する時間がないから」(45.4%)、「どのような活動が行われているのかあまり知らないから」(44.0%)であった。

5. 市民参加や広報、情報化について

(1) 要求や問題を市政に反映させる方法

要求や問題を市政に反映させる方法を聞いた結果最も多かったのは、「自分で直接市役所に連絡する」(39.0%)であった。次いで、「言っても無駄だと思う」(22.2%)が続く。

過去の調査と比較すると、「自分で直接市役所に連絡する」の比率が年々高くなっているのが目立つ。

(2) 日常生活に役立つ情報を得るための媒体(メディア)

日常生活に役立つ情報を得るため1番よく使う媒体(メディア)を聞いた結果最も多かったのは、「テレビ」(35.8%)であった。

過去の調査と比較すると、「インターネット」が急速に増加し、「広報さま」などの広報紙、「新聞・雑誌」、「書籍・チラシ」といった活字媒体が減少していることが目立つ。

(3) 市のお知らせの便利な伝達方法

市のお知らせの便利な伝達方法を聞いた結果最も多かったのは、「ケーブルテレビ」(32.3%)、であった。次いで、「録音テープによる電話サービス」(22.3%)、「市役所や各出張所などでのビデオ上映」(15.5%)、「ファックスサービス」(10.5%)が続く。

(4) 「高度情報化」において重点的に行うこと

「高度情報化」において市が重点的に行うべきことを聞いた結果最も多かったのは、「インターネットやケーブルテレビなどを活用し、必要な情報を市民が得やすい環境を整える」(34.3%)であった。

過去の調査と比較すると、「インターネットやケーブルテレビなどを活用し、必要な情報を市民が得やすい環境を整える」は、年々増加している。反対に「市役所の情報化を進め、行政サービスや仕事の効率を向上させる」は年々減少している。コンピューターの利用が一般的になってきたため、市民に利用しやすい環境作りが求められている傾向が見られる。

(5) 日常の場面でのインターネット利用状況

日常の場面でのインターネット利用状況を聞いた結果最も多かったのは、「主に家で利用する」(44.2%)であった。次いで、「利用することはない」(31.9%)、「主に職場で利用する」(16.9%)が続く。

全体的にインターネットの利用率は男性の方が高く、職場での利用の比率が女性よりも高いが目立つ。「利用することはない」は男女ともに加齢とともに比率が高くなる傾向が見られる。

(6) 座間市のホームページの閲覧経験

日常の場面でインターネットを「利用する」と回答した人のうち、座間市のホームページの閲覧経験を聞いた結果、「ある」と回答した人は 58.5%であった。

(7) 座間市のホームページの満足度

座間市のホームページの満足度を聞いた結果最も多かったのは、「ふつう」(56.7%)であった。「満足」+「まあ満足」-「やや不満」-「不満」は-5.0ポイントとなった。前回(平成16年)の調査よりも若干満足度は高くなっている。

6. 健康づくりについて

(1) 健康づくりのために重要だと思うこと

健康づくりのために重要だと思うことを聞いた結果最も多かったのは、「定期検診などによる健康管理」(68.8%)であった。次いで「生活習慣病(成人病)などを予防する食生活」(33.9%)、「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」(32.0%)、であった。

過去の調査と比較すると、「定期検診などによる健康管理」の比率が年々高くなっている。

7. 自由時間(余暇)について

(1) 自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設

自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設を聞いた結果最も多かったのは、「趣味・教養講座の開催」(42.7%)であった。次いで、「スポーツ施設の整備」(33.1%)、「公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供」(25.9%)が続く。

8. 環境問題について

(1) 一番気になる環境問題

一番気になる環境問題を聞いた結果最も多かったのは、「航空機騒音」(46.4%)であった。「不法投棄」、「地球温暖化」が今回から調査項目に加わった影響で、比率が低くなったと考えられる。

住まいの地域別にみると、「航空機騒音」は、新田宿・四ツ谷、座間を除くすべての住まいの地域で1位であった。

(2) 環境のため今後とも気を付けて実行したいこと

環境のため今後とも気を付けて実行したいことを聞いた結果最も多かったのは、「電気や水道水の無駄づかいをしない」(74.7%)であった。次いで、「ごみの分別の徹底」(68.6%)、「家庭内のごみの減量化」(64.1%)が続く。

過去の調査と比較すると、「電気や水道水の無駄づかいをしない」が年々増加している傾向がみられる。

9. 防災について

(1) 地震や火災に備えてとっている対策

地震や火災に備えてとっている対策を聞いた結果多かったのは、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(40.9%)、「飲料水や食料を準備している」(36.2%)であった。「特に何もしていない」(24.2%)も前回よりもやや低くなっているが、全体的にみるとまだ高い。

過去の調査と比較すると、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」、「飲料水や食料を準備している」、「家具を固定している」の項目は年々比率が高くなっている。

(2) 防災対策として力を入れるべき施策

防災対策として力を入れるべき施策を聞いた結果最も多かったのは、「正確な情報を伝達する体制づくり」(34.7%)であった。

過去の調査と比較すると、「正確な情報を伝達する体制づくり」は、年々減少傾向にあり、反対に「飲料水、食料などの確保」は増加傾向にある。「正確な情報を伝達する体制づくり」、「飲料水、食料などの確保」、「市民の防災意識の高揚」の順で比率が高いということに変わりはない。

10. 都市景観・都市環境について

(1) 良好な都市景観、都市環境を形成するのに必要なこと

良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なことを聞いた結果最も多かったのは、「緑地の保全」(47.8%)であった。次いで、「建築物の高さ規制の導入」(17.9%)、「身近な地区を対象としたルールづくり」(9.4%)、「並木の創出」(7.7%)が続く。

(2) 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方を聞いた結果最も多かったのは、「大変気になる」(49.7%)であった。次いで、「気になる」(33.7%)、「どちらともいえない」(9.1%)、「全く気にならない」(5.5%)が続く。80%以上が「気になる」と回答している。

(3) 中高層建築物の具体的問題点

中高層建築物の具体的な問題点を聞いた結果最も多かったのは、「日照」(86.3%)であった。次いで、「圧迫感」(55.2%)、「電波障害」(42.9%)、「周辺との不調和」(32.2%)、「風害」(30.4%)が続く。

(4) 建築物の高さ制限の必要性について

建築物の高さ制限の必要性について聞いた結果最も多かったのは、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要なため」(61.6%)であった。次いで、「どちらともいえない」(18.0%)、「わからない」(10.4%)、「現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない」(6.6%)が続く。

11. 男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

「男は仕事、女は家庭」といった考えについて聞いた結果最も多かったのは、「どちらかといえば反対」(31.7%)であった。次いで、「反対」(26.3%)、「どちらかといえば賛成」(21.9%)、「わからない」(13.1%)、「賛成」(5.3%)が続く。「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた「反対派」は過半数を超える。すべての性別・年齢で、「反対派」が「賛成派」を上回っている。

(2) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由

「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由を聞いた結果最も多かったのは、「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」(32.7%)であった。

過去の調査結果と比較すると、「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」、「仕事をもつことは当たり前のことだから」は前回(平成16年)の調査より比率が低くなっている。反対に「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」は前回(平成16年)の調査より比率が高くなっている。

(3) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由

「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由を聞いた結果最も多かったのは、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」(60.2%)であった。

過去の調査結果と比較すると、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」は前回(平成16年)調査より大幅に比率が高くなっている。反対に「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」は前回(平成16年)調査より比率が低くなっているのが目立つ。

(4) 女性が仕事を持つことにおいて望ましいこと

女性が仕事を持つことにおいて望ましいことを聞いた結果最も多かったのは、「夫の収入によって答えは変わる」(25.5%)であった。次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(25.0%)、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」(17.0%)、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」(15.8%)、「結婚するまでは仕事をもつが、結婚後はもたない」(5.9%)が続く。

(5) 男性の育児休業制度取得を促す方法

男性の育児休業制度取得を促す方法を聞いた結果最も多かったのは、「職場での理解が得られるようにする」(54.3%)であった。次いで、「育児休業を利用しても収入減にならない制度の策定」(35.9%)、「男性が育児に参加することに対する周囲の偏見をなくす」(27.5%)、「後々、待遇面で不利にならないようにする」(25.0%)、「育児は女性の役割であるという意識をなくす」(16.7%)が続く。職場での育児休業制度の整備や理解が重要なポイントとなっている。

(6) 家族の介護は誰が行うべきか

家族の介護は誰が行うべきかを聞いた結果最も多かったのは、「男女にかかわらず家族が担うべき」(58.2%)であった。次いで、「ホームヘルパーや施設入所などの福祉サービスを利用すべき」(31.3%)、「基本的に女性が担うべき」(1.6%)、「基本的に男性が担うべき」(0.2%)が続く。

(7) 地域活動のリーダーに女性が少ない理由

地域活動のリーダーに女性が少ない理由を聞いた結果最も多かったのは、「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」(37.5%)であった。次いで、「リーダーにふさわしい人を選んだ場合、男性になっている場合が多いから」(32.4%)、「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」(30.7%)、「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」(15.9%)、「女性がリーダーになるところよく思われぬ、でしゃばり、目立ちたがりと言われるから」(13.1%)、「女性では、相手に軽く見られるから」(11.5%)が続く。

(8) ドメスティック・バイオレンスの相談窓口の設置に対する認知度

ドメスティック・バイオレンスの相談窓口の設置に対する認知度を聞いた結果最も多かったのは、「知らない」(67.3%)であった。次いで、「知っている」(16.0%)、「聞いたことがある」(14.8%)が続く。70%近くが「知らない」と回答していることから、ドメスティック・バイオレンスの相談窓口の認知度は低い。

(9) パートナー（配偶者・恋人）からされたドメスティック・バイオレンスの経験

パートナー（配偶者、恋人）からされたドメスティックバイオレンスの経験を聞いた結果最も多かったのは、身体的暴力、心理的暴力、性的暴力のどの項目でも「まったくない」であった。次いで、「1、2度あった」、「何度もあった」が続く。心理的暴力を受けた経験がある人の比率が他と比べて高い。

性別にみると、男性よりも女性の方が被害にあっている比率が高い。

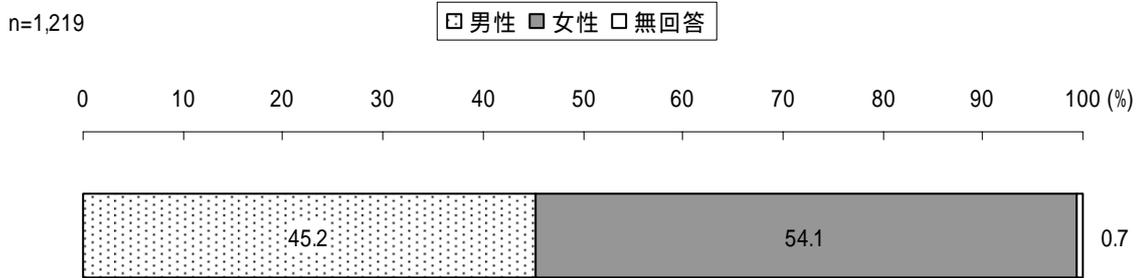
(10) 男女共同参画社会を実現していくための施策

男女共同参画社会を実現していくための施策を聞いた結果最も多かったのは、「育児や介護に関するサービスの充実」(54.6%)であった。次いで、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」(30.1%)、「就労条件の改善等についての企業への啓発」(30.1%)、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」(27.7%)、「職場における男女の平等な扱いについての企業等への周知徹底」(25.3%)、「政治・経済・社会など、あらゆる分野へ参画し、意思決定できるような女性の人材育成」(18.7%)が続く。

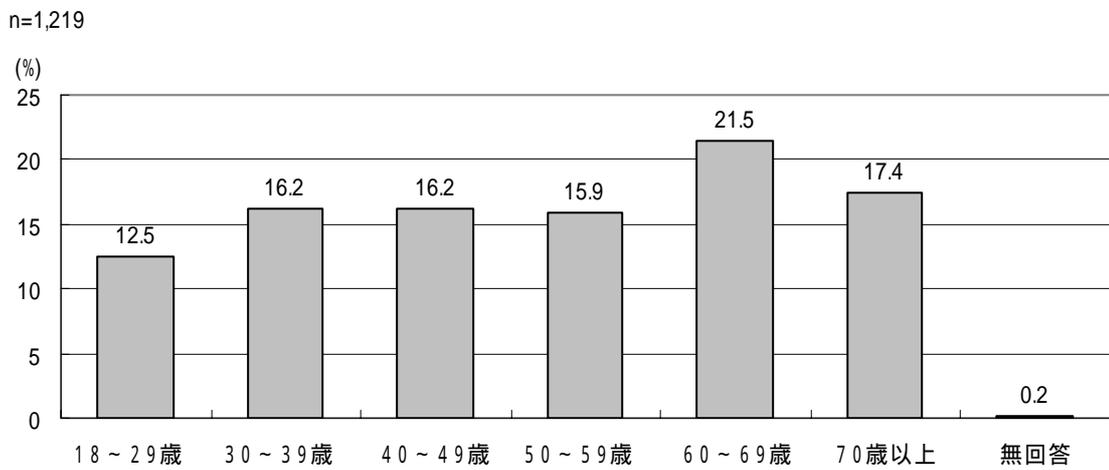
Ⅲ. 調査結果

1. 回答者の基本属性

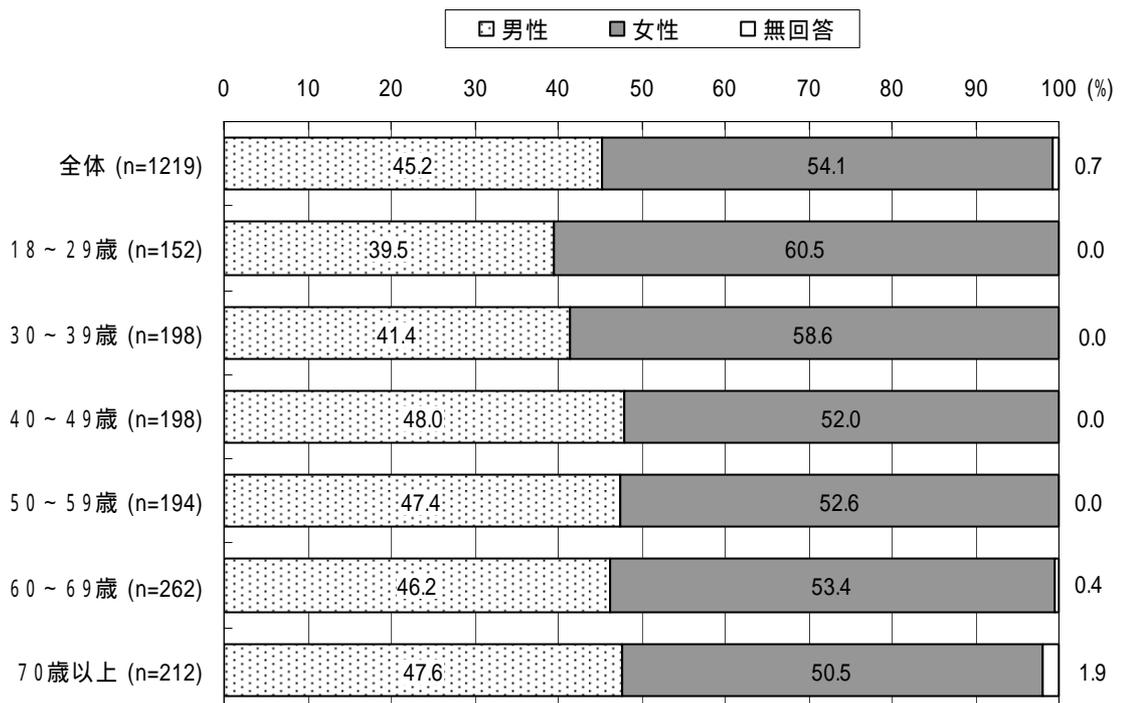
(1) 性別



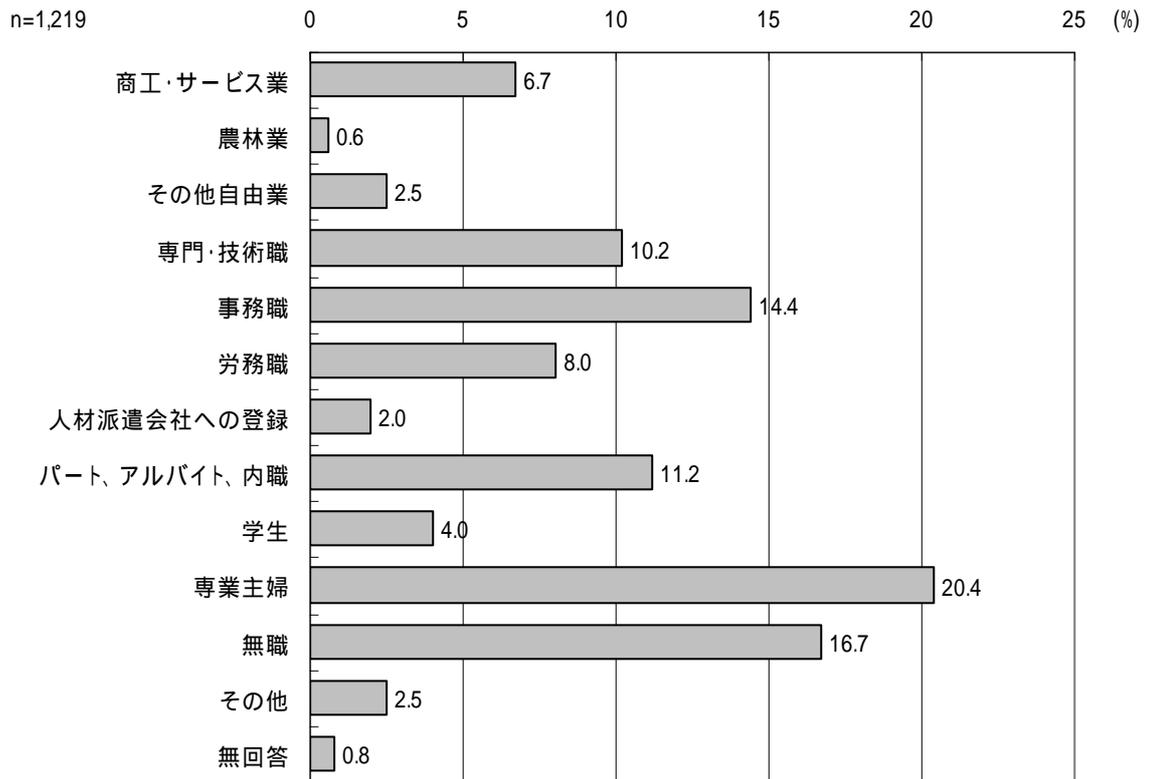
(2) 年齢



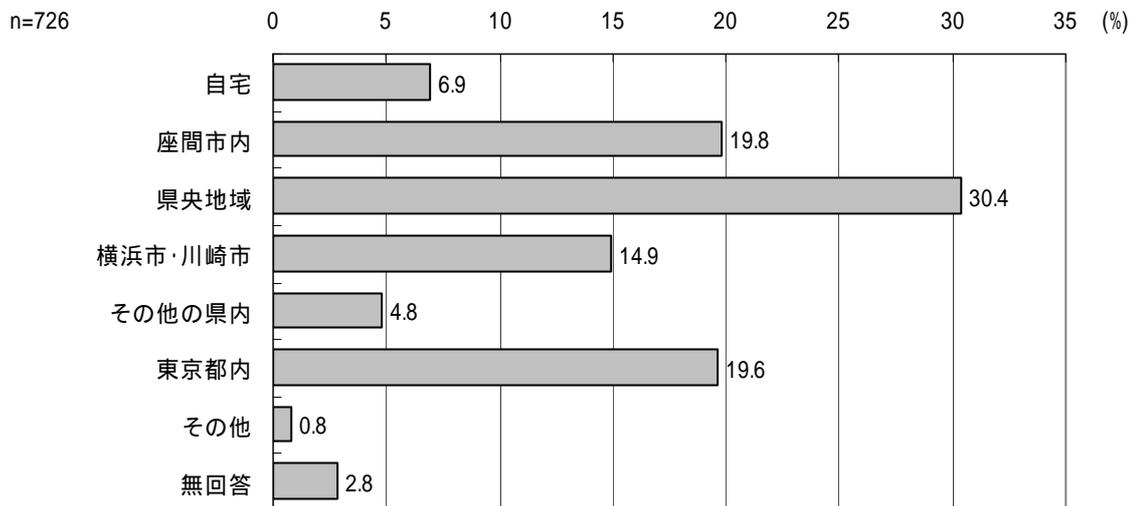
【年齢別】性別



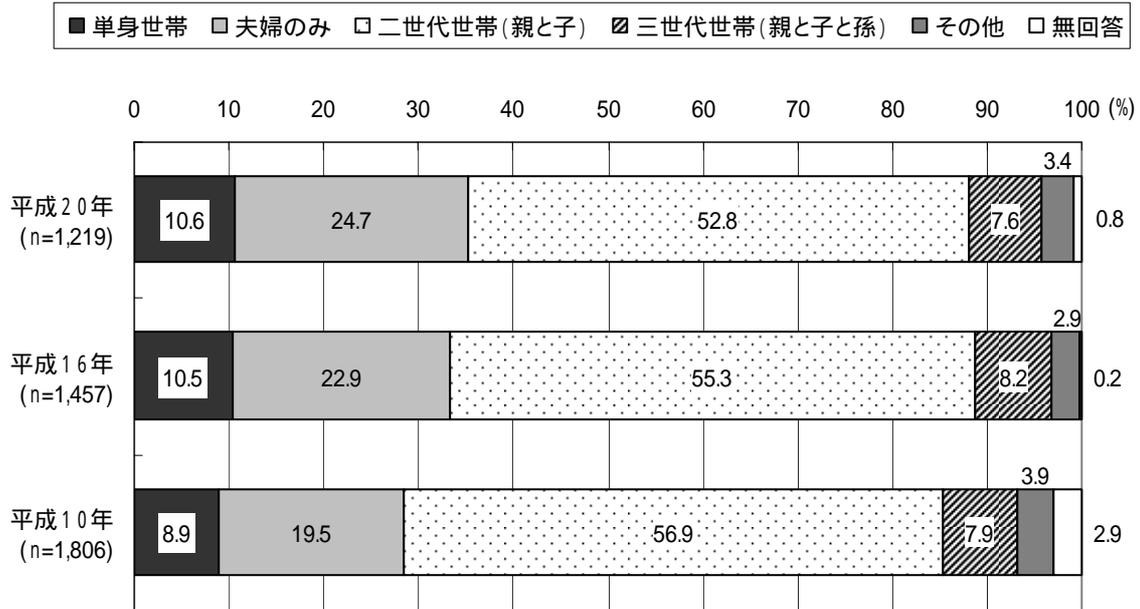
(3) 職業



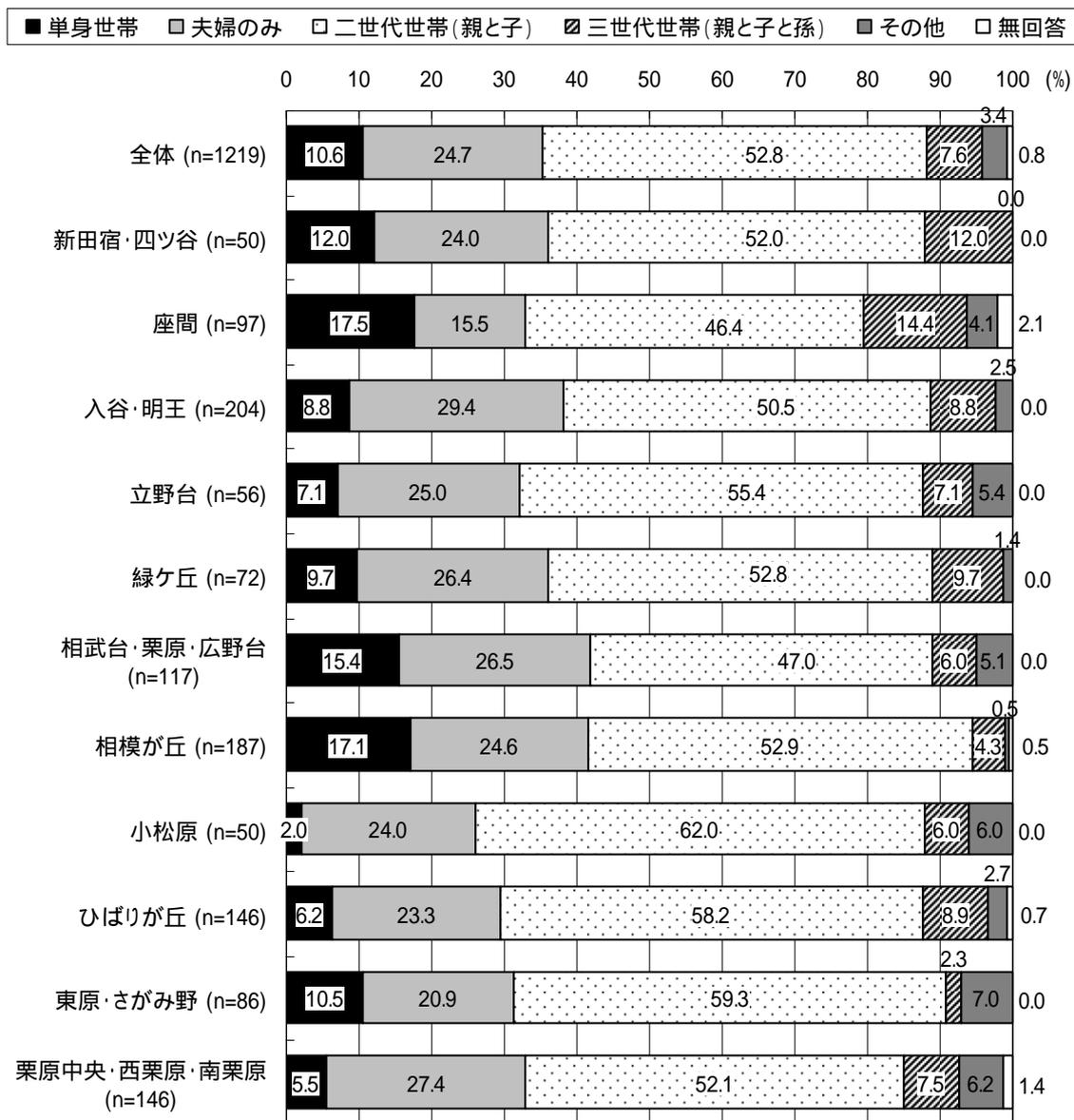
(4) 勤務地(通学地)



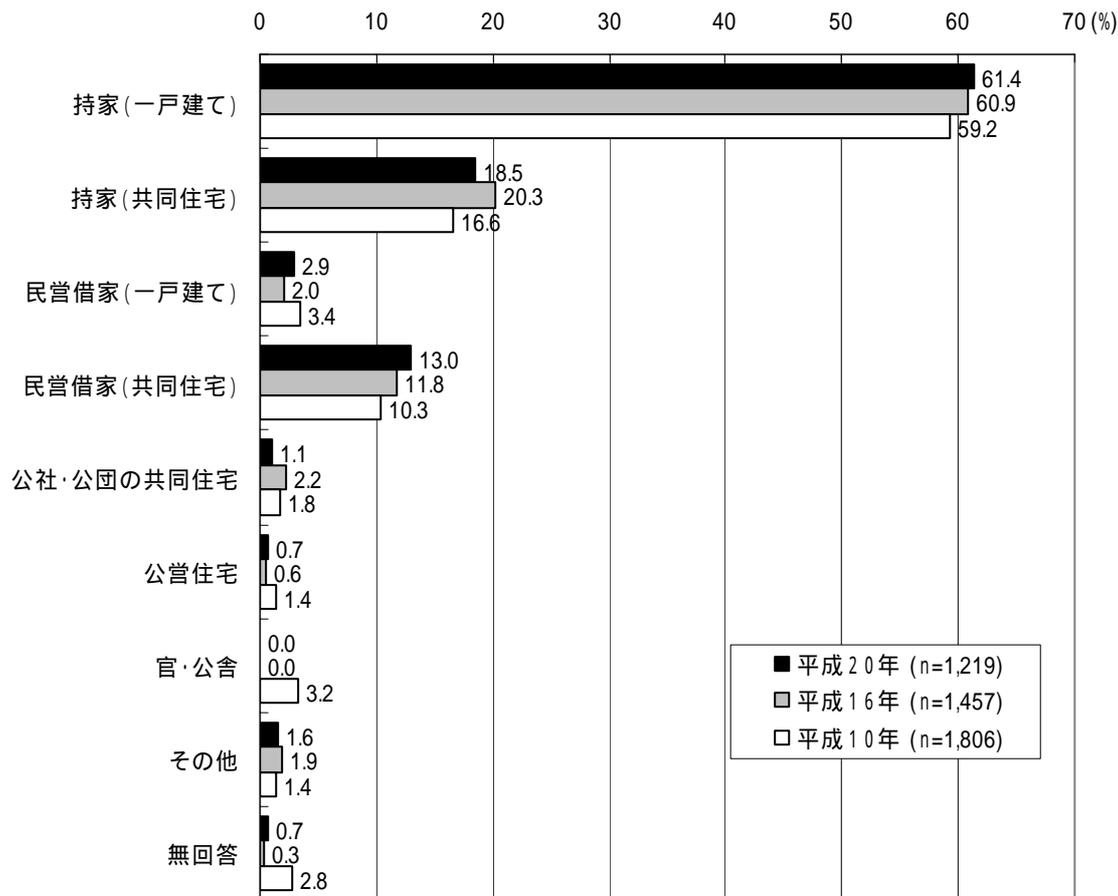
(5) 同居の家族構成



【住まいの地域別】同居家族の構成



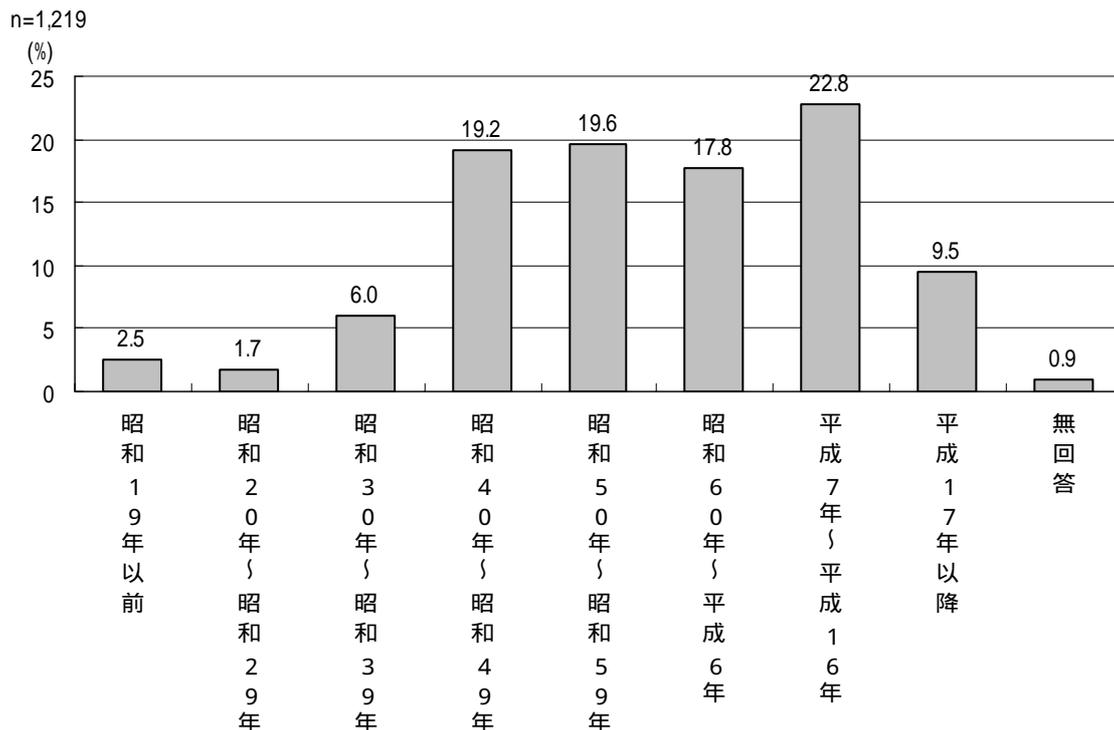
(6) 住まいの形態



【住まいの地域別】住まいの形態

	%	全体 (実数)	持家 (一戸建て)	持家 (共同住宅)	民営借家 (一戸建て)	民営借家 (共同住宅)	公社・公団の 共同住宅	公営住宅	官・公舎	その他	無回答
全体		1219	61.4	18.5	2.9	13.0	1.1	0.7	-	1.6	0.7
住まいの地域	新田宿・四ツ谷	50	66.0	-	8.0	24.0	-	-	-	2.0	-
	座間	97	64.9	8.2	4.1	15.5	2.1	2.1	-	3.1	-
	入谷・明王	204	59.8	26.0	1.5	9.8	-	-	-	2.9	-
	立野台	56	91.1	-	3.6	3.6	-	1.8	-	-	-
	緑ヶ丘	72	70.8	4.2	1.4	22.2	-	-	-	-	1.4
	相武台・栗原・広野台	117	48.7	24.8	2.6	18.8	0.9	2.6	-	1.7	-
	相模が丘	187	50.8	29.9	2.1	16.0	-	-	-	1.1	-
	小松原	50	48.0	44.0	-	6.0	-	-	-	-	2.0
	ひばりが丘	146	63.0	23.3	4.1	6.2	2.1	-	-	-	1.4
	東原・さがみ野	86	46.5	14.0	4.7	19.8	9.3	2.3	-	3.5	-
	栗原中央・西栗原・南栗原	146	80.1	5.5	2.7	8.9	-	-	-	2.1	0.7
	無回答	8	37.5	12.5	-	-	-	-	-	-	50.0

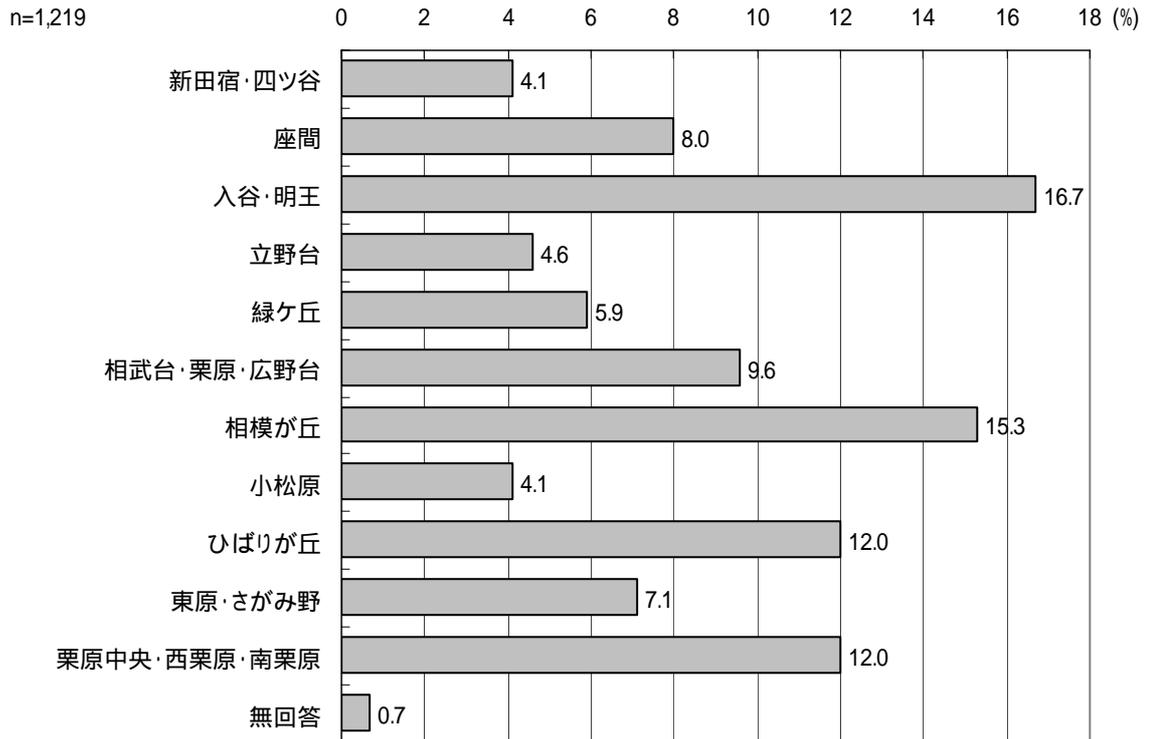
(7) 在住年数



【住まいの地域別】在住年数

	%	全体 (実数)	昭和19年以前		昭和20年〜昭和29年		昭和30年〜昭和39年		昭和40年〜昭和49年		昭和50年〜昭和59年		昭和60年〜平成6年		平成7年〜平成16年		平成17年以降		無回答
全体		1219	2.5	1.7	6.0	19.2	19.6	17.8	22.8	9.5	0.9								
住まいの地域	新田宿・四ツ谷	50	2.0	6.0	10.0	10.0	12.0	20.0	28.0	12.0	-								
	座間	97	2.1	6.2	9.3	16.5	14.4	16.5	19.6	12.4	3.1								
	入谷・明王	204	4.4	2.5	5.9	14.2	23.5	21.6	17.2	10.3	0.5								
	立野台	56	-	-	5.4	17.9	39.3	12.5	19.6	5.4	-								
	緑ヶ丘	72	1.4	-	11.1	26.4	9.7	19.4	23.6	8.3	-								
	相武台・栗原・広野台	117	6.0	1.7	7.7	15.4	17.9	14.5	25.6	10.3	0.9								
	相模が丘	187	-	-	6.4	22.5	18.2	12.8	29.4	10.7	-								
	小松原	50	4.0	-	2.0	12.0	16.0	34.0	20.0	12.0	-								
	ひばりが丘	146	0.7	1.4	0.7	26.0	21.9	17.8	24.7	6.8	-								
	東原・さがみ野	86	-	2.3	3.5	19.8	17.4	22.1	24.4	10.5	-								
	栗原中央・西栗原・南栗原	146	4.8	0.7	6.8	23.3	21.2	14.4	20.5	7.5	0.7								
	無回答	8	-	-	-	-	-	12.5	25.0	-	-	62.5							

(8) 住まいの地域

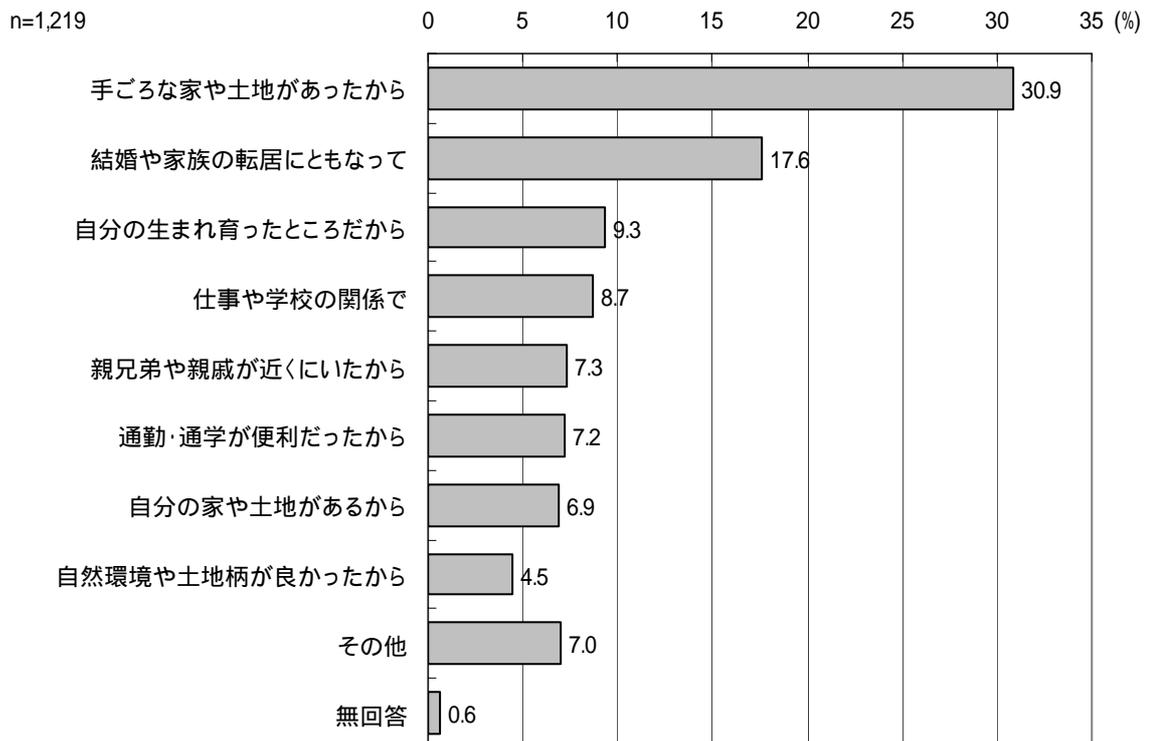


2. 生活環境について

(1) 座間市に住んだ理由

問1 あなたが座間市にお住まいになった主な理由は何ですか。
【一つだけ選んでください。】

座間市に住んだ理由を聞いた結果最も多かったのは、「手ごろな家や土地があったから」(30.9%)であった。次いで、「結婚や家族の転居にともなって」(17.6%)、「自分の生まれ育ったところだから」(9.3%)、「仕事や学校の関係で」(8.7%)が続く。

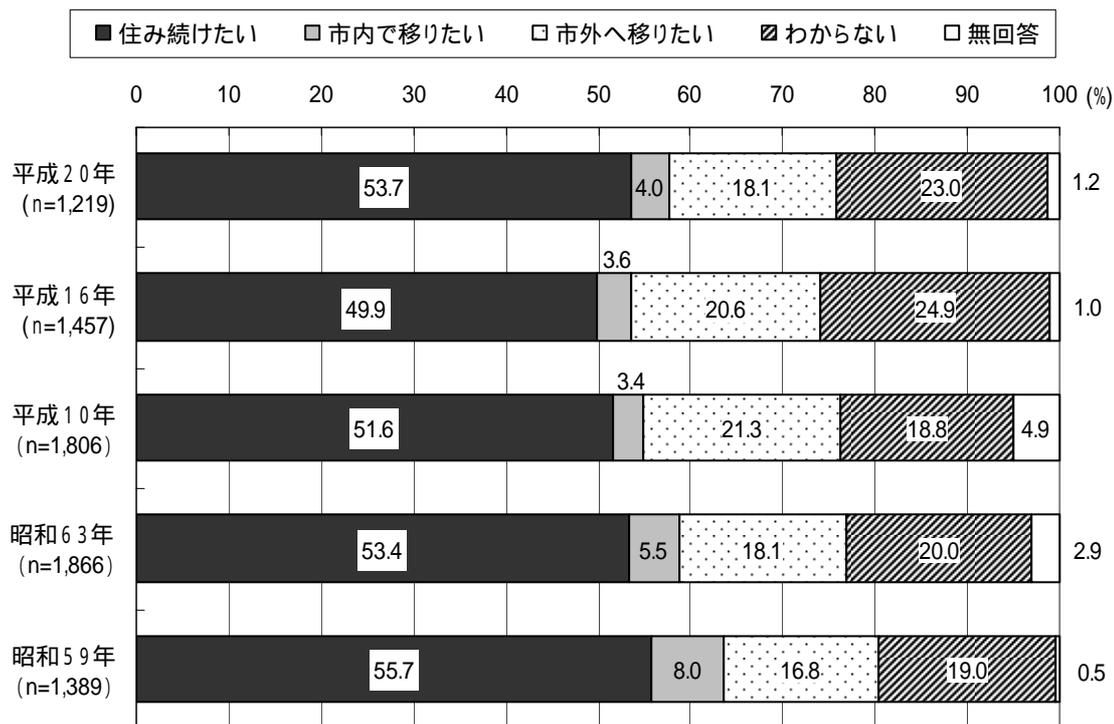


(2) 定住意識

問2 あなたは、これからも今の場所に住み続けたいと思いますか。それとも他へ移りたいと思いますか。【1つだけ選んでください】

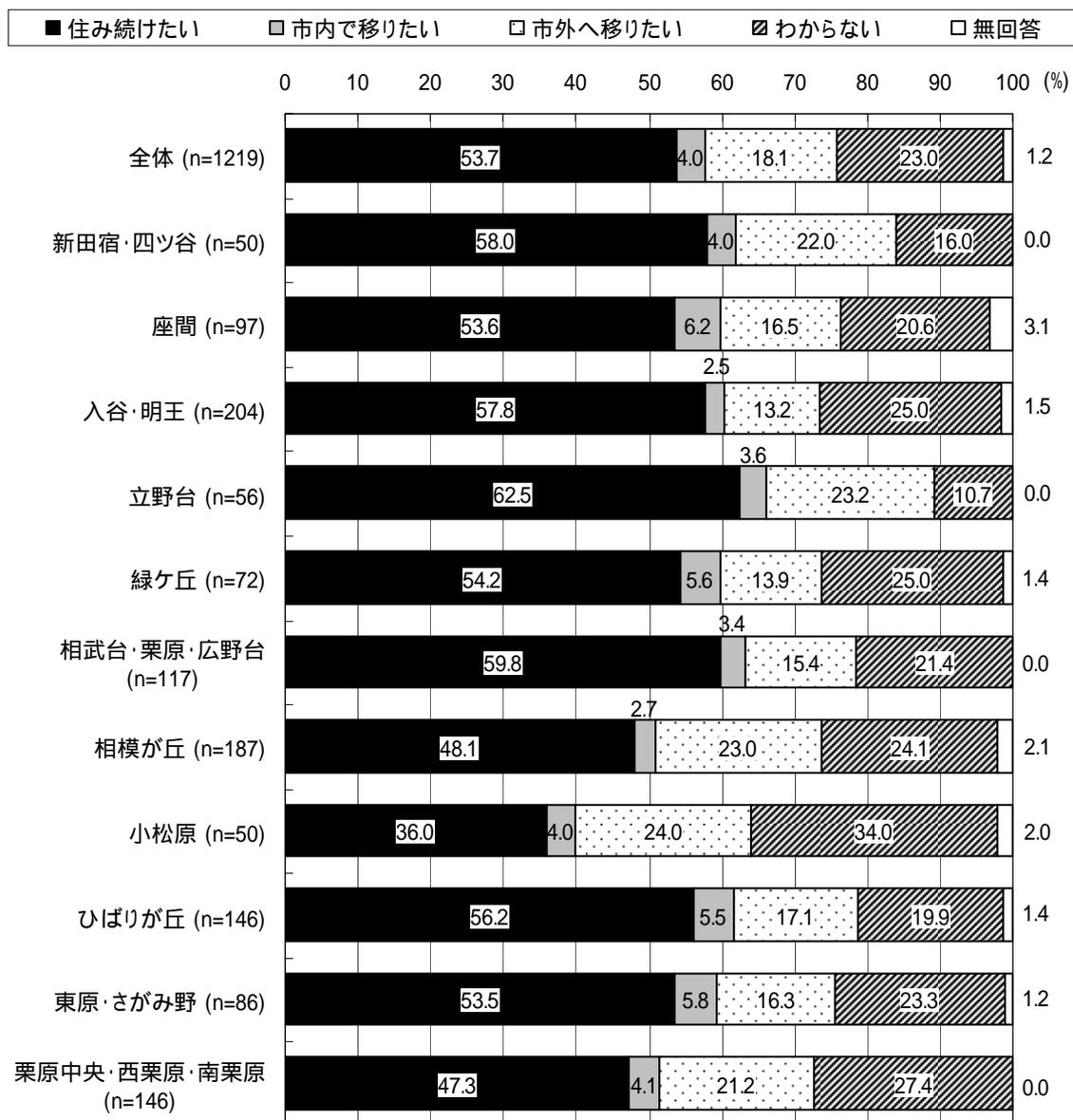
これからも今の場所に住み続けたいかを聞いた結果最も多かったのは、「住み続けたい」(53.7%)であった。次いで、「わからない」(23.0%)、「市外へ移りたい」(18.1%)、「市内で移りたい」(4.0%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「住み続けたい」は減少傾向にあったが、今年度の調査では前回の調査よりも 3.8 ポイント増加している。「市内で移りたい」はわずかながら増加しており、「市外へ移りたい」は 2.5 ポイント減少している。



【住まいの地域別】定住意識

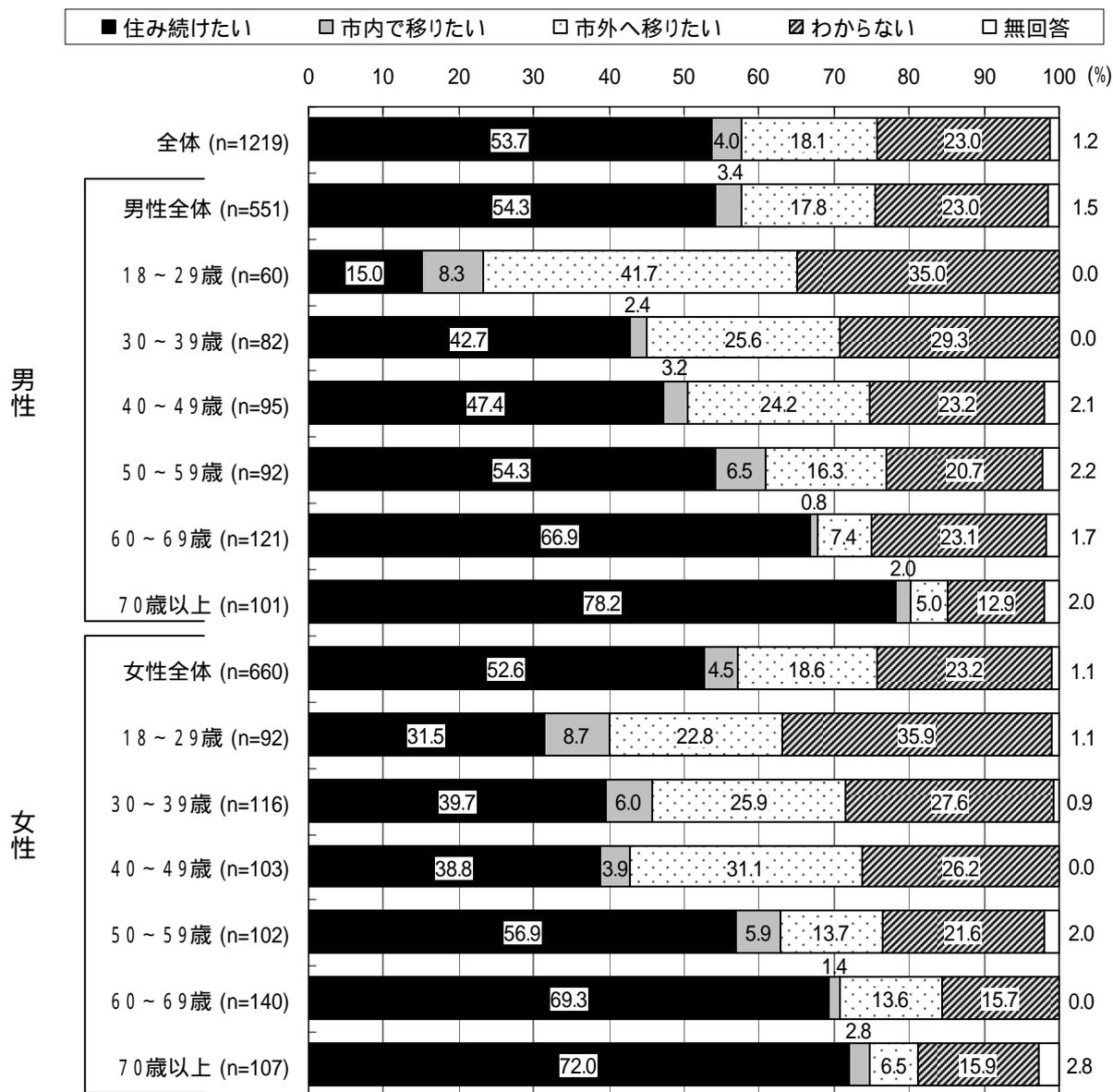
住まいの地域別にみると、「住み続けたい」の比率が高い地域は立野台で、60%以上の比率であった。11地域中8地域で50%を超えている。反対に小松原では36.0%と比率が低いのが目立つ。栗原中央・西栗原・南栗原、相模が丘では40%台と比較的低い比率であった。



【性別・年齢別】定住意識

性別・年齢別にみると、男女とも加齢とともに定住意向が高くなる傾向がみられる。

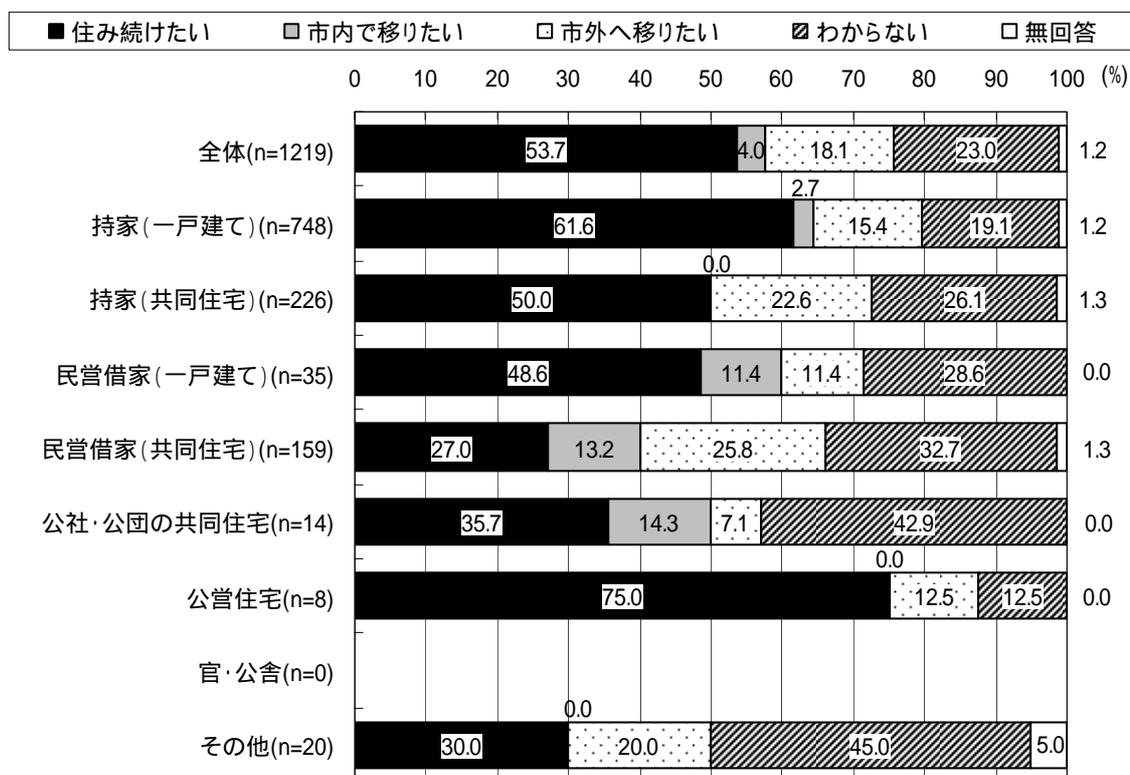
18歳から29歳では「住み続けたい」が男性で 15.0%、女性で 31.5%となっており、この年代の男性の定住意向が極めて低い傾向が見られる。



【住まいの形態別】定住意識

住まいの形態別にみると、持家の方が民間借家よりも「住み続けたい」の比率が高く、定住意識が高い傾向がみられる。また、持家、民間借家ともに、一戸建ての方が共同住宅よりも「住み続けたい」の比率が高く、定住意識が高い傾向がみられる。

公営住宅で「住み続けたい」の比率が 75.0%と高くなっているが、サンプル数が少ないので、参考として示すにとどめる。

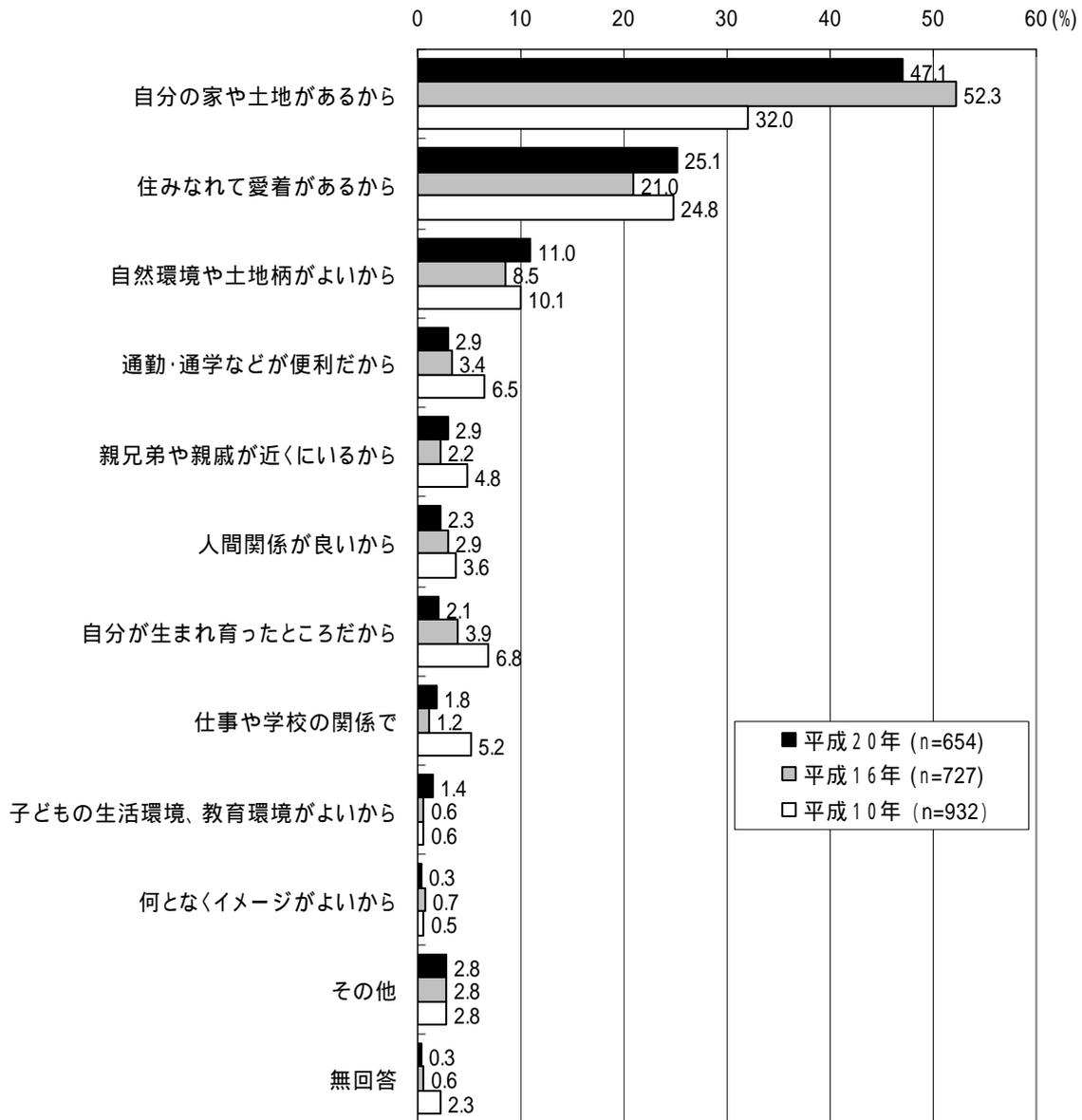


(3) 今の場所に住み続けたい理由

問2 - 1 問2で「1.住み続けたい」とお答えの方にお伺いします。今の場所に住み続けたい理由は何ですか。【1つだけ選んでください】

今の場所に住み続けたい理由を聞いた結果最も多かったのは、「自分の家や土地があるから」(47.1%)であった。次いで、「住みなれて愛着があるから」(25.1%)、「自然環境や土地柄がよいから」(11.0%)、「通勤・通学などが便利だから」(2.9%)、「親兄弟や親戚が近くにいるから」(2.9%)が続く。

過去の調査結果と比較すると「自分の家や土地があるから」の比率が前回よりもやや低くなっている。「通勤・通学などが便利だから」、「人間関係が良いから」、「自分が生まれ育ったところだから」は年々比率が低くなっている傾向がみられる。



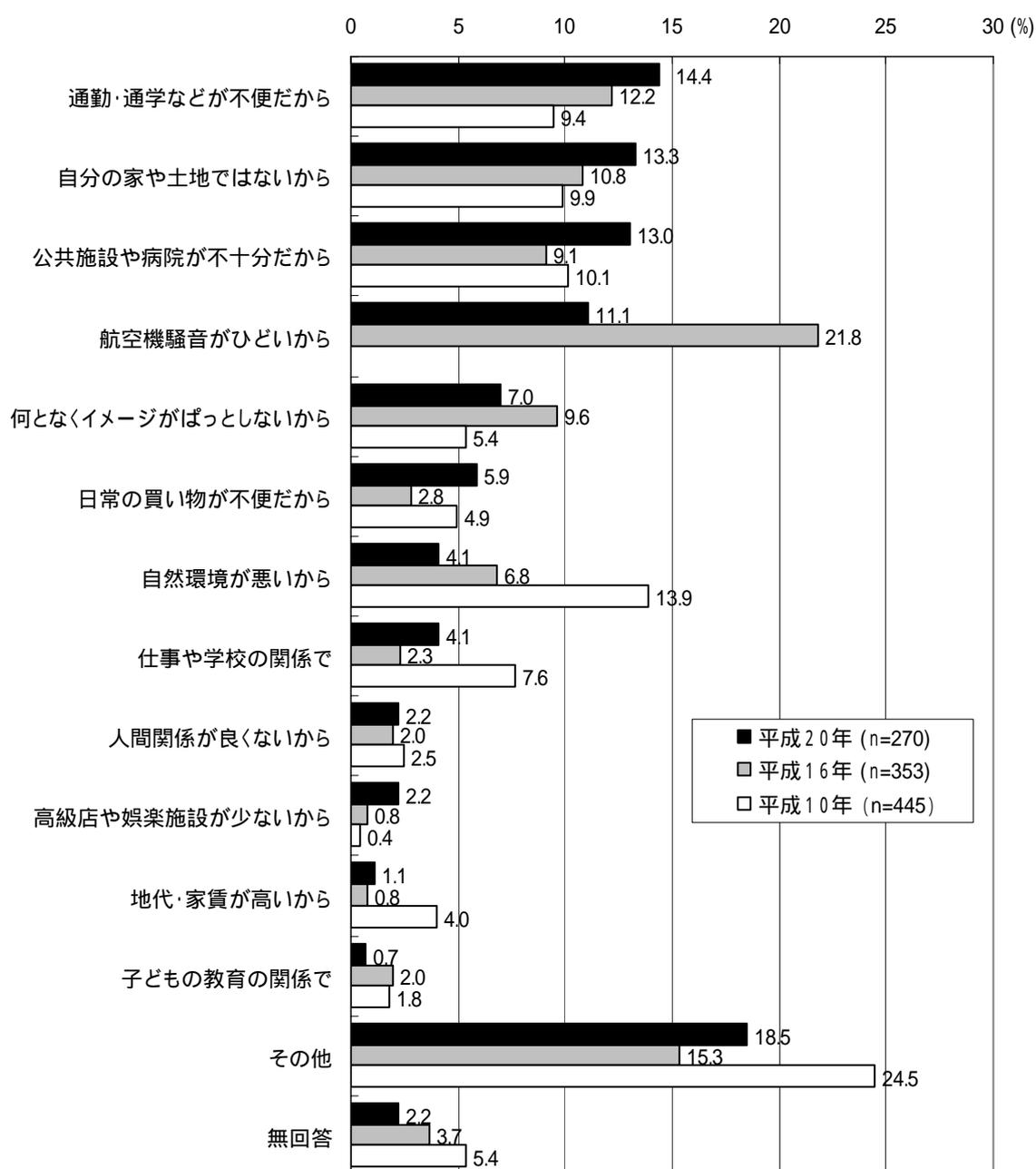
(4) 他のところに移りたい主な理由

問2 - 2 問2で「2.市内で移りたい」または「3.市外へ移りたい」とお答えの方にお伺いします。他のところに移りたい主な理由は何ですか。【1つだけ選んでください】

他のところに移りたい主な理由を聞いた結果最も多かったのは「通勤・通学などが不便だから」(14.4%)であった。次いで、「自分の家や土地ではないから」(13.3%)、「公共施設や病院が不十分だから」(13.0%)、「航空機騒音がひどいから」(11.1%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「通勤・通学などが不便だから」、「自分の家や土地ではないから」、「高級店や娯楽施設が少ないから」は年々増加傾向にある。反対に、「航空機騒音がひどいから」、「自然環境が悪いから」は減少傾向にある。また、前回(平成16年)最も比率が高かった「航空機騒音がひどいから」は今回の調査では第4位となっている。

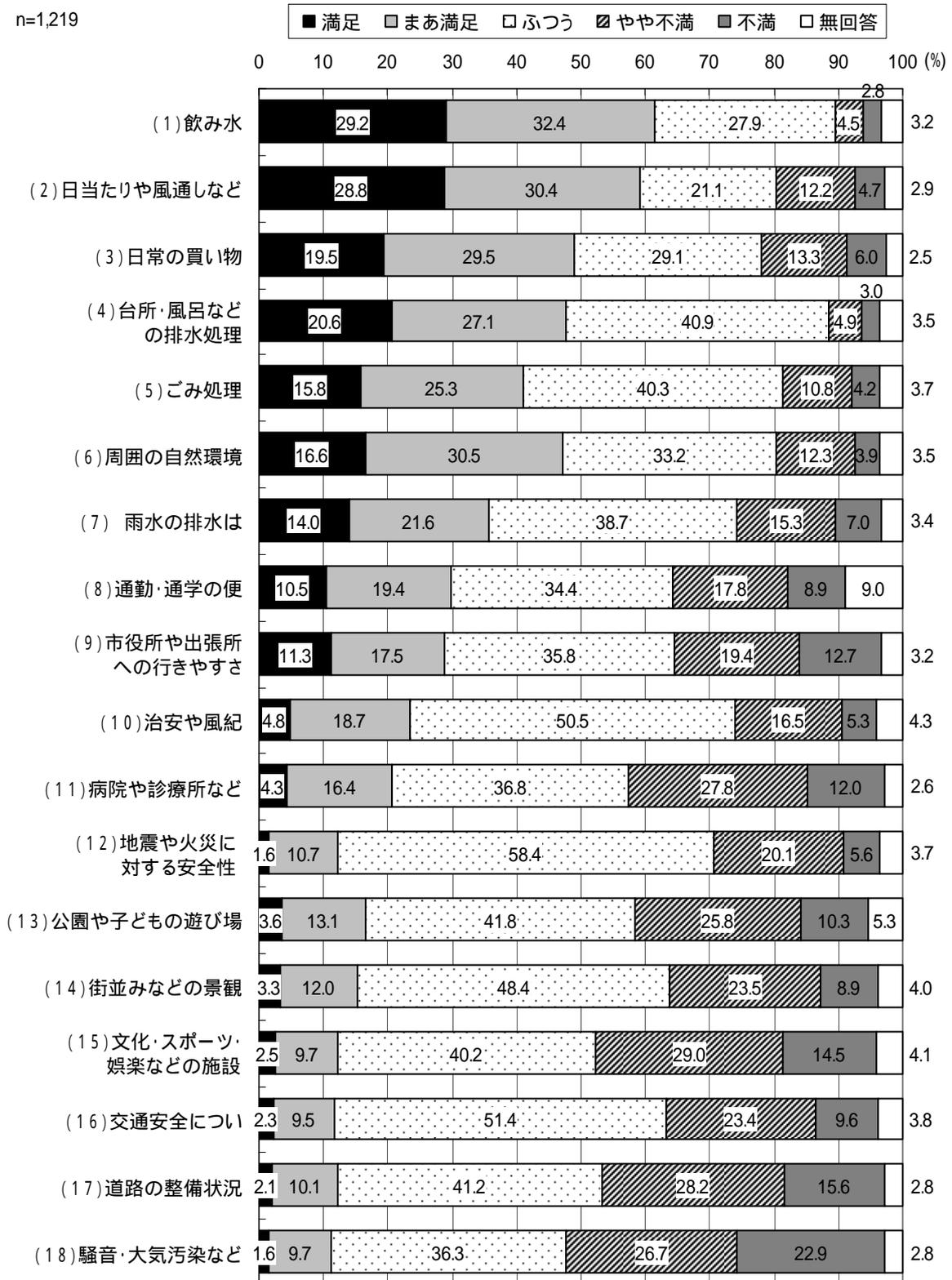
※「航空機騒音がひどいから」については、過去(平成10年)の調査では調査項目となっていないため、データはない。



(5) 住まいの周辺環境についての満足度

周辺環境を下記の 18 項目について評価してもらった結果、「満足」+「まあ満足」-「やや不満」-「不満」の比率で 30%を超える良い評価だった項目は、(1)飲み水、(2)日当たりや風通しなど、(4)台所・風呂などの排水処理、(6)周囲の自然環境の 4 項目であった。反対に-30%を下回る悪い評価だった項目は、(18)騒音・大気汚染など、(17)道路の整備状況、(15)文化・スポーツ・娯楽などの施設の 3 項目であった。

n=1,219

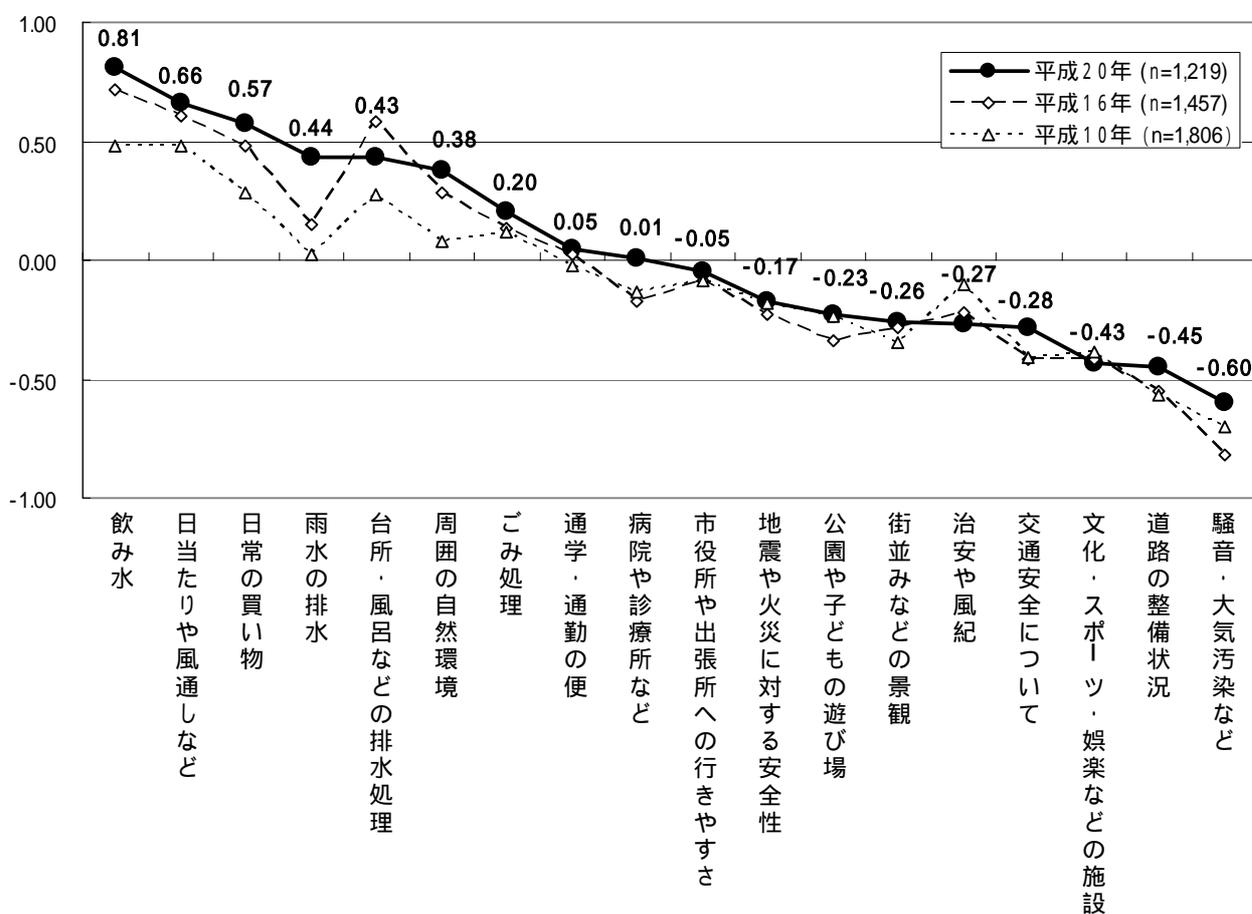


周辺環境を下の評価(加重平均)によって平均点を算出し、今回(平成20年)の調査で平均点の高い順に左から並べて過去の調査と比較したものが下のグラフと表である。

$$\text{平均点} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあ満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

今回(平成20年)の調査で平均点が高かった項目は、「飲み水」、「日当たりや風通しなど」、「日常の買い物」などで、低かった項目は、「騒音・大気汚染など」、「道路の整備状況」、「文化・スポーツ・娯楽などの施設」などであった。

過去の調査結果と平均点を比較すると、「飲み水」、「日当たりや風通しなど」、「日常の買い物」、「雨水の排水」の上位4項目で今回(平成20年)が最も平均点が高くなっている。反対に平均点が低かったのは、「治安や風紀」であった。

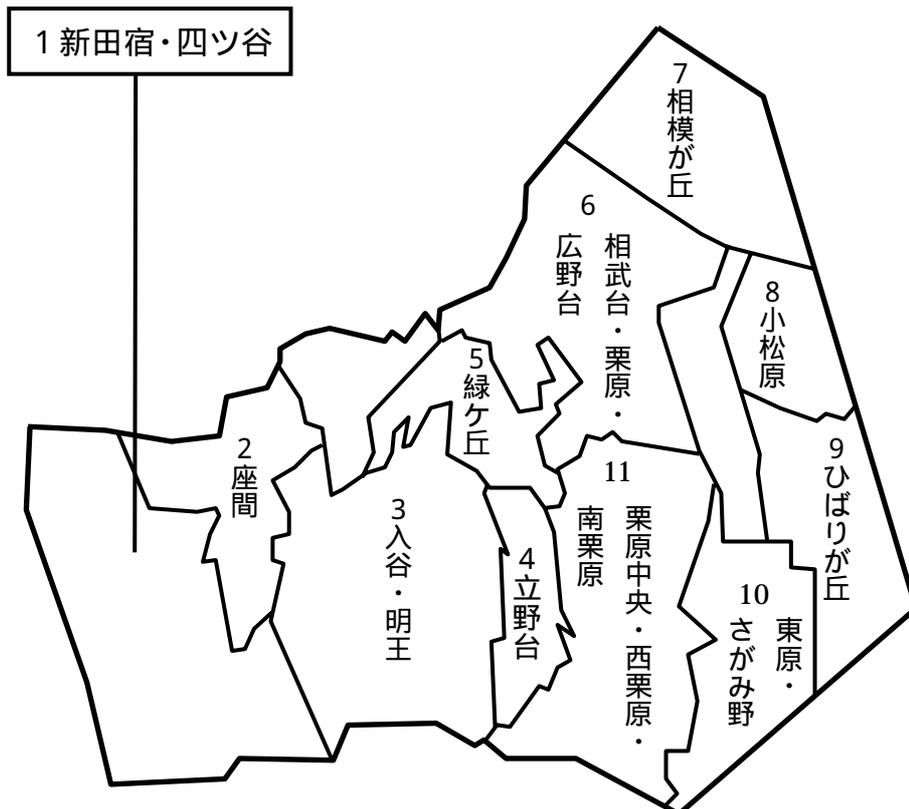
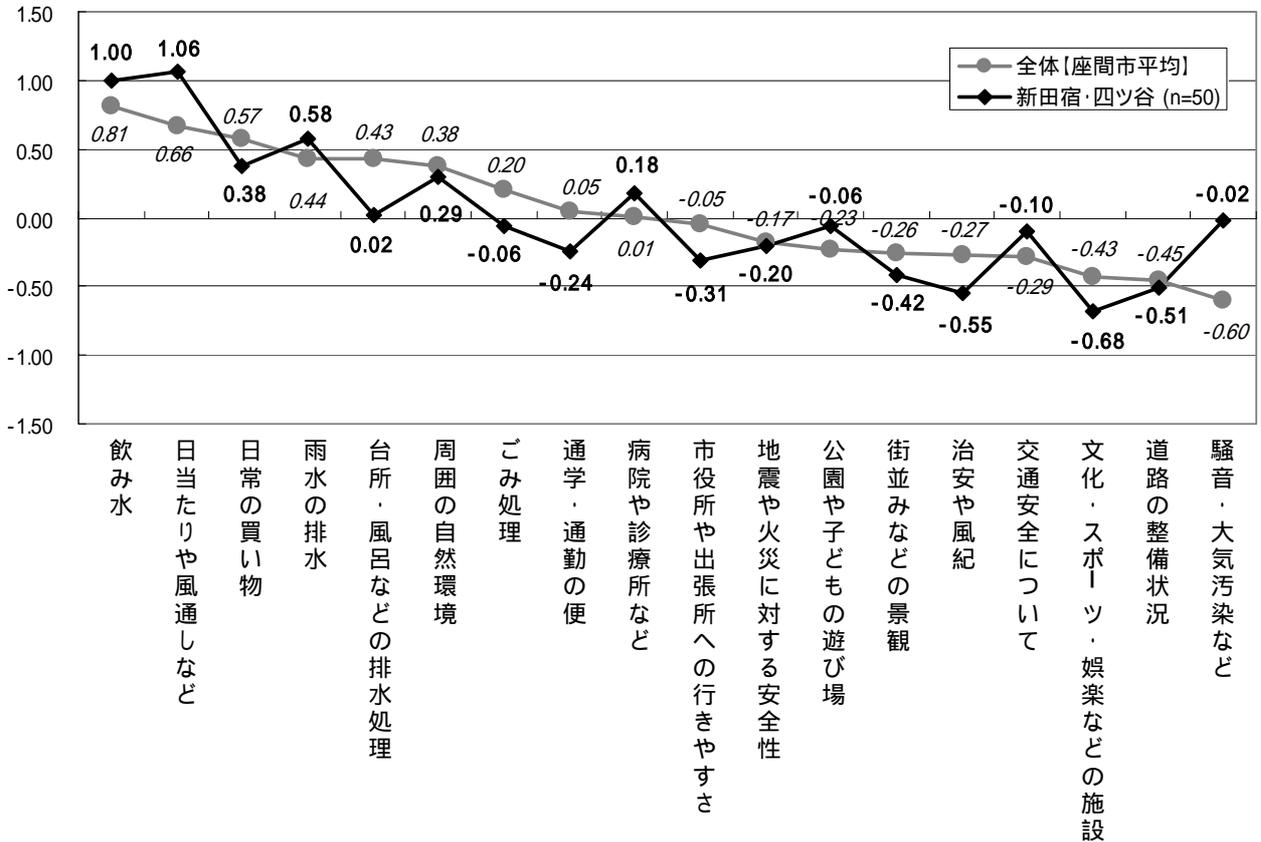


調査項目	飲み水	日当たりや風通しなど	日常の買い物	雨水の排水	台所・風呂などの排水処理	周囲の自然環境	ごみ処理	通学・通勤の便	病院や診療所など	市役所や出張所への行きやすさ	地震や火災に対する安全性	公園や子どもの遊び場	街並みなどの景観	治安や風紀	交通安全について	文化・スポーツ・娯楽などの施設	道路の整備状況	騒音・大気汚染など
平成20年 (n=1,219)	0.81	0.66	0.57	0.44	0.43	0.38	0.20	0.05	0.01	-0.05	-0.17	-0.23	-0.26	-0.27	-0.28	-0.43	-0.45	-0.60
平成16年 (n=1,457)	0.72	0.61	0.48	0.15	0.58	0.28	0.13	0.02	-0.17	-0.09	-0.23	-0.34	-0.28	-0.22	-0.42	-0.42	-0.55	-0.82
平成10年 (n=1,806)	0.48	0.48	0.28	0.02	0.27	0.08	0.12	-0.02	-0.14	-0.08	-0.18	-0.24	-0.35	-0.10	-0.41	-0.39	-0.57	-0.70

今回(平成20年)の調査の平均点を各住まいの地域(11地域)別にみると、以下ようになる。

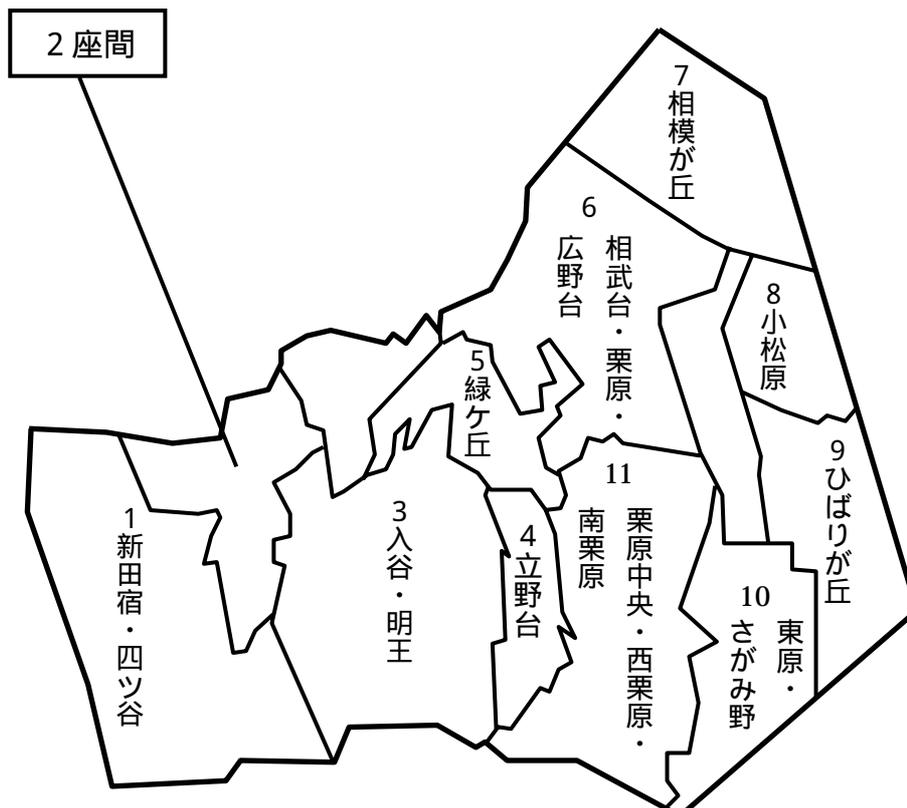
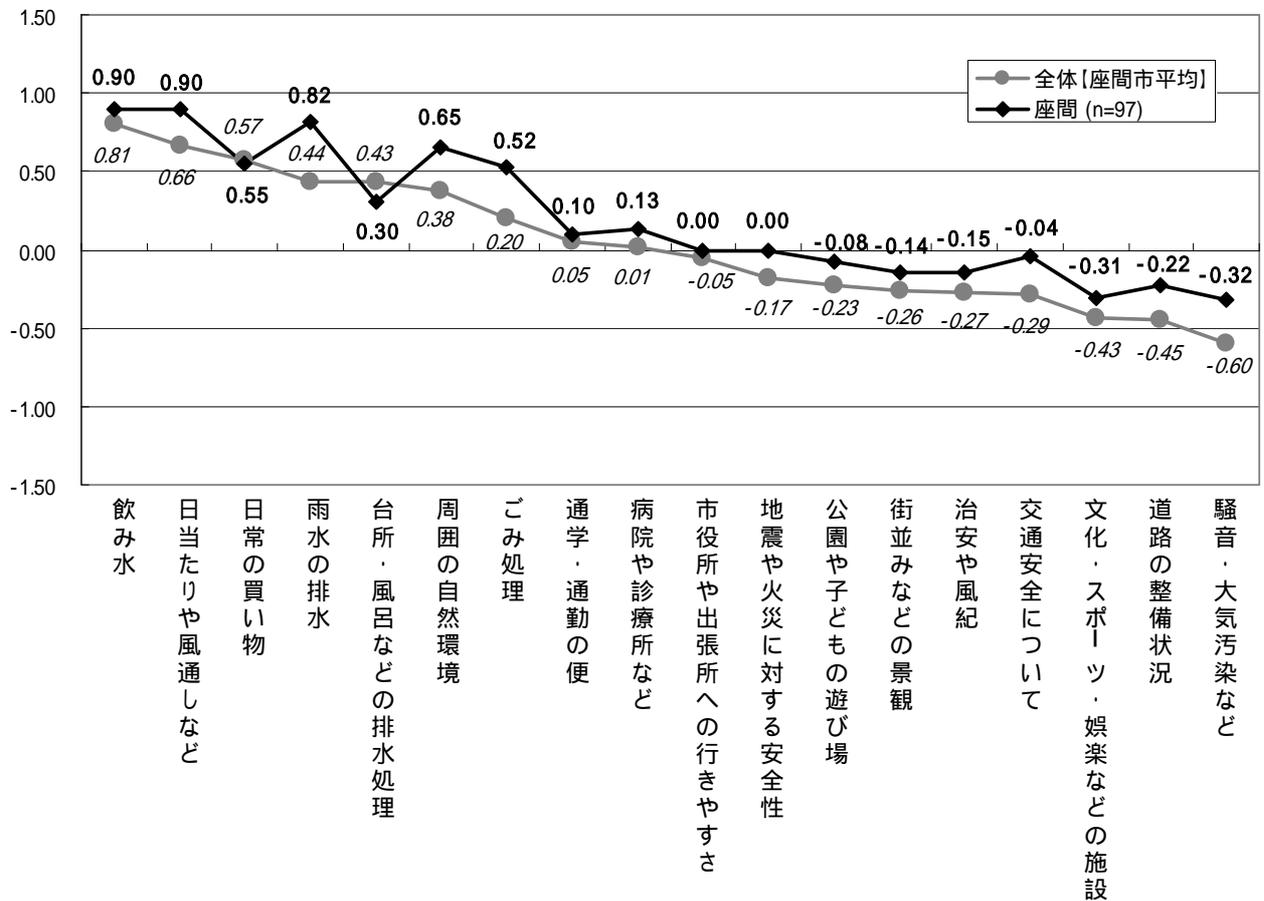
1 新田宿・四ツ谷地区

新田宿・四ツ谷地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「日当たりや風通しなど」、「飲み水」、「雨水の排水」、「騒音・大気汚染など」などで、評価が低かったのは「台所・風呂などの排水処理」、「通勤・通学の便」、「市役所や出張所への行きやすさ」などであった。



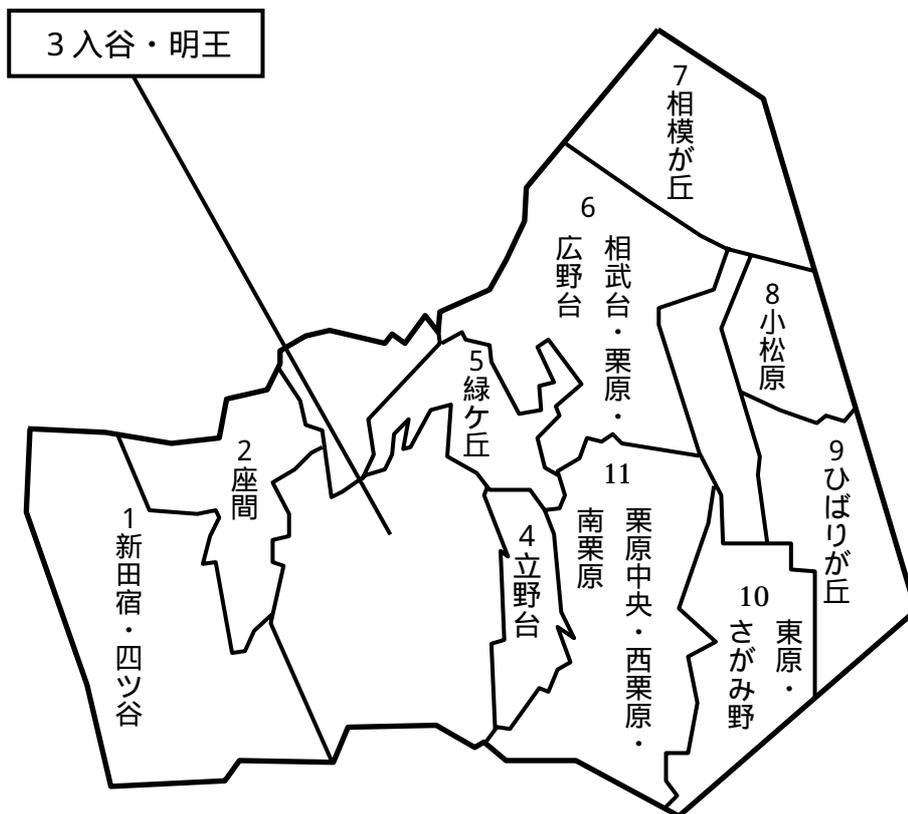
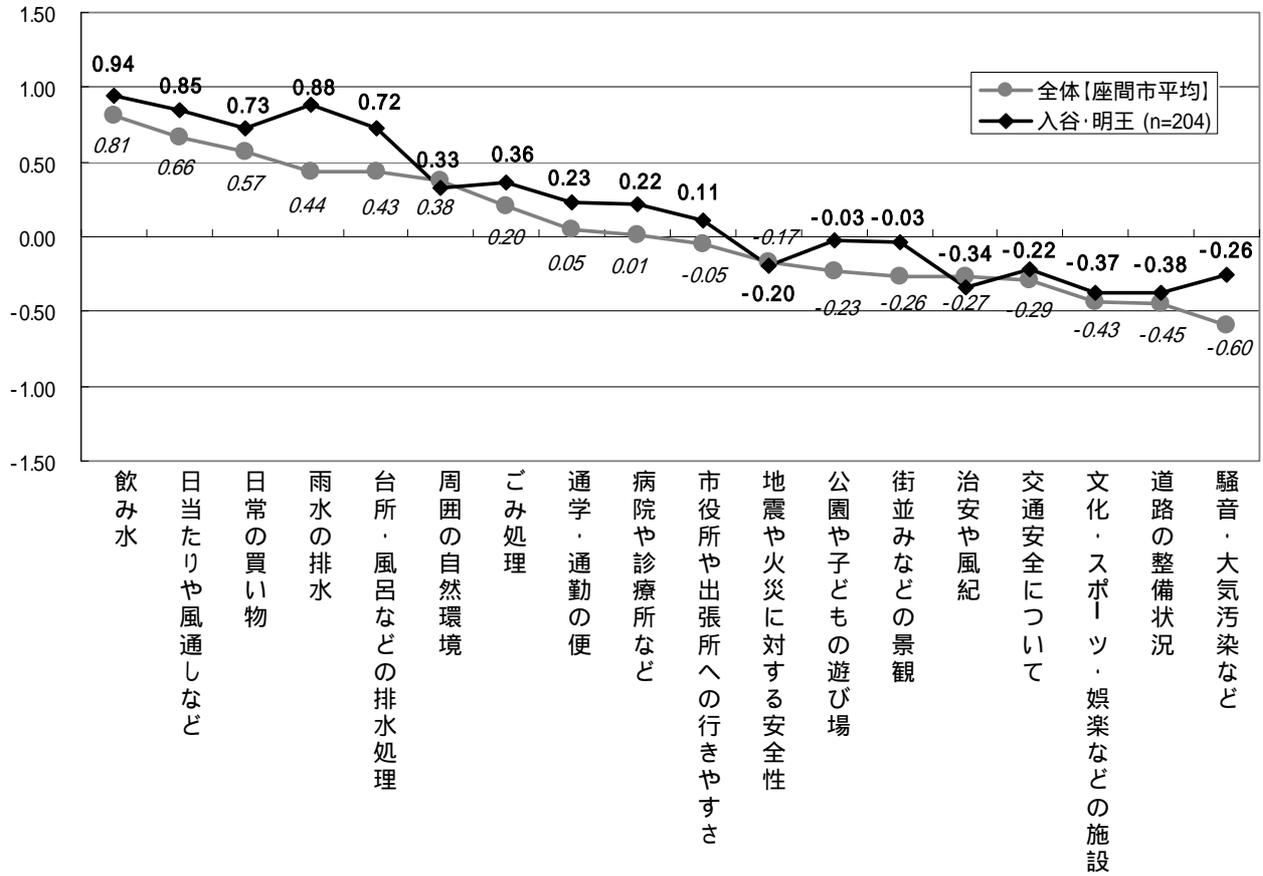
2 座間地区

座間地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「雨水の排水」、「日当たりや風通しなど」、「周囲の自然環境」、「ごみ処理」などで、評価が低かったのは「台所・風呂などの排水処理」、「日常の買い物」であった。



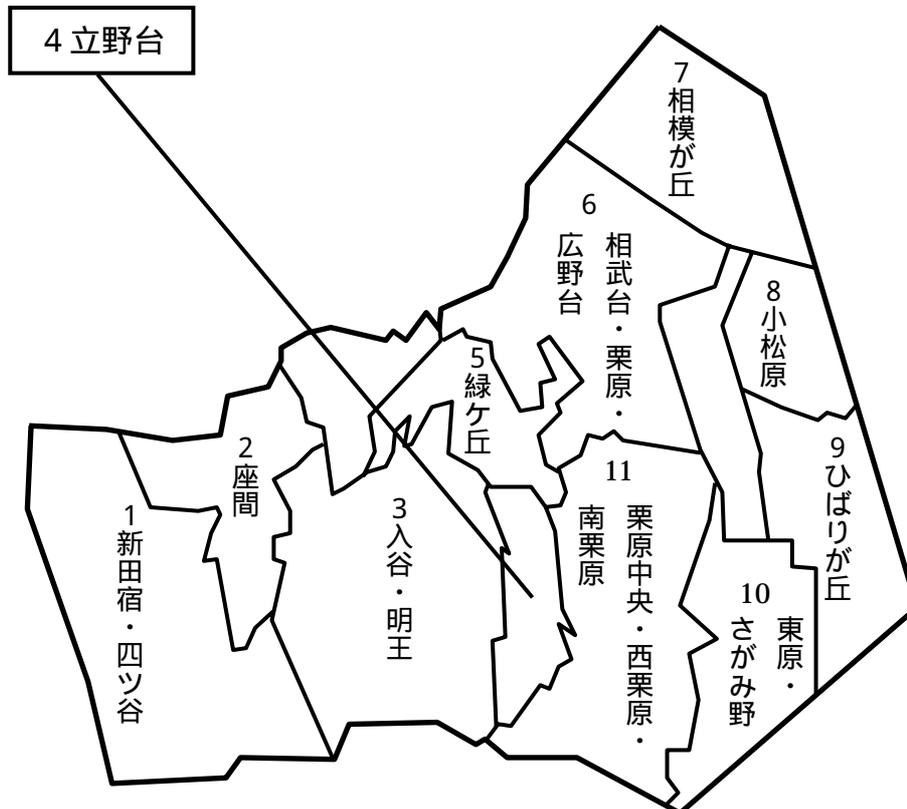
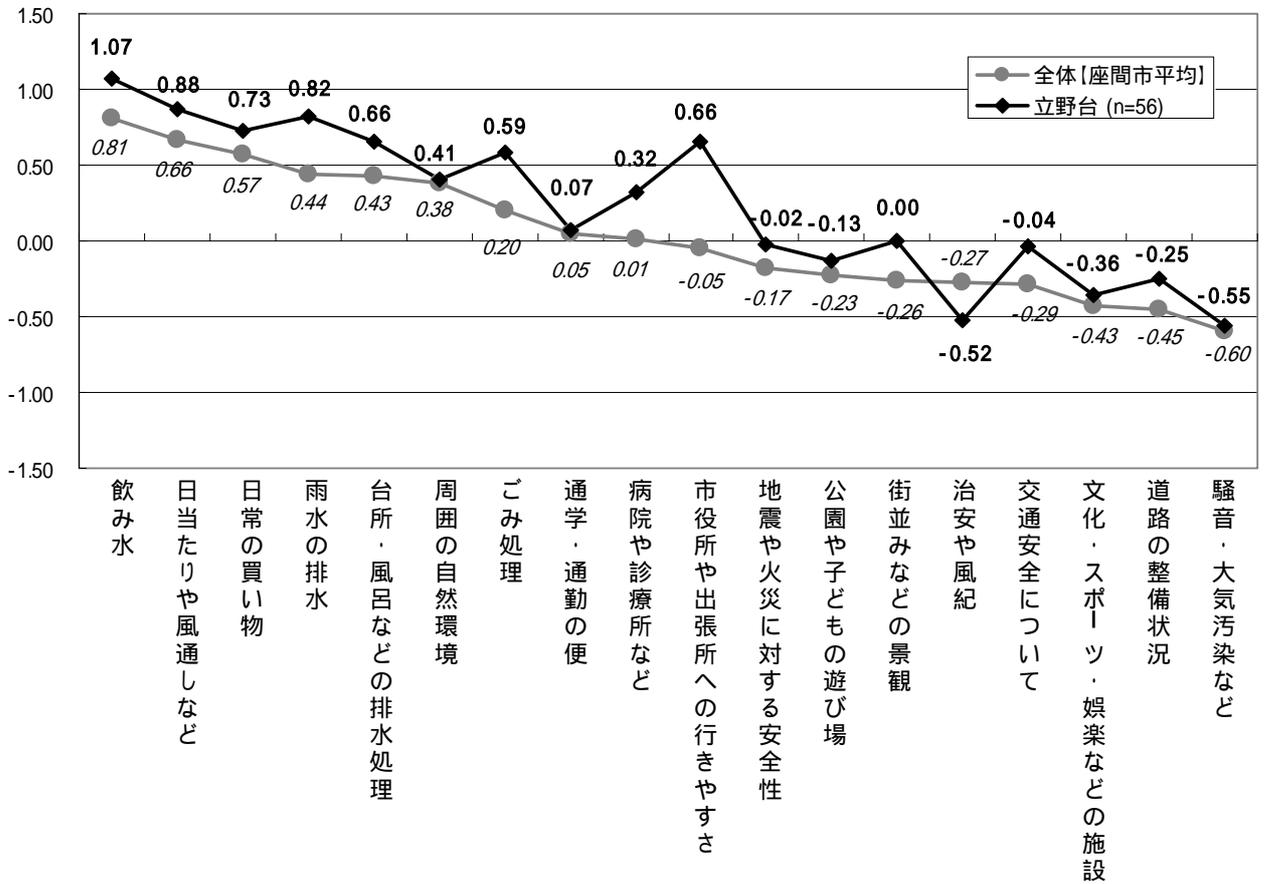
3 入谷・明王地区

入谷・明王地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「雨水の排水」、「騒音・大気汚染など」などで、評価が低かったのは「治安や風紀」、「周囲の自然環境」、「地震や火災に対する安全性」であった。



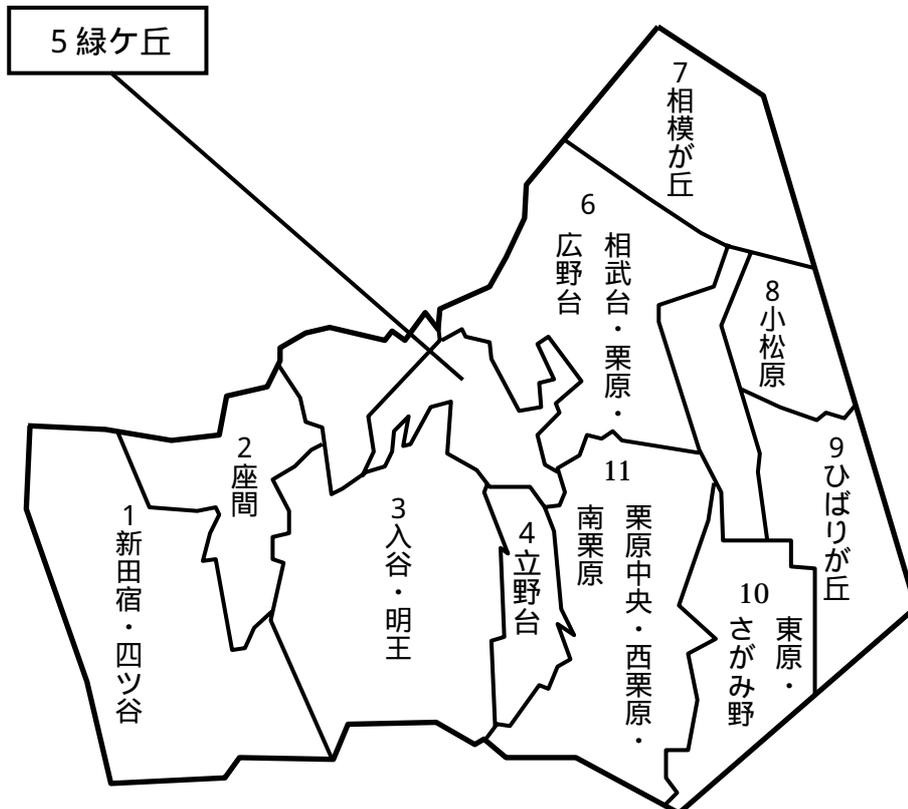
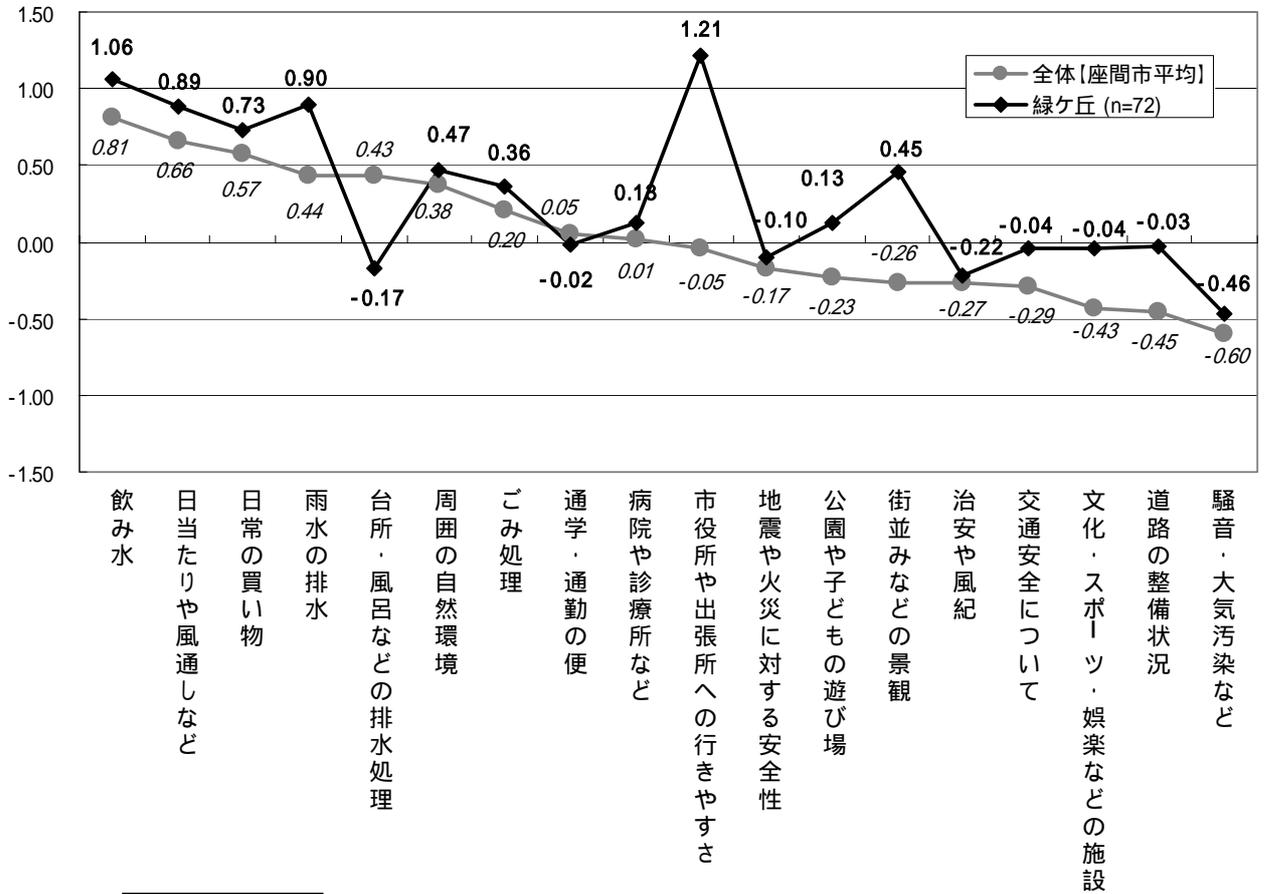
4 立野台地区

立野台地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「市役所や出張所への行きやすさ」、「雨水の排水」、「ごみ処理」、「病院や診療所など」などで、評価が低かったのは「治安や風紀」であった。



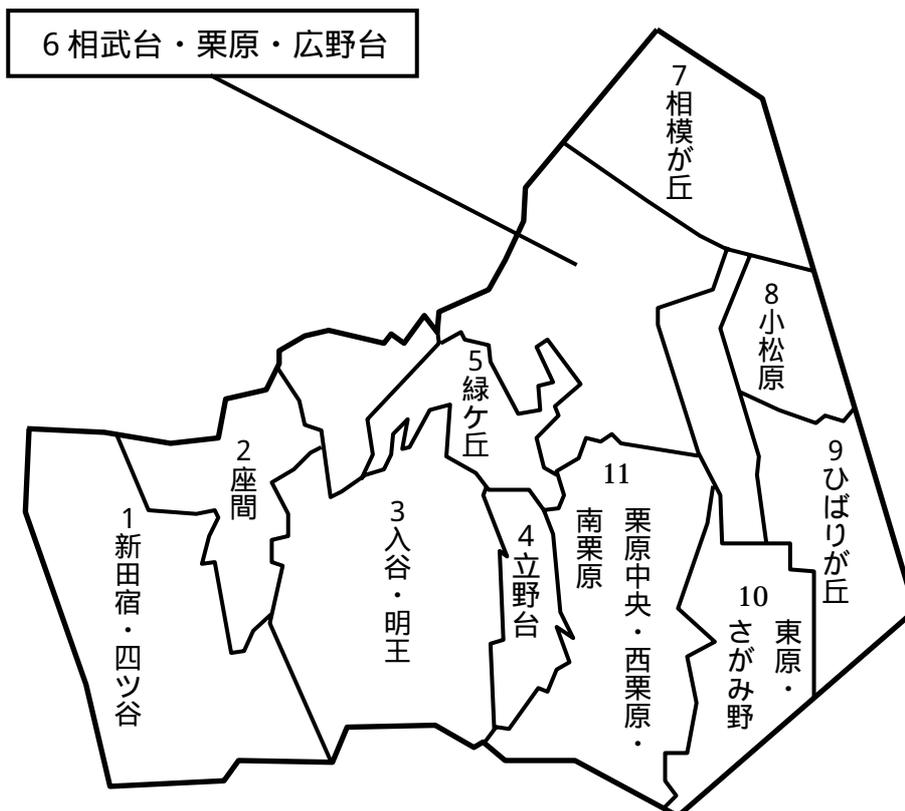
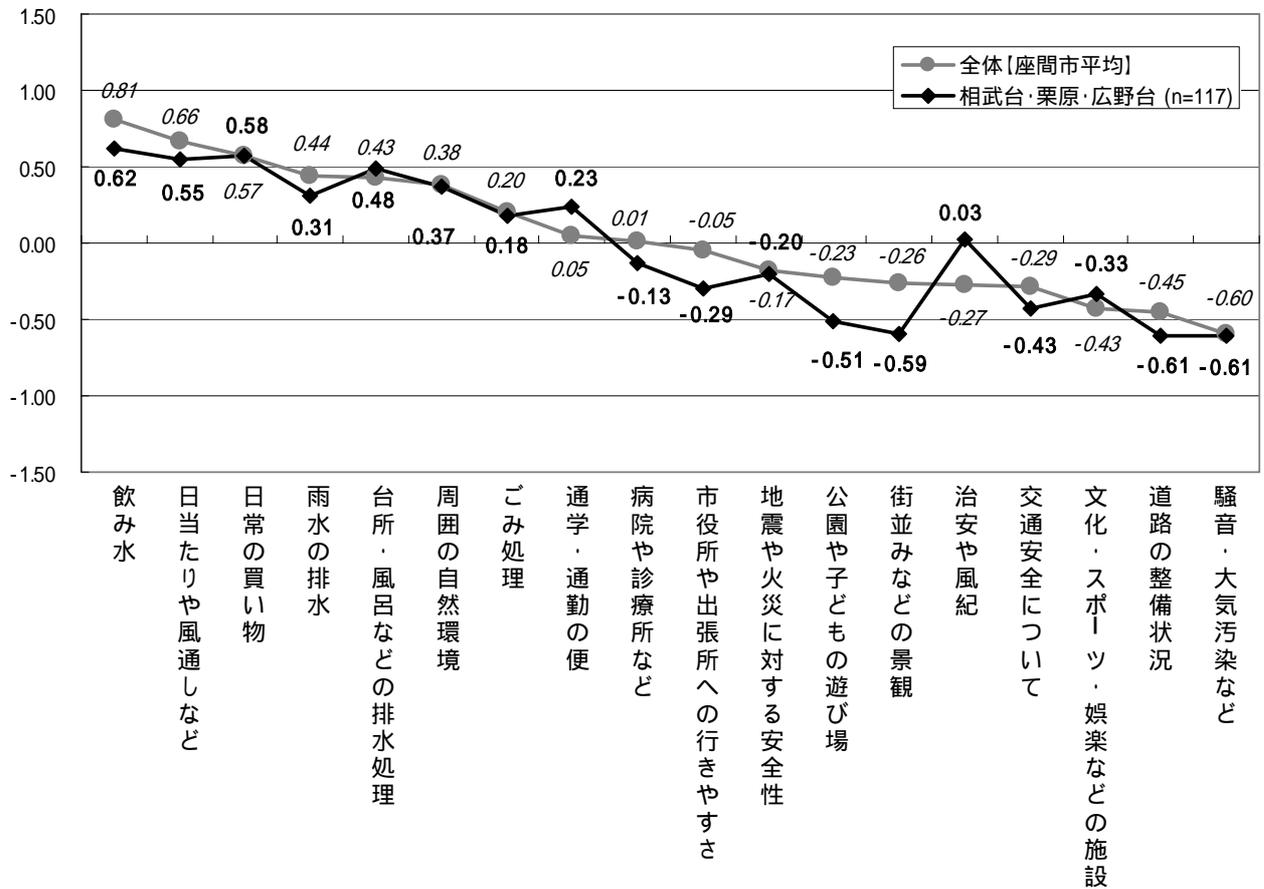
5 緑ヶ丘地区

緑ヶ丘地域で全体より評価が高かった項目は、「市役所や出張所への行きやすさ」、「街並みなどの景観」、「雨水の排水」、「道路の整備状況」などで、評価が低かったのは「台所・風呂などの排水処理」であった。



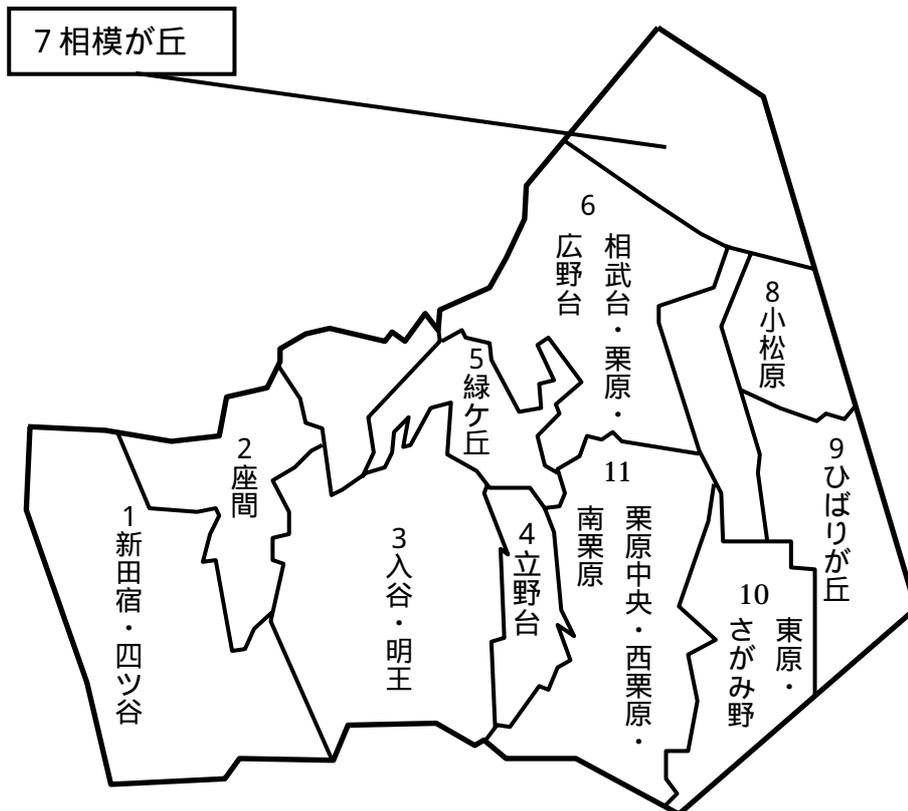
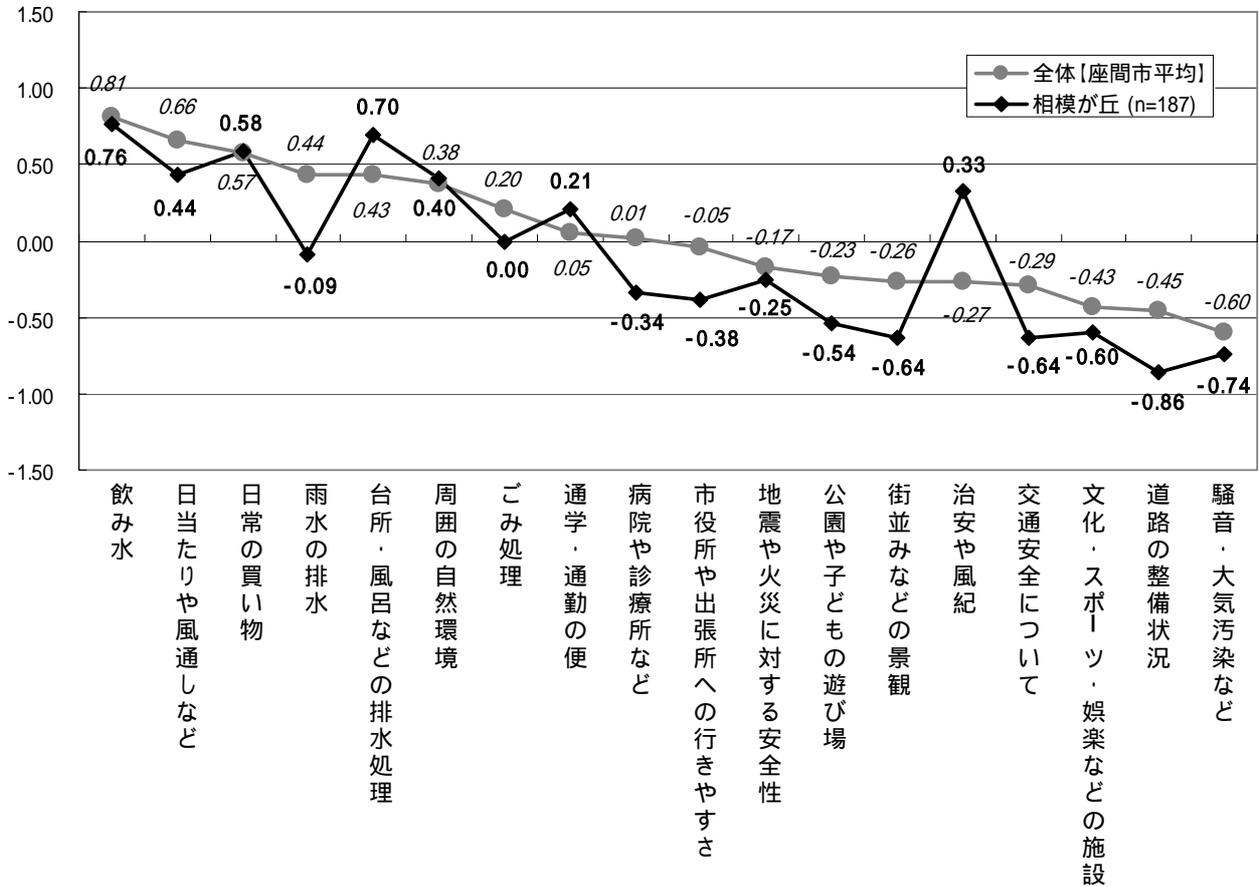
6 相武台・栗原・広野台地区

相武台・栗原・広野台地域で全体より比較的评价が高かった項目は、「治安や風紀」、「通学・通勤の便」などで、評価が低かったのは「街並みなどの景観」、「公園や子どもの遊び場」、「市役所や出張所への行きやすさ」などであった。



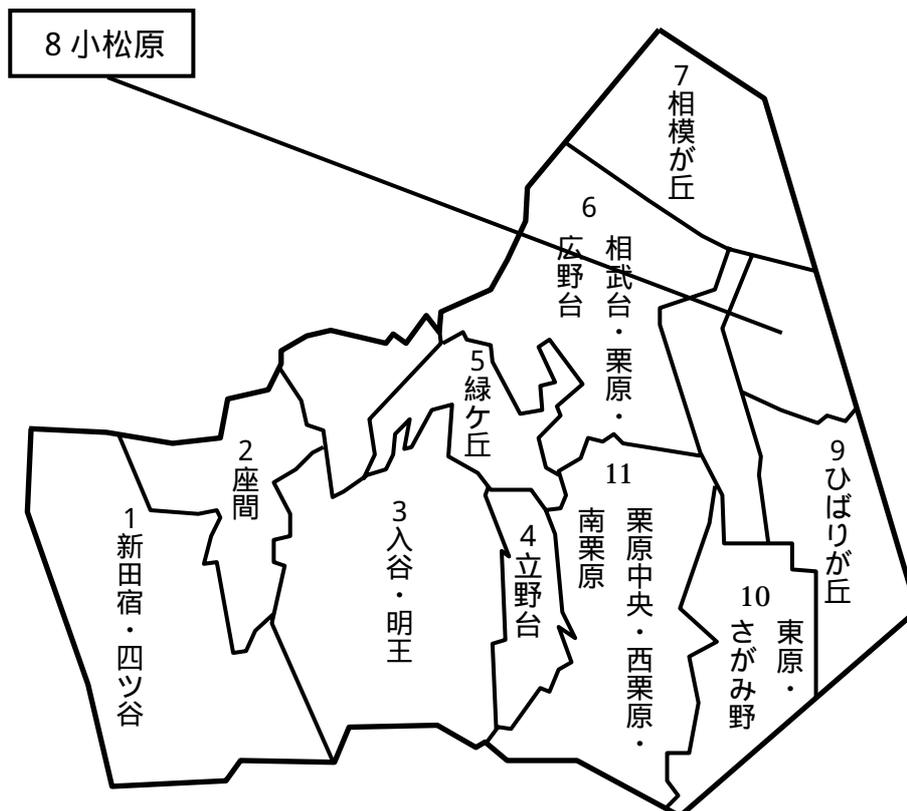
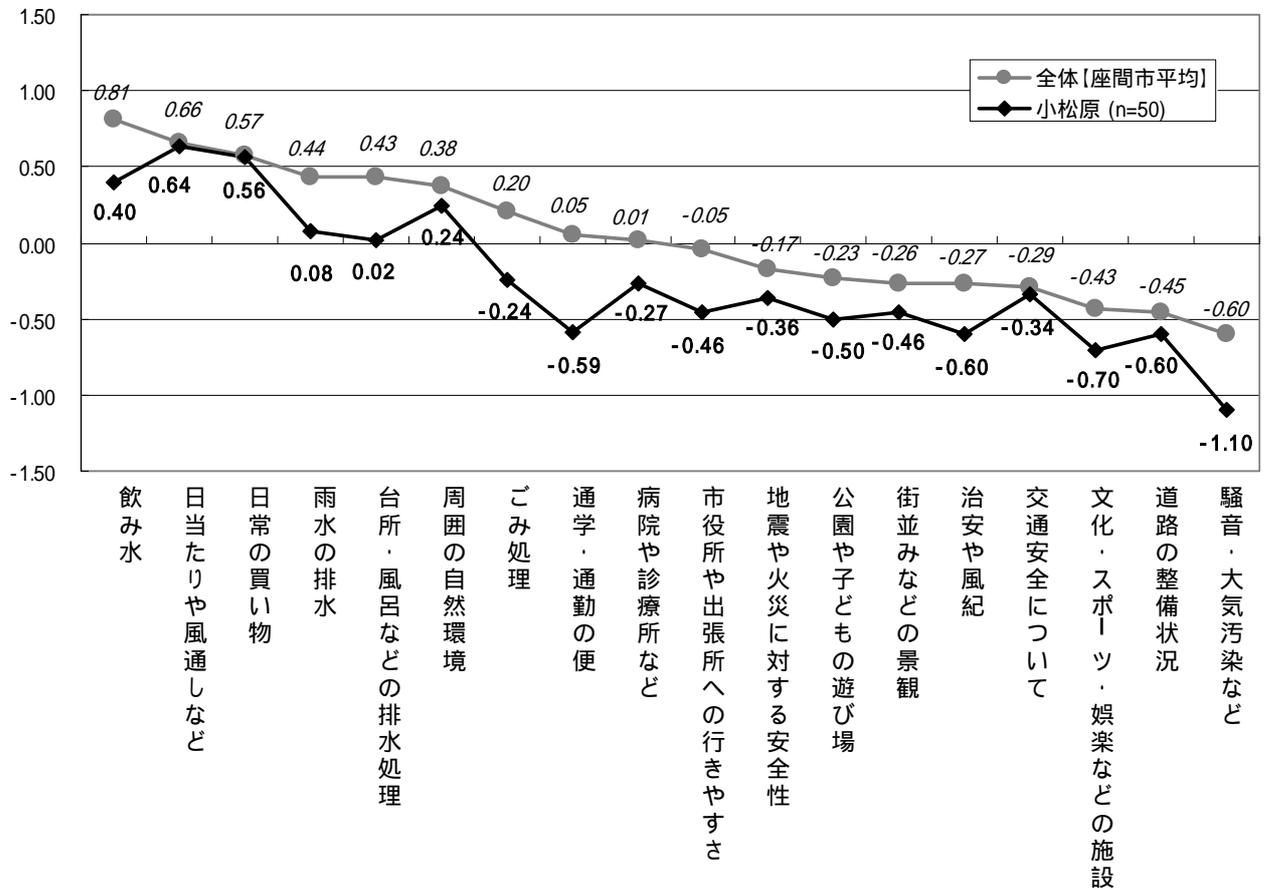
7 相模が丘地区

相模が丘地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「治安や風紀」、「台所・風呂などの排水処理」、「通勤・通学の便」、などで、評価が低かったのは「雨水の排水」、「市役所や出張所への行きやすさ」、「街並みなどの景観」、「道路の整備状況」などであった。



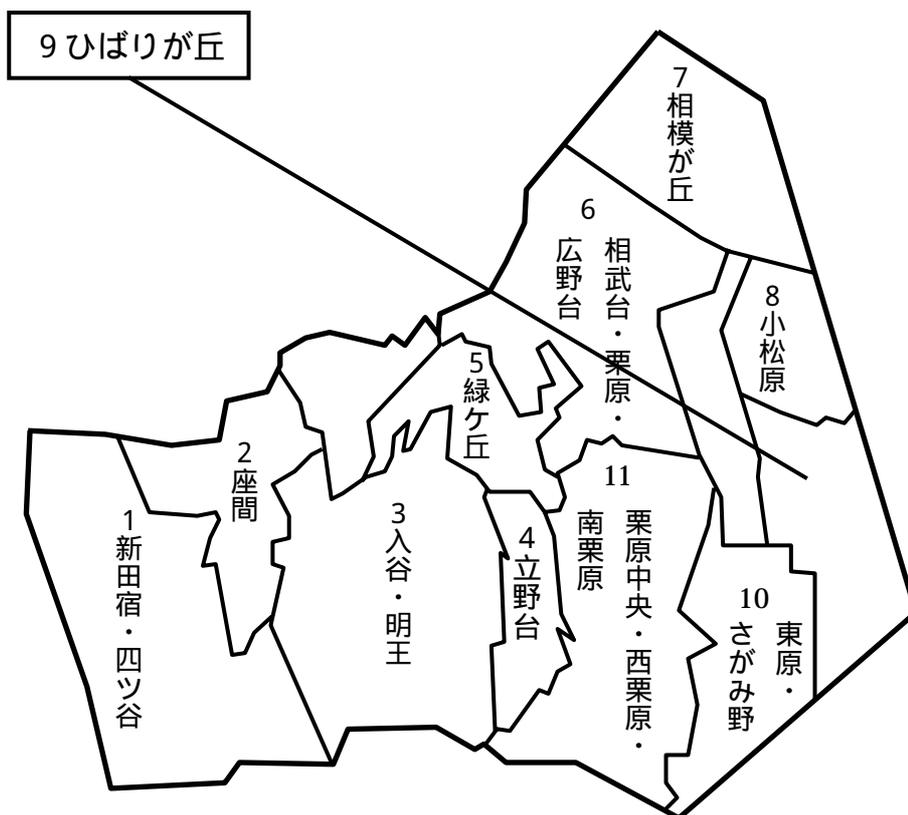
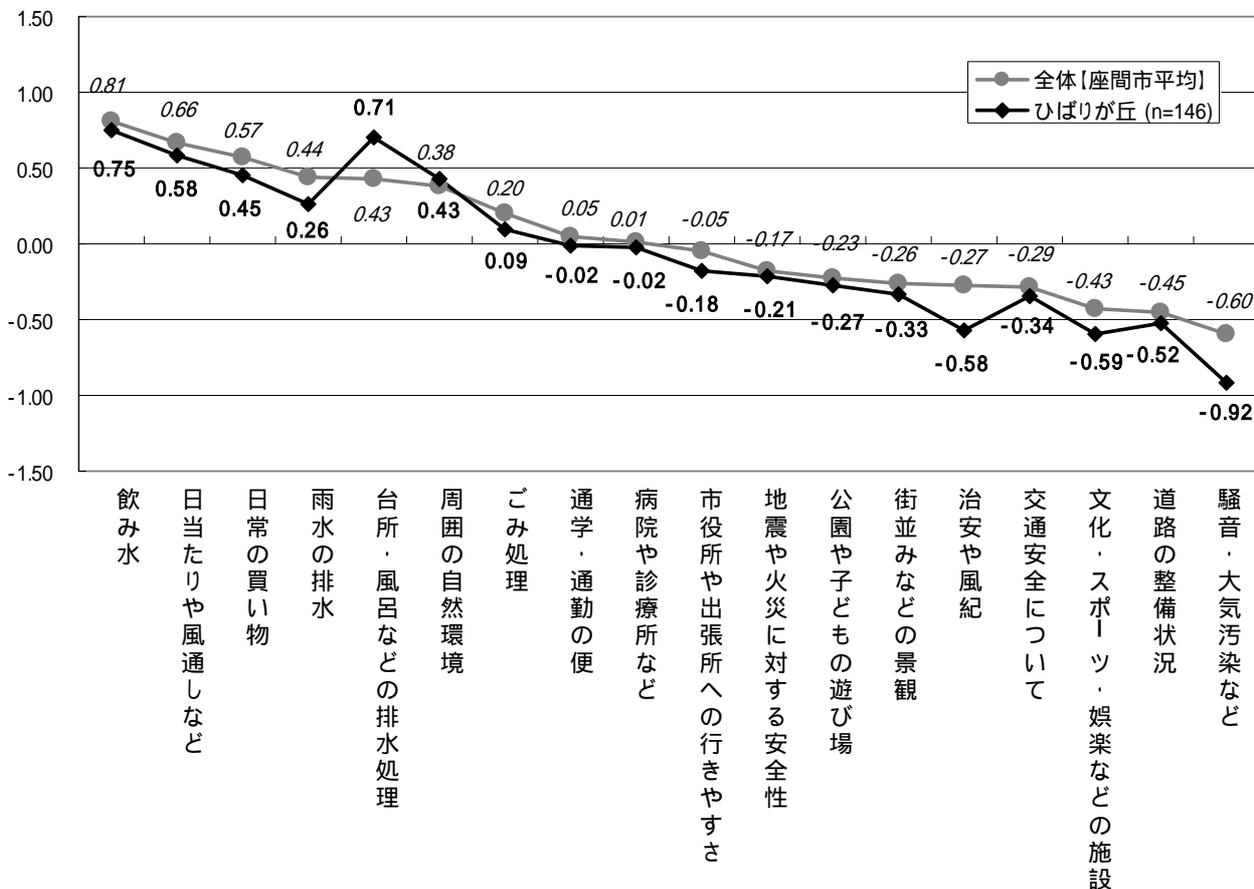
8 小松原地区

小松原地域ではすべての項目で全体より評価が低かったが、比較的高い評価であったのは「日常の買い物」、「日当たりや風通しなど」、「交通安全について」などで、評価が低かったのは「通学・通勤の便」、「市役所や出張所への行きやすさ」、「騒音・大気汚染など」などであった。



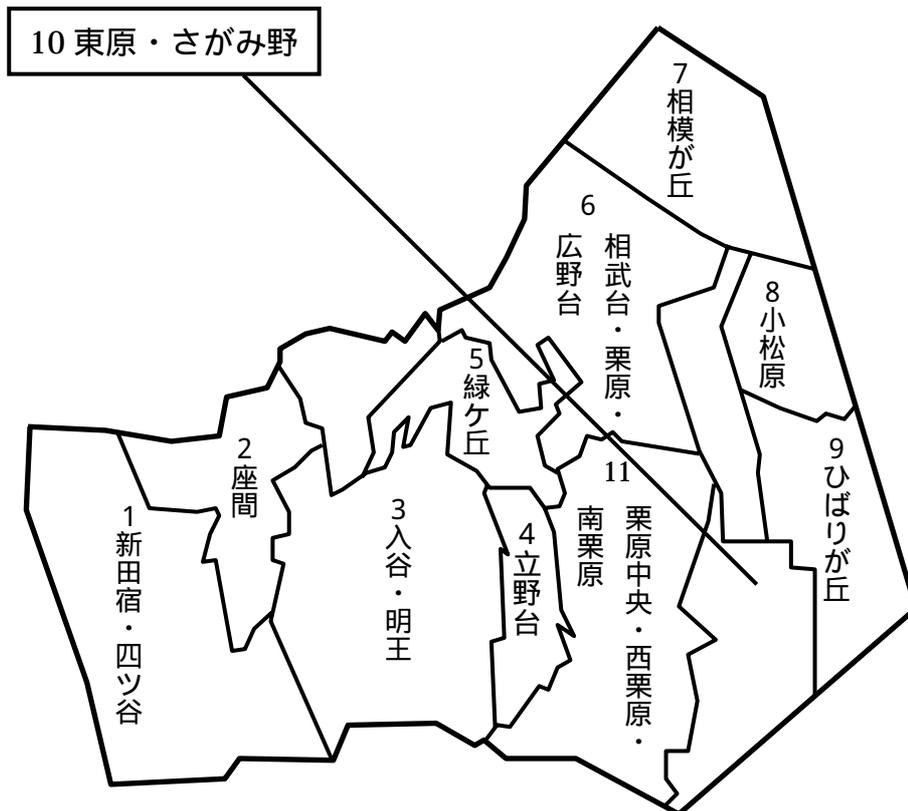
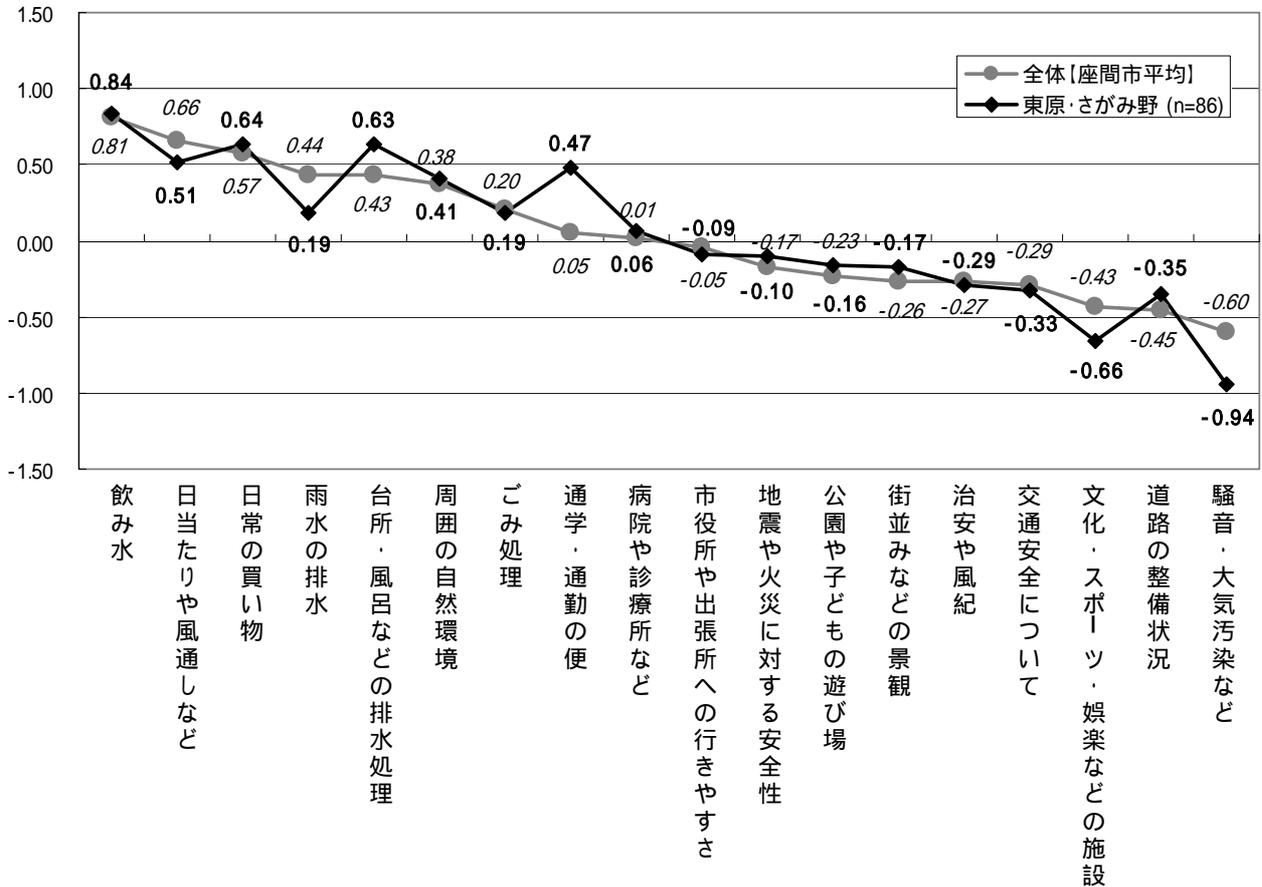
9 ひばりが丘地区

ひばりが丘地域で全体より比較的评价が高かった項目は、「台所・風呂などの排水処理」、「周囲の自然環境」で、その他の項目については全体よりも評価が低かった。特に「治安や風紀」、「騒音・大気汚染など」などで低いのが目立つ。



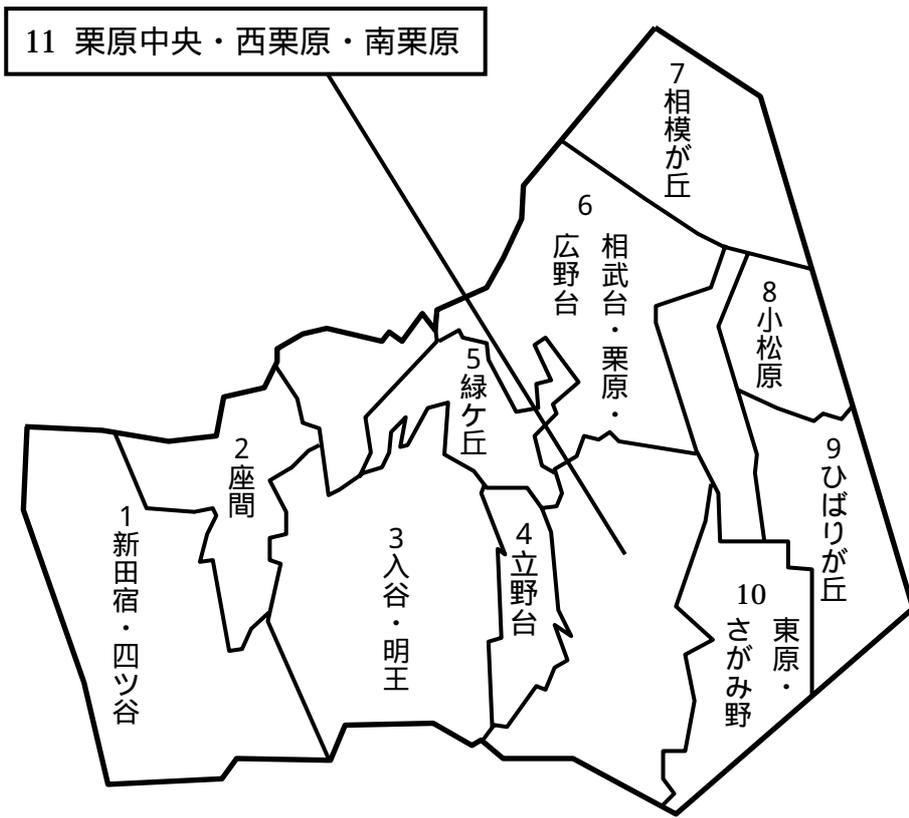
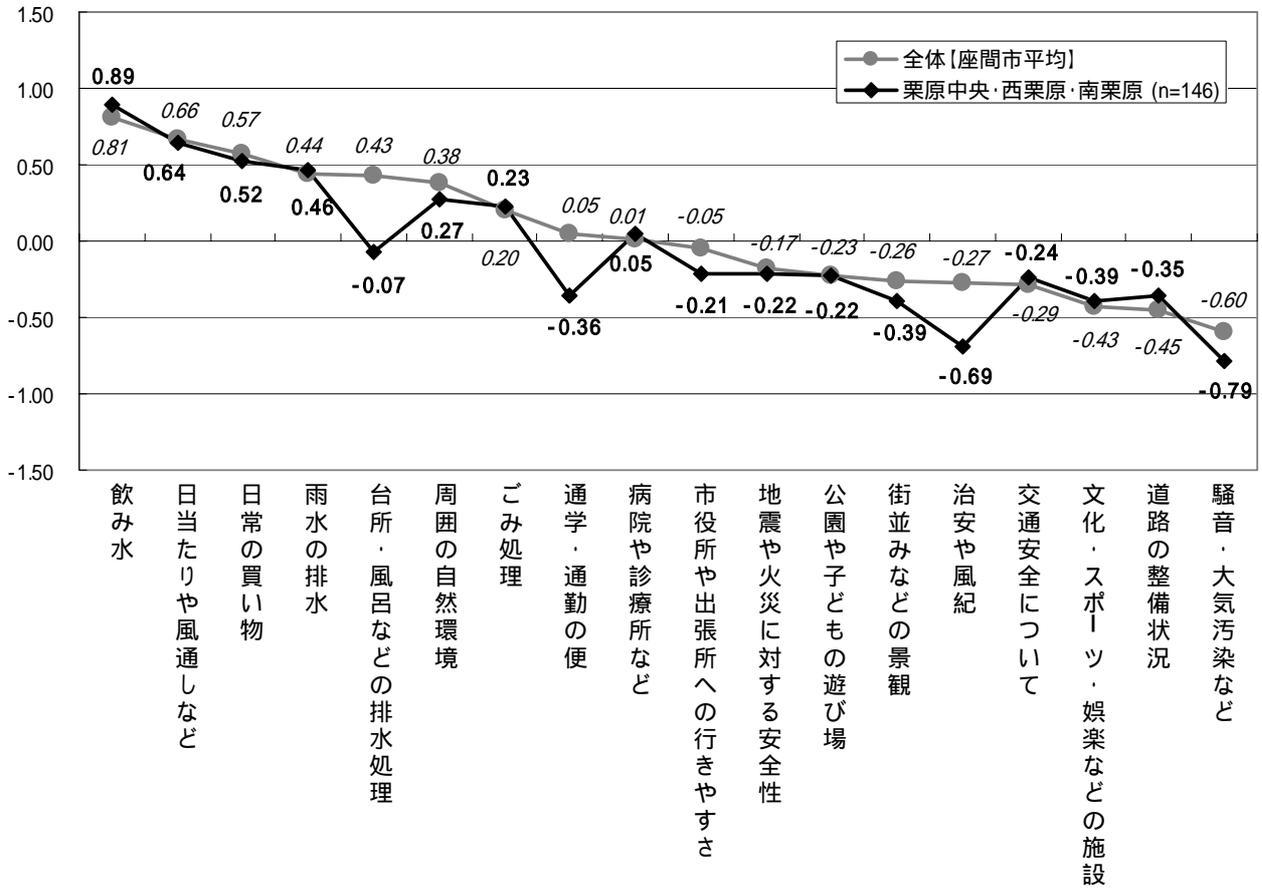
10 東原・さがみ野地区

東原・さがみ野地域で全体より比較的评价が高かった項目は「通学・通勤の便」、「台所・風呂などの排水処理」などで、評価が低かったのは「騒音・大気汚染など」、「雨水の排水」、「文化・スポーツ・娯楽などの施設」などであった。



11 栗原中央・西栗原・南栗原地区

栗原中央・西栗原・南栗原地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「飲み水」、「道路の整備状況」などで、評価が低かったのは「台所・風呂などの排水処理」、「治安や風紀」、「通学・通勤の便」などであった。

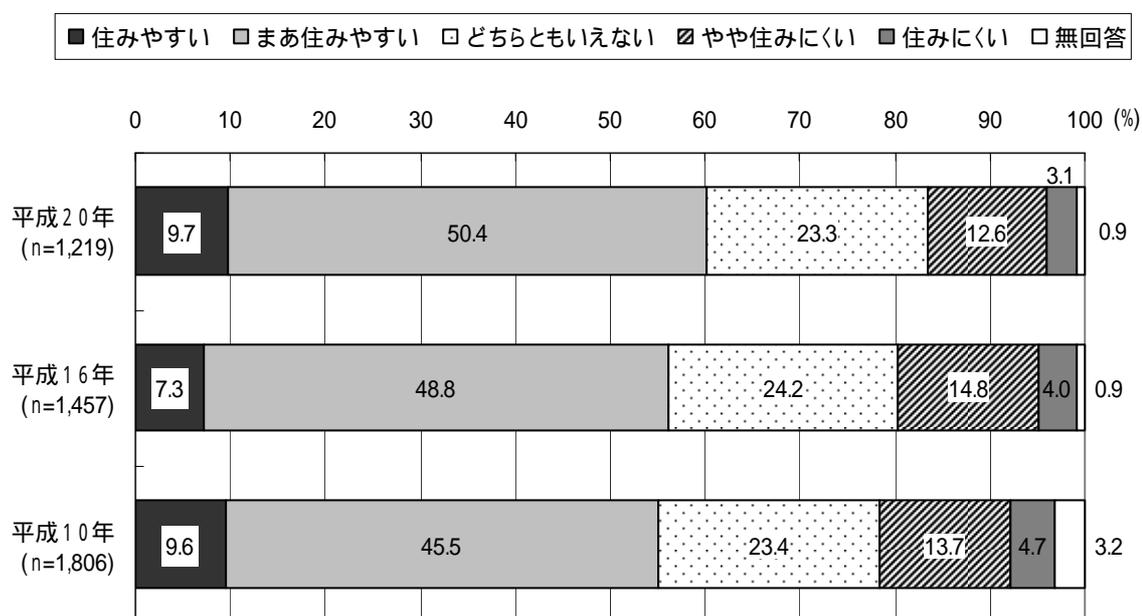


(6) 総合的なまわりの環境

問4 問3の(1)から(18)までの項目を総合的に考えて、あなたのまわりの環境はいかがですか。【1つだけ選んでください】

総合的なまわりの環境を聞いた結果最も多かったのは、「まあ住みやすい」(50.4%)であった。次いで、「どちらともいえない」(23.3%)、「やや住みにくい」(12.6%)、「住みやすい」(9.7%)、「住みにくい」(3.1%)の順であった。「住みやすい」+「まあ住みやすい」-「やや住みにくい」-「住みにくい」の比率を《住みやすさ》とすると、《住みやすさ》は 44.4 ポイントであった。

過去の調査と比較すると、「まあ住みやすい」が増加している傾向がみられる。「住みにくい」、「やや住みにくい」は年々減少している傾向にあり、《住みやすさ》は 37.3 ポイントから 44.4 ポイントへ増加している。

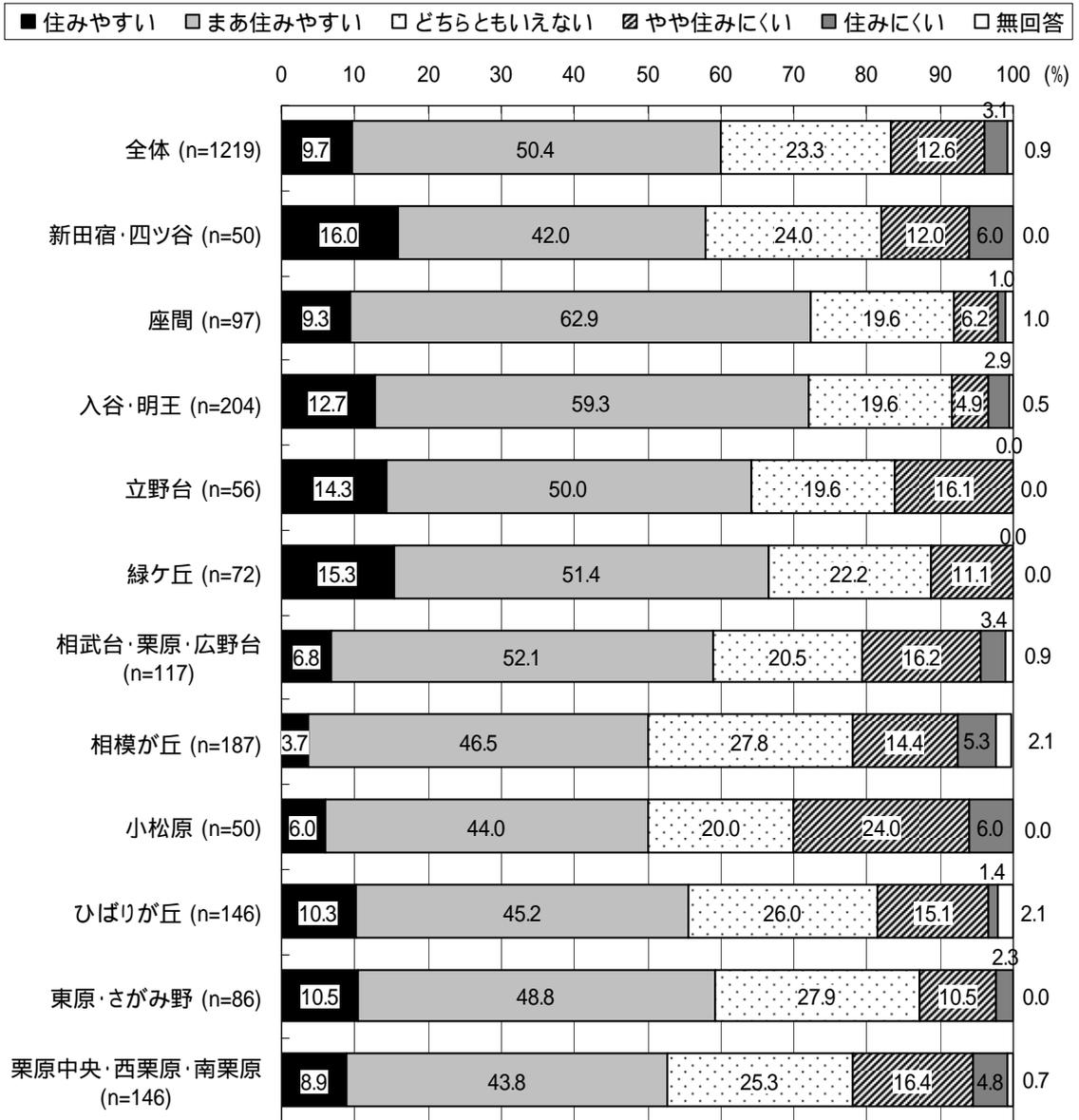


【住まいの地域別】総合的なまわりの環境

住まいの地域別にみると、《住みやすさ》のポイントはすべての地域でプラスとなっており、特に座間、入谷・明王、では 60 ポイントを超えた。緑ヶ丘でも 50 ポイントを超え、総合的な周りの環境が比較的良い。一方、比較的低いポイントであったのは、小松原、相模が丘、栗原中央・西栗原・南栗原などであった。

ポイント		住みやすさ
全体		44.4
住まいの地域	新田宿・四ツ谷	40.0
	座間	65.0
	入谷・明王	64.2
	立野台	48.2
	緑ヶ丘	55.6
	相武台・栗原・広野台	39.3
	相模が丘	30.5
	小松原	20.0
	ひばりが丘	39.0
	東原・さがみ野	46.5
	栗原中央・西栗原・南栗原	31.5

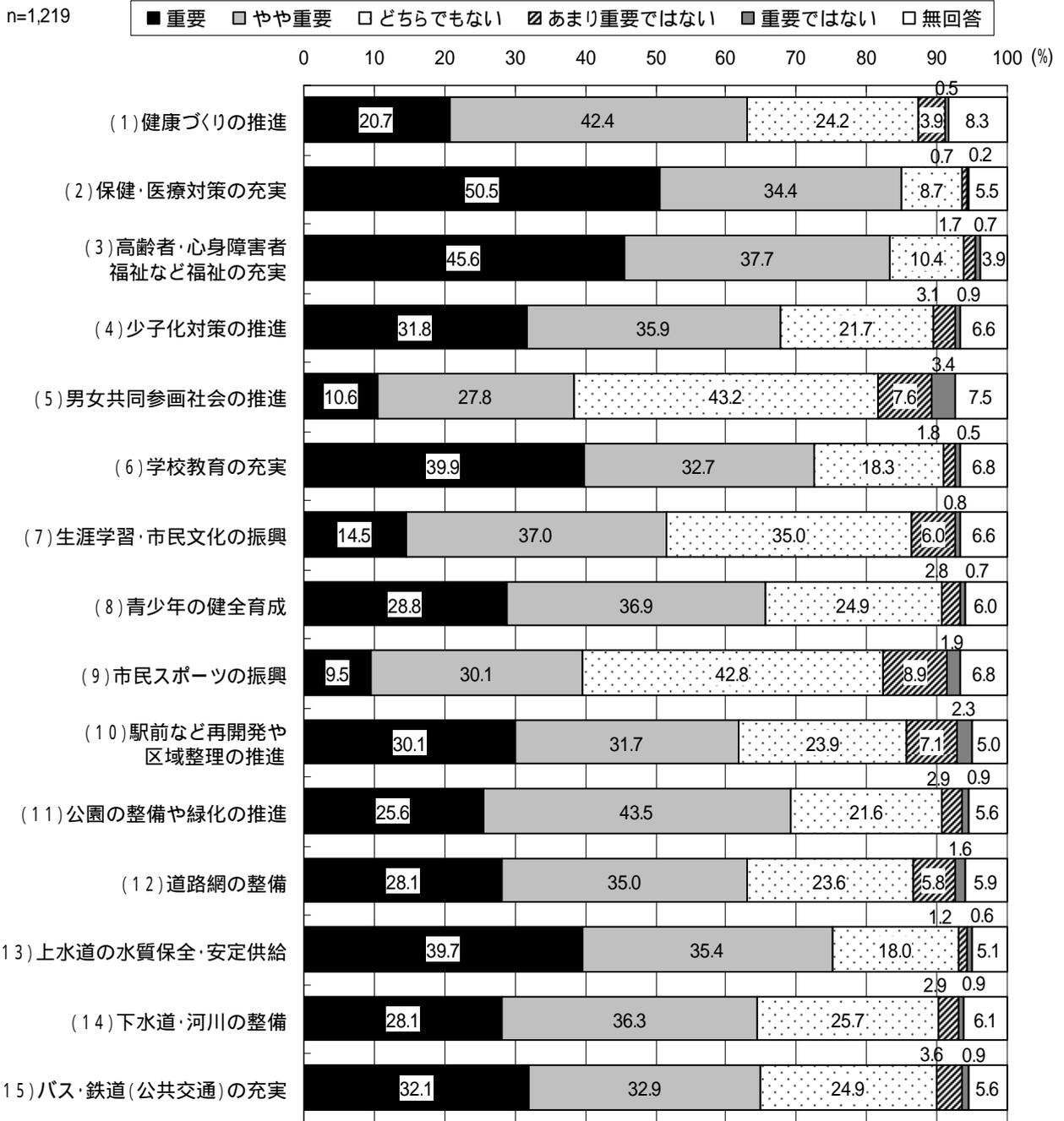
各地域の比率は下のグラフのとおりである。



3. 座間市のまちづくりについて
 (1) 今後力を入れるべきこと

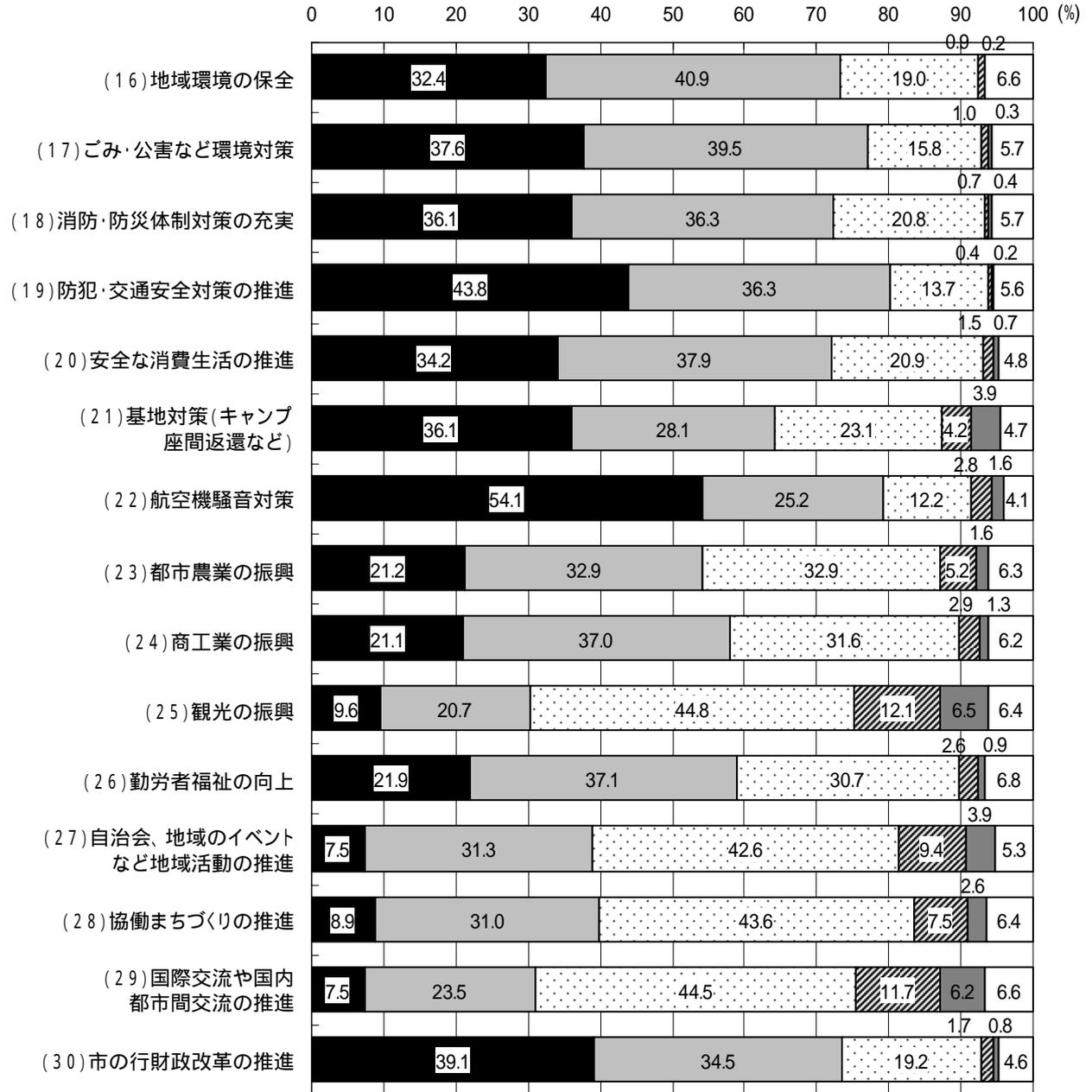
問5 あなたは、今後座間市はどんなことに力をいれるべきだと思いますか。
 【次の(1)～(30)それぞれの事項について、あてはまる番号1つに をつけてください】

今後座間市が力を入れるべきことを次の 30 項目について評価してもらった結果、「重要」+「やや重要」-「あまり重要ではない」-「重要ではない」の比率では、(2)保健・医療の充実、(3)高齢者・心身障害者福祉など福祉の充実の2項目が 80%を超え、重要と評価された。次いで、(19)防犯・交通安全対策の推進、(17)ごみ・公害など環境対策も 75%を超え、重要な項目となっている。反対に 10%台だった項目は、(25)観光の振興、(29)国際交流や国内都市間交流の推進の2項目であった。



n=1,219

■重要 □やや重要 □どちらでもない ▨あまり重要ではない ■重要ではない □無回答

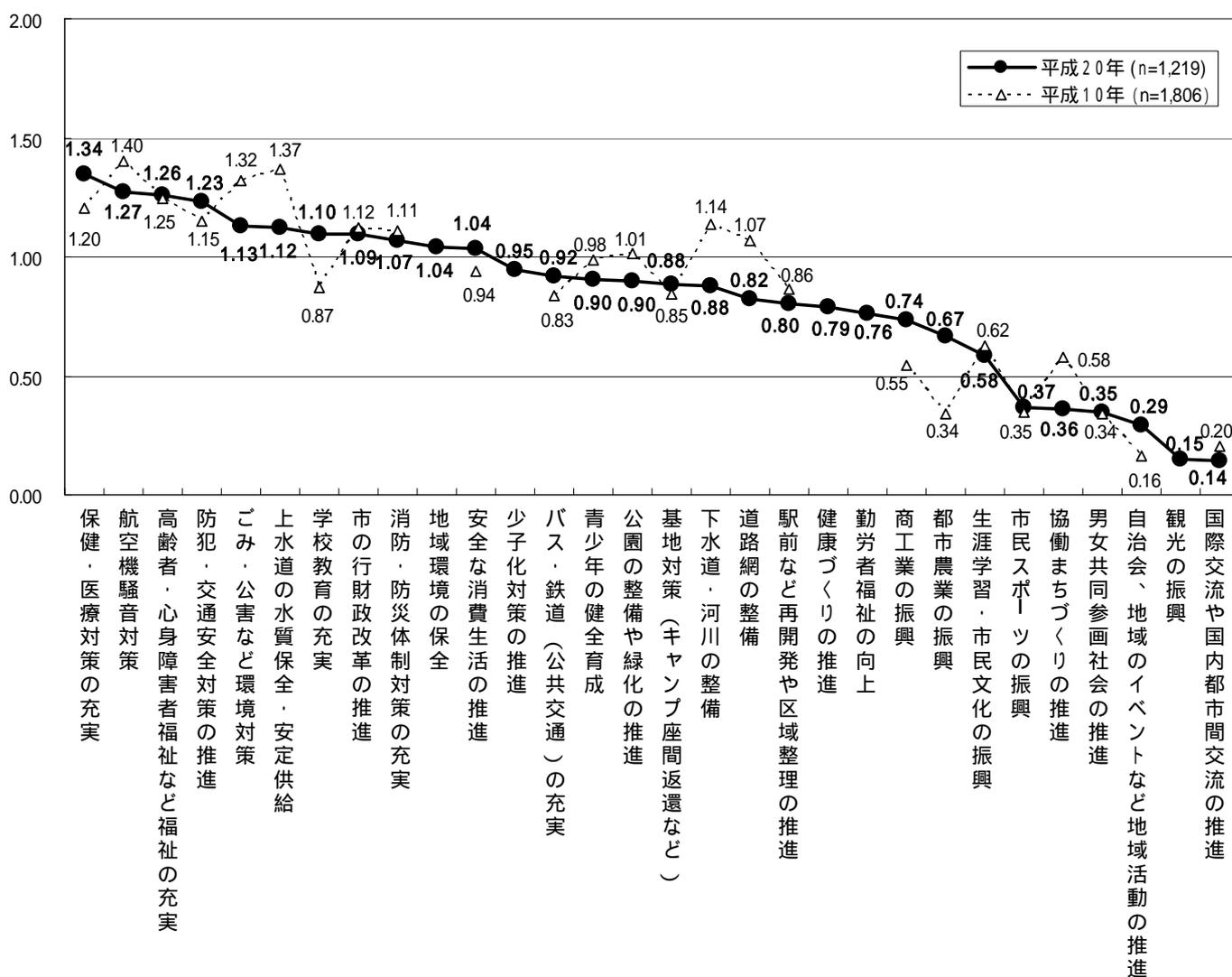


施策の重要度を下の計算式(加重平均)によって平均点を算出し、今回(平成20年)の調査で平均点の高い順に左から並べて過去(平成10年)の調査と比較したものが下のグラフである。

$$\text{平均点} = \frac{\text{「重要」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや重要」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「あまり重要ではない」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「重要ではない」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

過去(平成10年)の調査結果と重要度を比較すると、「都市農業の振興」、「学校教育の充実」、「商工業の振興」、「保健・医療の充実」などで今回(平成20年)の調査の方が重要度が高くなっている。反対に重要度が低くなっているのは、「下水道・河川の整備」、「道路網の整備」、「上水道の水質保全・安定供給」、「協働まちづくりの推進」などであった。

※「地域環境の保全」、「少子化対策の推進」、「健康づくりの推進」、「勤労者福祉の向上」、「観光の振興」については、過去(平成10年)の調査では調査項目となっていないため、データはない。



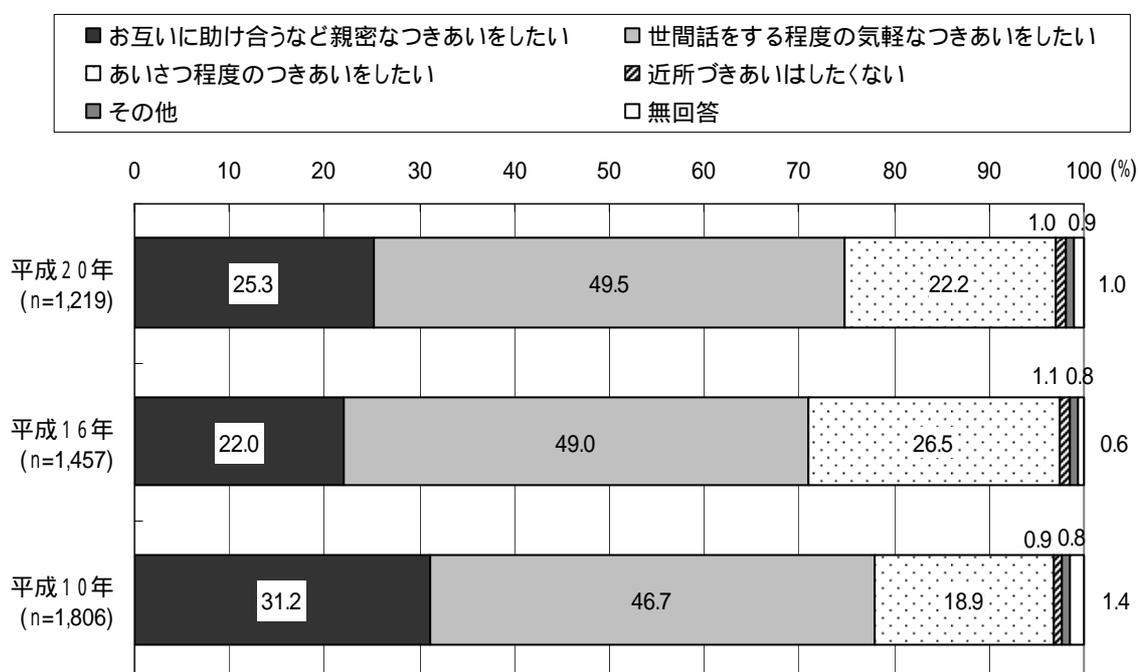
4. 地域活動について

(1) 今後の近所づきあい

問6 あなたは今後どのような近所づきあいをしていきたいと思いますか。
【1つだけ選んでください】

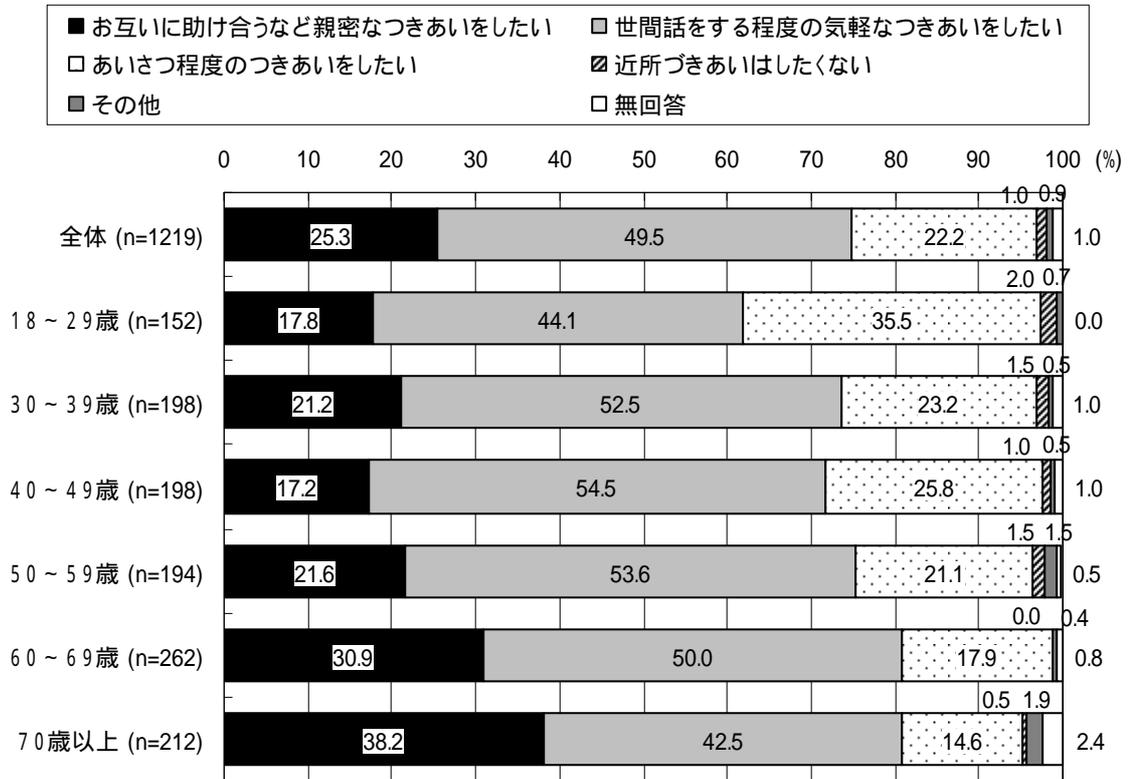
今後の近所づきあいを聞いた結果最も多かったのは、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」(49.5%)であった。次いで、「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」(25.3%)、「あいさつ程度のつきあいをしたい」(22.2%)、「近所づきあいはしたくない」(1.0%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は前回(平成16年)調査より比率が高くなっている。反対に「あいさつ程度のつきあいをしたい」は前回(平成16年)調査より比率が低くなっている。最近になって近所づきあいの重要性が見直されている傾向がみられる。



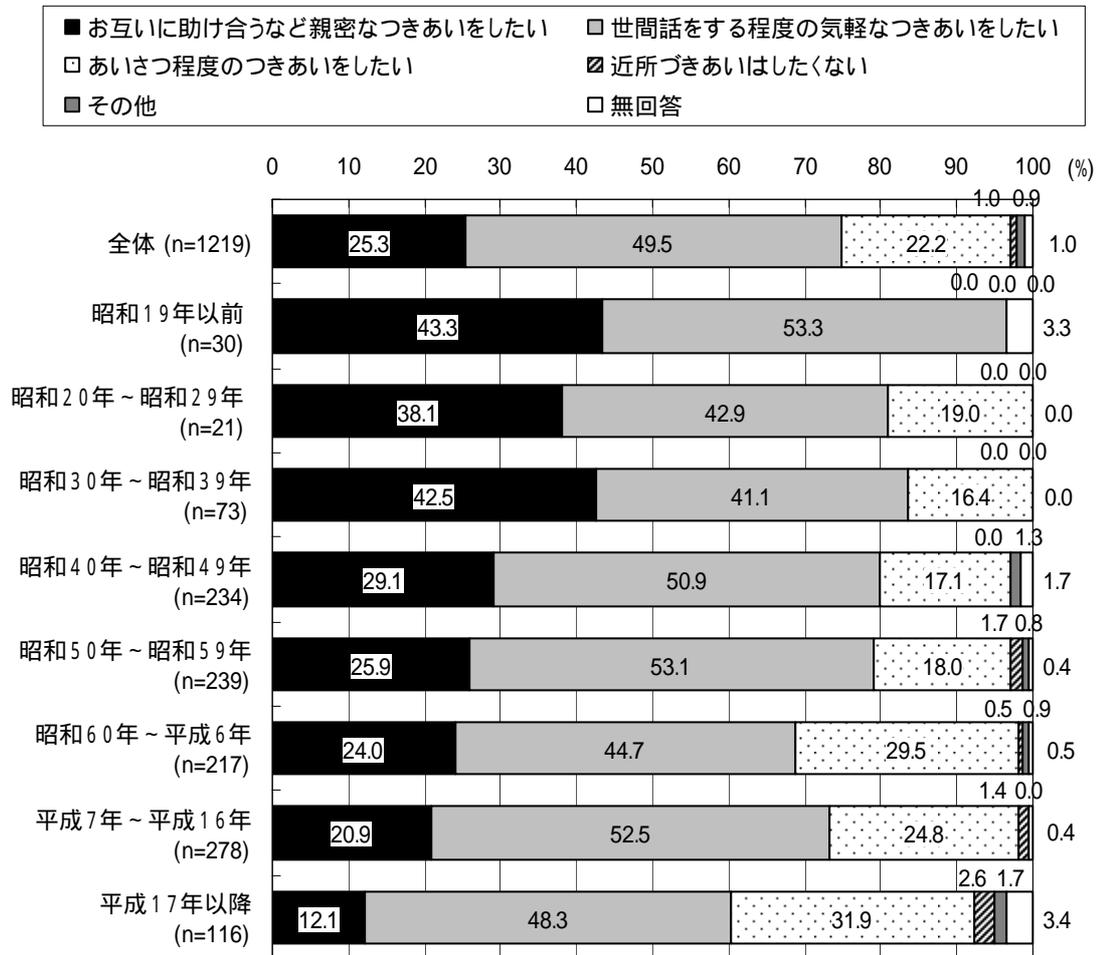
【年齢別】今後の近所づきあい

年齢別にみると、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は、すべての年齢層で1位であった。「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」という親密な近所づきあいは、若年層では比率が低い。40歳代以降では加齢とともに親密な近所づきあいの比率は高くなる傾向がみられる。「あいさつ程度のつきあいをしたい」は18歳～29歳で35.5%となっており、比率が高いのが目立つ。



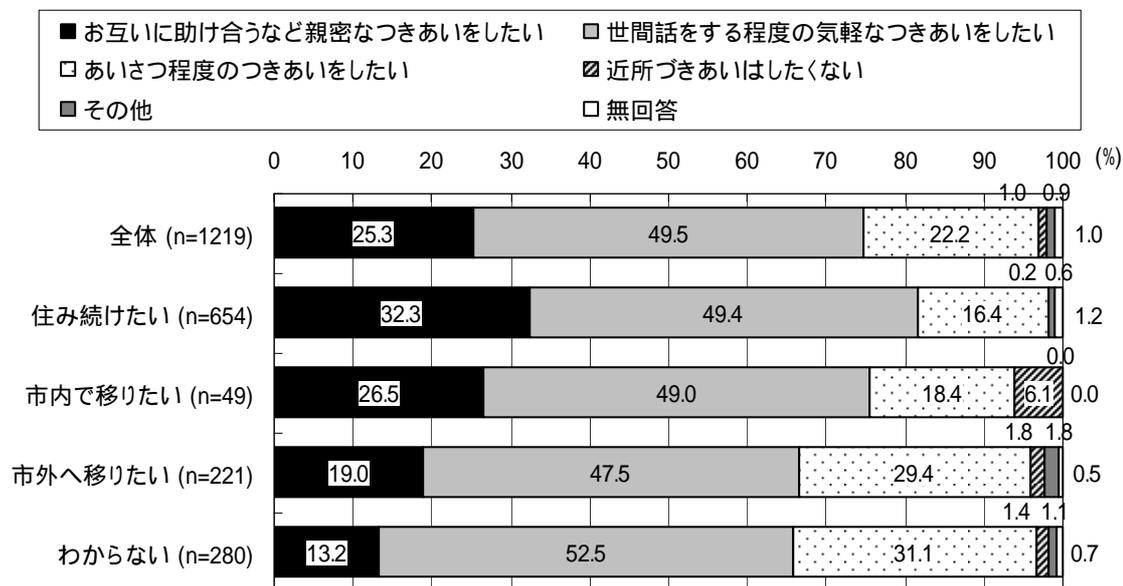
【在住年数別】今後の近所づきあい

在住年数別にみると、「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」は昭和19年以前で**43.3%**となっており、在住年数別では最も比率が高くなっている。次いで、昭和30年～昭和39年(**42.5%**)、昭和20年～昭和29年(**38.1%**)と続く。また、「近所づきあいはしたくない」と回答した人が、昭和49年以前では0となっているのも注目すべき点である。「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は昭和30年～昭和39年を除き、どの在住年数でも最も高い比率となっている。在住年数が長いほど近所づきあいをより親密にしたいと考える傾向がみられる。



【定住意識別】今後の近所づきあい

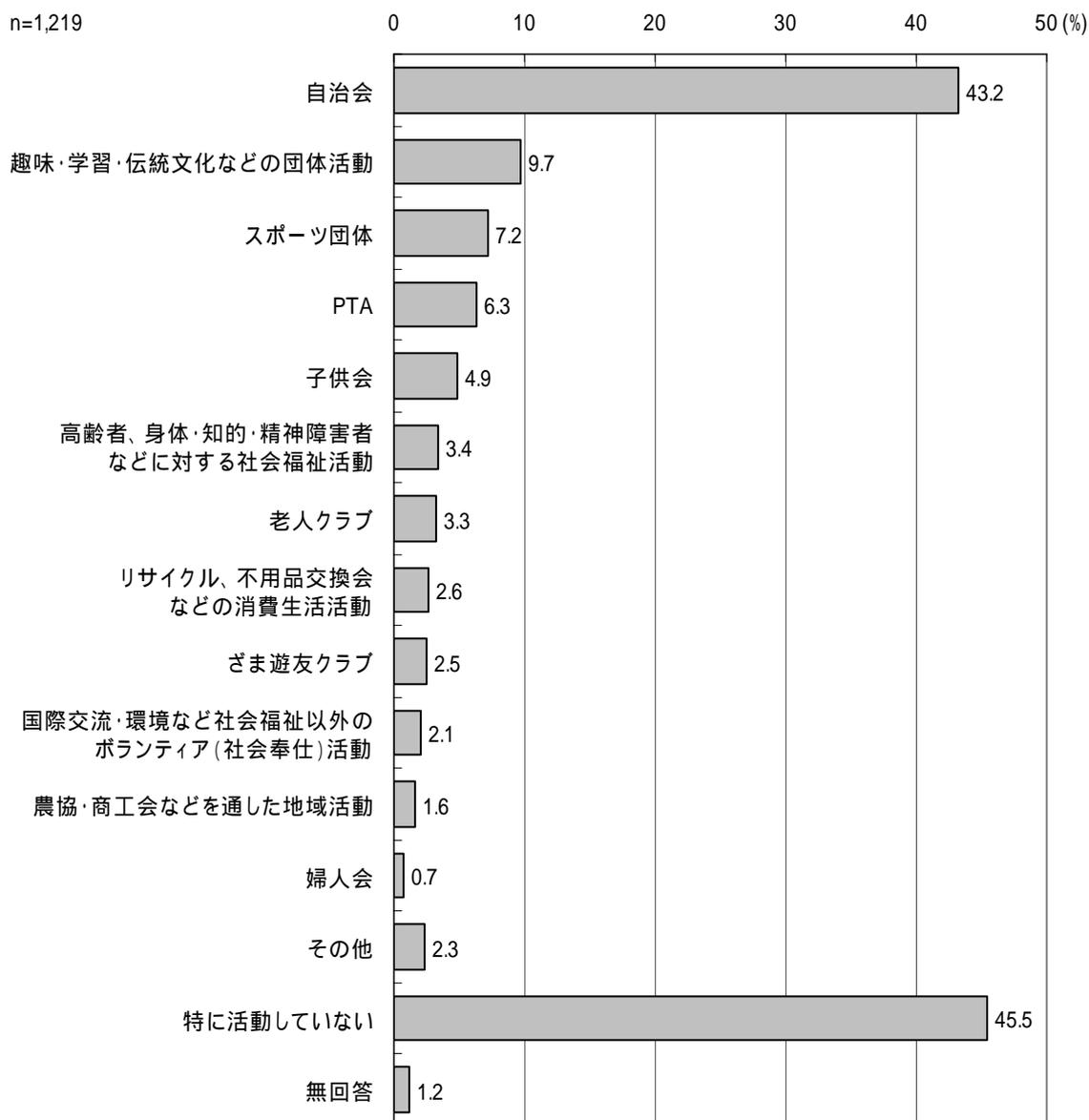
定住意識別にみると、全体で1位だった「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は、どの定住意識でも1位で50%前後となっている。「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」は定住意識が強いほど比率が高くなっている。



(2) 実際に参加している団体・活動

問7 あなたはどのような地域活動に参加していますか。
【実際に参加している団体・活動すべてに を付けてください】

実際に参加している団体・活動を聞いた結果最も多かったのは、「自治会」(43.2%)であった。次いで、「趣味・学習・伝統文化などの団体活動」(9.7%)、「スポーツ団体」(7.2%)、「PTA」(6.3%)が続く。「特に活動していない」(45.5%)の比率が高いのが目立つ。



【職業別】実際に参加している団体・活動

職業別にみると、「特に活動していない」の比率が高かったのは常勤の勤め人で、55.2%と半数を超えた。反対に低かったのは、専業主婦で34.9%となっている。

自営業などでは「自治会」、「農協・商工会など経済団体」、その他勤め人では「子供会」、「PTA」、「ざま遊友クラブ」、専業主婦では「自治会」、「趣味・学習・伝統文化などの団体活動」、「高齢者、身体的・精神障害者などに対する社会福祉活動」、「リサイクル、不用品交換会などの消費生活活動」などが他よりも比較的比率が高くなっている。

前回(平成16年)の調査とほぼ同じような結果となっている。

(その1)

%		全体 (実数)	自治会	子供会	婦人会	老人クラブ	P T A	ざま遊友クラブ	スポーツ団体
全体		1219	43.2	4.9	0.7	3.3	6.3	2.5	7.2
職業	自営業など	119	47.1	2.5	0.8	3.4	5.0	2.5	7.6
	常勤の勤め人	397	37.3	6.3	0.3	0.3	5.8	2.0	5.3
	その他の勤め人	161	46.6	8.1	0.6	1.2	17.4	5.0	7.5
	専業主婦	249	51.0	4.8	0.8	2.8	7.2	2.8	10.0
	その他	283	41.3	2.5	1.1	8.1	0.7	1.4	7.1
	無回答	10	30.0	-	-	30.0	-	-	10.0

(その2)

%		地域協 活・商 工 会 な ど を 通 し た	の趣 味・学 習・ 活 動 伝 統 文 化 な ど	社障 害者 な ど に 対 す る 社 会 福 祉	高 齢者 、 身 体 ・ 知 的 ・ 精 神	会社 外 の ボ ラ ン テ ィ ア (社 福 社)	国 際 交 流 ・ 環 境 な ど の 社 会 福 祉	な ら び に リ サ イ ク ル ・ 消 費 生 活 な ど の 交 換 会	そ の 他	特 に 活 動 し て い な い	無 回 答
全体		1.6	9.7	3.4	2.1	2.6	2.3	45.5	1.2		
職業	自営業など	10.9	6.7	5.0	2.5	1.7	5.9	40.3	0.8		
	常勤の勤め人	1.0	3.3	1.5	0.8	3.0	1.3	55.2	0.8		
	その他の勤め人	0.6	9.3	0.6	1.2	0.6	1.2	42.2	1.2		
	専業主婦	0.4	19.7	7.6	3.2	5.2	2.8	34.9	0.8		
	その他	-	11.3	3.5	3.5	1.1	2.5	46.3	2.1		
	無回答	10.0	10.0	-	-	10.0	-	20.0	10.0		

職業の分類

自営業など	商工・サービス業、農林業、その他自由業(作家、弁護士など)
常勤の勤め人	専門・技術職(医師、教授、技師など)、事務職(一般事務、経理、営業など)、労務職(店員、工員、作業員など)
その他勤め人	人材派遣会社への登録、パート、アルバイト、内職
専業主婦	専業主婦
その他	学生、無職、その他

【性別・年齢別】実際に参加している団体・活動

性別・年齢別にみると、「特に活動していない」は男女とも加齢にともなって減少する傾向がみられる。男性女性ともに18歳～29歳では「特に活動していない」が80%前後となっており、他の年代よりも比率が高いのが目立つ。

「自治会」は男女とも60歳代をピークに加齢にともなって増加する傾向がみられ、「子供会」、「PTA」は30歳代、40歳代の子育て世代で比較的高い比率となっているのが目立つ。

(その1)

性別・年齢		%	全体 (実数)	自治会	子供会	婦人会	老人クラブ	PTA	さま遊友クラブ	スポーツ団体
全体			1219	43.2	4.9	0.7	3.3	6.3	2.5	7.2
性別・年齢	男性	男性全体	551	43.2	3.8	0.5	3.3	3.8	1.8	7.1
		18～29歳	60	10.0	1.7	-	-	1.7	-	5.0
		30～39歳	82	28.0	6.1	-	-	6.1	2.4	4.9
		40～49歳	95	45.3	10.5	-	-	10.5	3.2	6.3
		50～59歳	92	51.1	2.2	-	-	4.3	1.1	6.5
		60～69歳	121	50.4	-	-	3.3	-	-	9.1
		70歳以上	101	57.4	3.0	3.0	13.9	1.0	4.0	8.9
		無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	女性全体	660	43.2	5.9	0.8	3.0	8.5	3.0	7.4
		18～29歳	92	13.0	3.3	-	1.1	1.1	4.3	4.3
		30～39歳	116	45.7	15.5	-	-	19.8	6.0	10.3
		40～49歳	103	47.6	15.5	1.9	-	30.1	3.9	5.8
		50～59歳	102	49.0	1.0	-	-	-	2.0	8.8
		60～69歳	140	51.4	0.7	0.7	2.1	0.7	1.4	7.9
70歳以上		107	45.8	-	1.9	15.0	-	0.9	6.5	
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	-

(その2)

性別・年齢		%	農協・地域活動	趣味・学芸・伝統文化など	障害者・高齢者などに対する社会福祉活動	国際交流・ボランティア活動	その他	特に活動していない	無回答	
全体			1.6	9.7	3.4	2.1	2.6	45.5	1.2	
性別・年齢	男性	男性全体	2.5	5.4	2.2	1.6	2.0	2.4	47.7	1.5
		18～29歳	1.7	1.7	-	-	1.7	-	78.3	3.3
		30～39歳	-	3.7	1.2	-	1.2	1.2	63.4	1.2
		40～49歳	4.2	-	-	-	2.1	-	44.2	2.1
		50～59歳	3.3	3.3	1.1	2.2	3.3	3.3	40.2	2.2
		60～69歳	1.7	8.3	3.3	1.7	1.7	4.1	43.0	0.8
		70歳以上	4.0	12.9	5.9	5.0	2.0	4.0	32.7	-
		無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	女性全体	0.8	12.9	4.5	2.6	3.0	2.3	44.1	0.8
		18～29歳	-	3.3	1.1	3.3	-	-	80.4	-
		30～39歳	-	5.2	1.7	0.9	8.6	0.9	45.7	0.9
		40～49歳	1.9	8.7	1.9	1.9	-	1.0	39.8	-
		50～59歳	-	12.7	2.9	1.0	2.0	2.9	40.2	-
		60～69歳	1.4	25.7	10.7	3.6	2.9	5.0	29.3	0.7
70歳以上		0.9	16.8	6.5	4.7	3.7	2.8	38.3	2.8	
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	

【在住年数別】実際に参加している団体・活動

在住年数別にみると、「特に活動していない」の比率が、在住年数が短いほど高い傾向がみられる。「自治会」、「農協・商工会など経済団体」などの地域活動は在住年数が短いほど地域活動への参加率が低い傾向がみられる。「子供会」、「PTA」は平成7年～平成16年で他よりも比率が高いのが目立つ。

(その1)

%		全体 (実数)	自治会	子供会	婦人会	老人クラブ	PTA	さま遊友クラブ	スポーツ団体
全体		1219	43.2	4.9	0.7	3.3	6.3	2.5	7.2
在住年数	昭和19年以前	30	80.0	3.3	3.3	20.0	3.3	6.7	6.7
	昭和20年～昭和29年	21	71.4	-	-	4.8	-	-	-
	昭和30年～昭和39年	73	58.9	5.5	2.7	8.2	5.5	1.4	12.3
	昭和40年～昭和49年	234	48.3	3.4	1.7	6.4	6.0	1.7	10.7
	昭和50年～昭和59年	239	45.6	2.1	-	2.1	1.7	1.3	8.8
	昭和60年～平成6年	217	40.6	3.7	-	1.4	6.9	2.3	5.5
	平成7年～平成16年	278	38.8	10.4	0.4	0.4	13.3	4.3	6.5
	平成17年以降	116	19.8	4.3	-	-	0.9	1.7	2.6
無回答		11	27.3	-	-	18.2	-	-	-

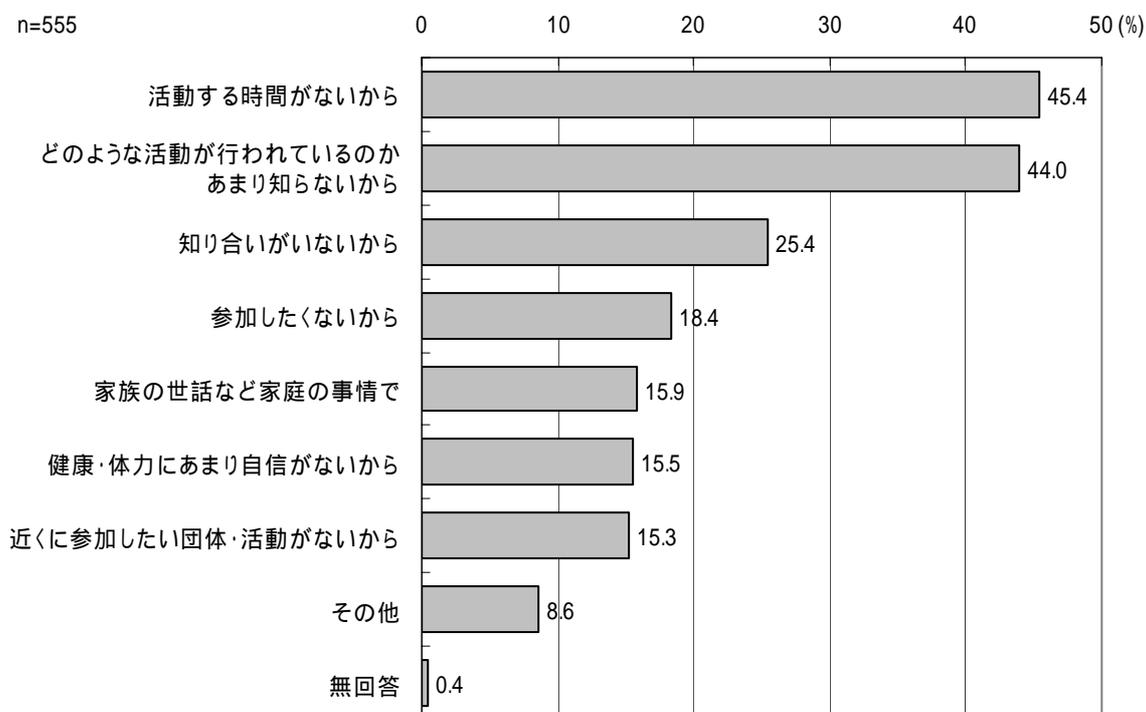
(その2)

%		地域協 農協・商 会など を通した 活動	の趣味・ 団体の活 動 学習・ 伝統文化 など	祉障高 活害者 動など に對 する 社・精 会神	会社 奉仕)の 活動 ボラ ンティア (社福	国 際交 流・環 境な ど社会 福	な リサイ クル の消 費生 活活 動 不 用品 交換 会	そ の 他	特 に活 動し てい ない	無 回 答
全体		1.6	9.7	3.4	2.1	2.6	2.3	45.5	1.2	
在住年数	昭和19年以前	16.7	10.0	13.3	3.3	3.3	10.0	13.3	3.3	
	昭和20年～昭和29年	9.5	14.3	-	-	-	-	28.6	-	
	昭和30年～昭和39年	4.1	16.4	5.5	2.7	-	1.4	30.1	-	
	昭和40年～昭和49年	1.7	17.5	5.1	3.8	2.1	3.4	35.5	1.7	
	昭和50年～昭和59年	0.4	13.0	3.8	1.3	2.5	2.1	43.5	0.4	
	昭和60年～平成6年	0.5	7.4	5.1	2.3	3.2	2.3	47.0	0.5	
	平成7年～平成16年	0.7	4.0	0.4	2.2	3.6	1.8	52.2	0.7	
	平成17年以降	0.9	0.9	0.9	-	1.7	0.9	72.4	3.4	
無回答		9.1	-	-	-	9.1	-	45.5	18.2	

(3) 地域活動をしていない主な理由

問7 - 1 問7で「14.特に活動していない」とお答えの方にお伺いします。活動していない主な理由は何ですか。【3つまで選んでください】

地域活動をしていない主な理由を聞いた結果最も多かったのは、「活動する時間がないから」(45.4%)であった。次いで、「どのような活動が行われているのかあまり知らないから」(44.0%)、「知り合いがいないから」(25.4%)、「参加したくないから」(18.4%)、が続く。



【性別・年齢別】地域活動をしていない主な理由

性別・年齢別にみると、全体で1位であった「活動する時間がないから」は、男性の60歳未満の年代すべてで50%以上と高い比率を示している。女性では30歳～39歳でやや低くなっているものの、若い世代での比率が高い傾向がみられる。全体で2位であった「どのような活動が行われているのかあまり知らないから」は、女性の18歳～29歳で68.9%となっており、比率が高いのが目立つ。男性では40歳～49歳で59.5%となっており、他の年代よりも比率が高い。「健康・体力にあまり自信がないから」は、男女とも加齢とともに増加する傾向にあるが、特に女性の70歳以上で極めて比率が高い。

		全体 (実数)	家族の世話など家庭の事情	いろいろな活動が行われないから	近くに参加したい団体・活動がないから	活動する時間がないから	健康・体力にあまり自信がないから	知り合いがいらないから	参加したくないから	その他	無回答
%											
全体		555	15.9	44.0	15.3	45.4	15.5	25.4	18.4	8.6	0.4
性別・年齢	男性全体	263	10.6	43.0	20.2	51.0	11.0	26.2	17.9	5.7	0.4
	18～29歳	47	8.5	44.7	10.6	61.7	2.1	17.0	21.3	4.3	-
	30～39歳	52	11.5	51.9	32.7	55.8	-	34.6	15.4	1.9	-
	40～49歳	42	14.3	59.5	11.9	61.9	2.4	28.6	23.8	4.8	-
	50～59歳	37	5.4	29.7	13.5	54.1	8.1	27.0	16.2	10.8	-
	60～69歳	52	11.5	38.5	25.0	44.2	23.1	25.0	11.5	3.8	1.9
	70歳以上	33	12.1	27.3	24.2	21.2	36.4	24.2	21.2	12.1	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性全体	291	20.6	45.0	11.0	40.5	19.6	24.4	18.9	11.3	0.3
	18～29歳	74	14.9	68.9	9.5	50.0	4.1	24.3	25.7	12.2	-
	30～39歳	53	20.8	49.1	7.5	45.3	7.5	17.0	22.6	9.4	-
	40～49歳	41	26.8	48.8	4.9	53.7	12.2	26.8	14.6	9.8	2.4
	50～59歳	41	17.1	31.7	17.1	41.5	12.2	26.8	22.0	7.3	-
	60～69歳	41	26.8	39.0	19.5	34.1	34.1	29.3	12.2	12.2	-
70歳以上	41	22.0	12.2	9.8	9.8	63.4	24.4	9.8	17.1	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

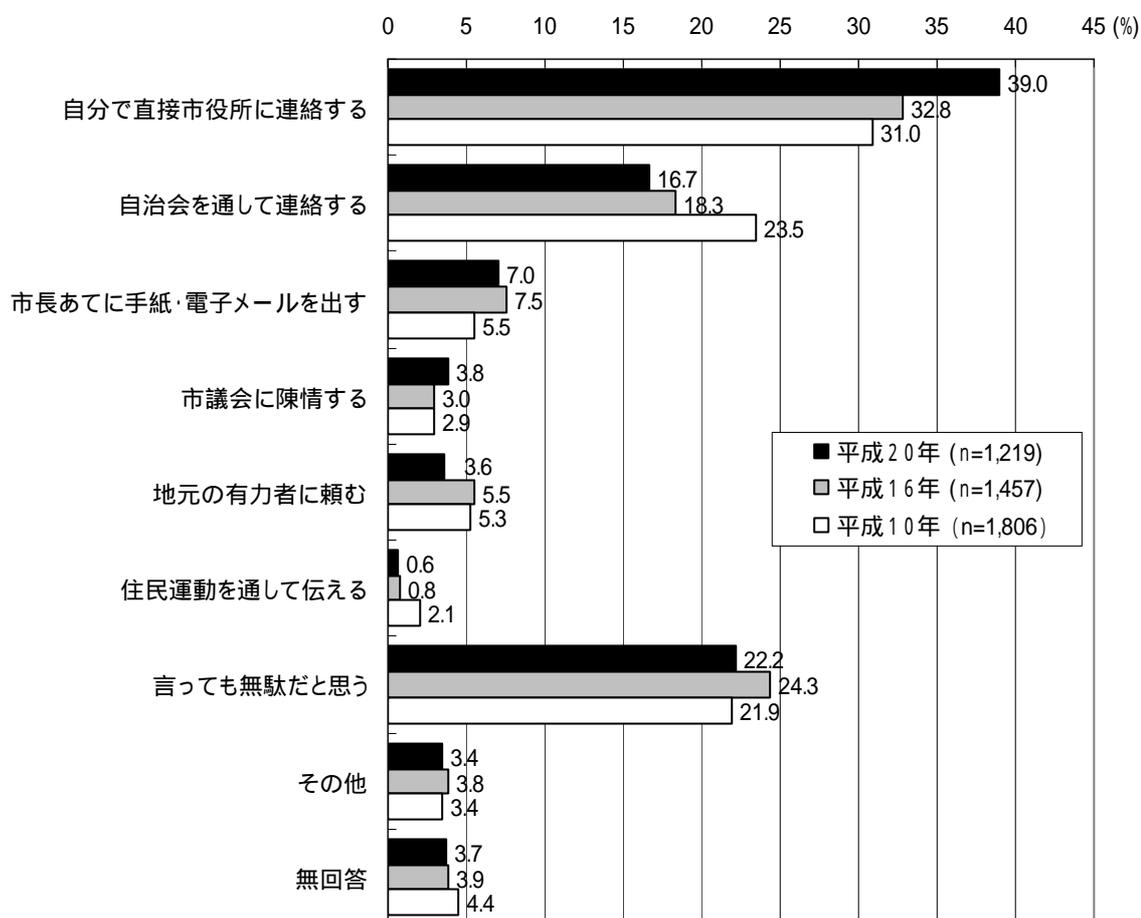
5. 市民参加や広報、情報化について

(1) 要求や問題を市政に反映させる方法

問8 あなたは身のまわりのことで要求や問題があった場合、それを市政に反映させるためにどのような方法をとりますか。【1つだけ選んでください】

要求や問題を市政に反映させる方法を聞いた結果最も多かったのは、「自分で直接市役所に連絡する」(39.0%)であった。次いで、「言っても無駄だと思う」(22.2%)、「自治会を通して連絡する」(16.7%)、「市長あてに手紙・電子メールを出す」(7.0%)、「市議会に陳情する」(3.8%)が続く。

過去の調査と比較すると、「自分で直接市役所に連絡する」は年々比率が増加している傾向にあり、反対に、「自治会を通して連絡する」、「住民運動をして伝える」の比率は減少している。「自分で直接市役所に連絡する」の比率が高くなっているのが目立つ。



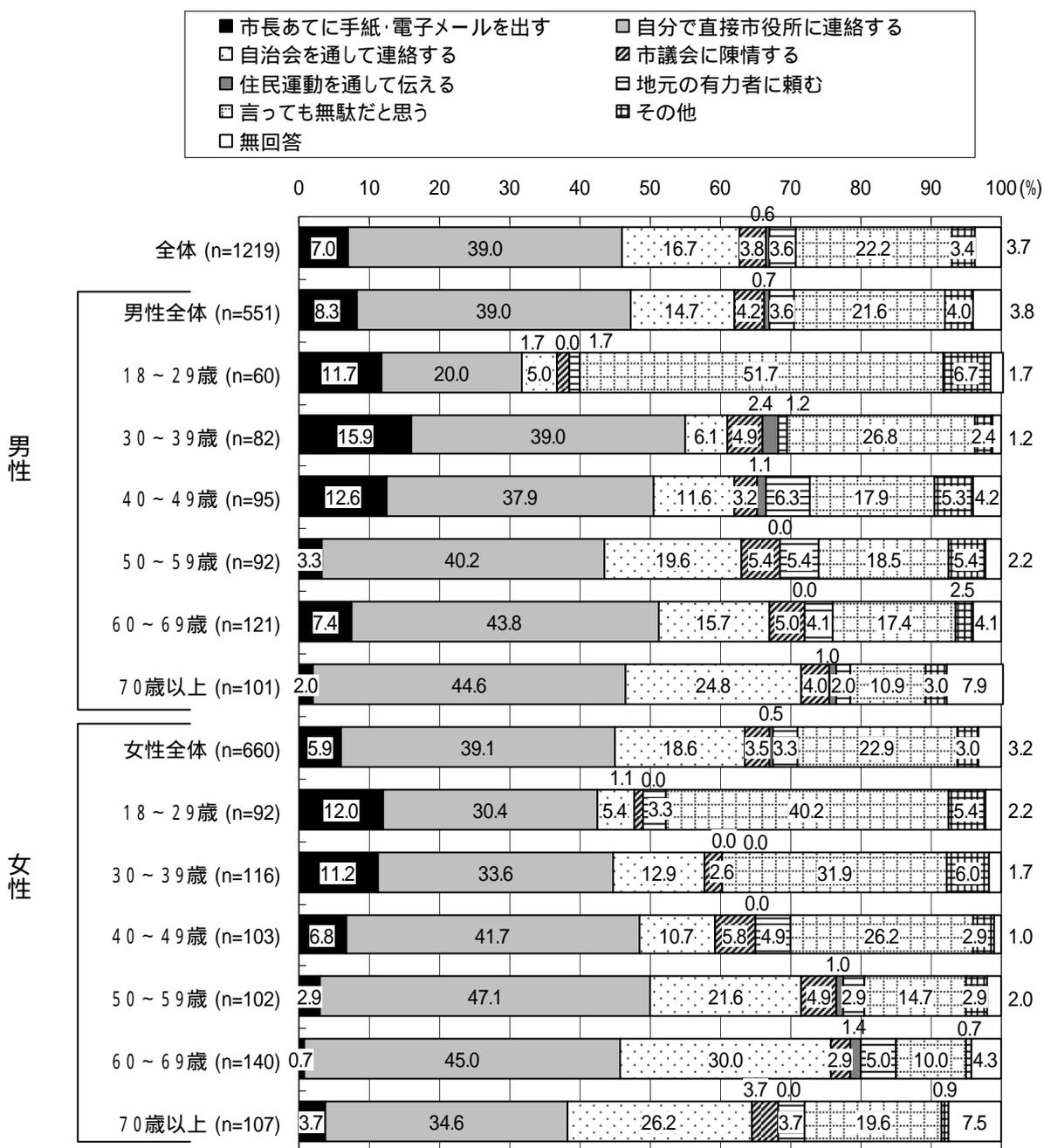
【性別・年齢別】要求や問題を市政に反映させる方法

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「自分で直接市役所に連絡する」は、男女ともに18歳～29歳を除くすべての年代で1位となっており、特に50歳以上で比率が高い。

全体で2位だった「言っても無駄だと思う」は、男女ともに18歳～29歳で1位となっており、特に男性で51.7%と比率が高いのが目立つ。

全体で3位だった「市長あてに手紙・電子メールを出す」は、男性30歳代で最も高く、男性40歳代、女性18歳～29歳などでも比率が高かった。

自分で行動を起こすのは若い年齢に多く、加齢とともに自治体や市議会、地元の有力者など、他と協力して訴える傾向がみられる。



(2) 日常生活に役立つ情報を得るための媒体(メディア)

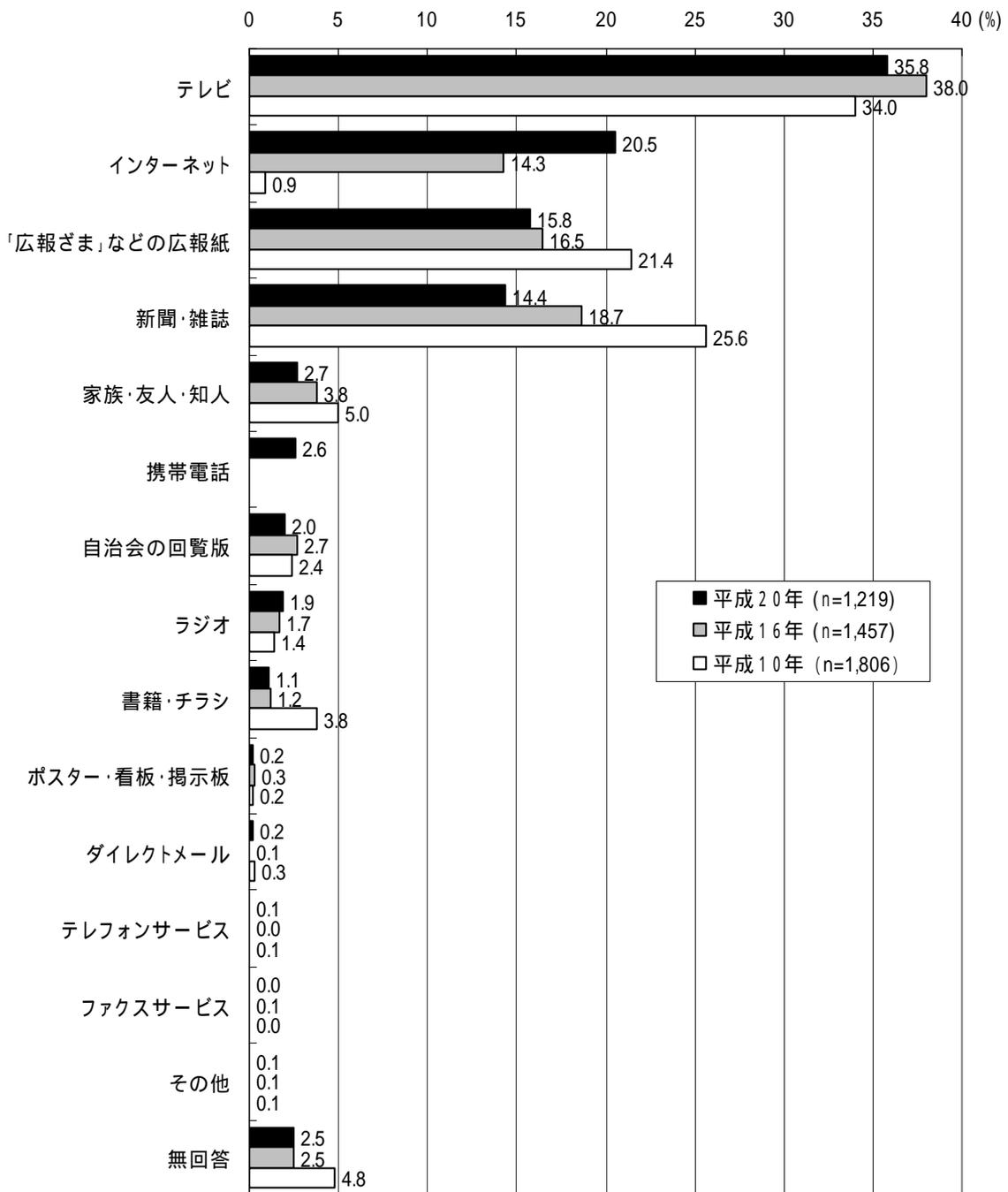
問9 あなたは現在、自分自身の日常生活に役立つ情報を知るためにどのような媒体(メディア)を使っていますか。【よく使う順に3つ選んで、あてはまる**選択肢の数字**を下の **の中に1つずつ記入**してください】

最もよく使う媒体

日常生活に役立つ情報を得るため1番よく使う媒体(メディア)を聞いた結果最も多かったのは、「テレビ」(35.8%)であった。次いで、「インターネット」(20.5%)、「「広報ざま」などの広報紙」(15.8%)、「新聞・雑誌」(14.4%)、「家族・友人・知人」(2.7%)が続く。

過去の調査と比較すると、「インターネット」が急速に増加し、「「広報ざま」などの広報紙」、「新聞・雑誌」、「書籍・チラシ」といった活字媒体が減少していることが目立つ。

※ 「携帯電話」は今回(平成20年)から調査項目に加わったため、過去のデータはない。



【性別・年齢別】日常生活に役立つ情報を得るため1番よく使う媒体

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「テレビ」は、男女ともに50歳代で最も比率が高くなっている。女性ではすべての年齢で1位であった。

全体で2位だった「インターネット」は、男性18歳～29歳、30歳代で50%を超え、比率が高いが目立つ。女性では30歳代、40歳代で30%を超えている。比較的女性より男性で比率が高い。男女とも利用率は、30歳代をピークに加齢とともに減少する傾向がみられる。

全体で3位だった「「広報ざま」などの広報紙」は、男女ともに70歳以上で最も比率が高くなっている。反対に、男女とも18歳～29歳と40歳代で比率が低いが目立つ。

「ポスター・看板・掲示板」、「テレホンサービス」、「ファックスサービス」、「ダイレクトメール」は極めて比率が低い。

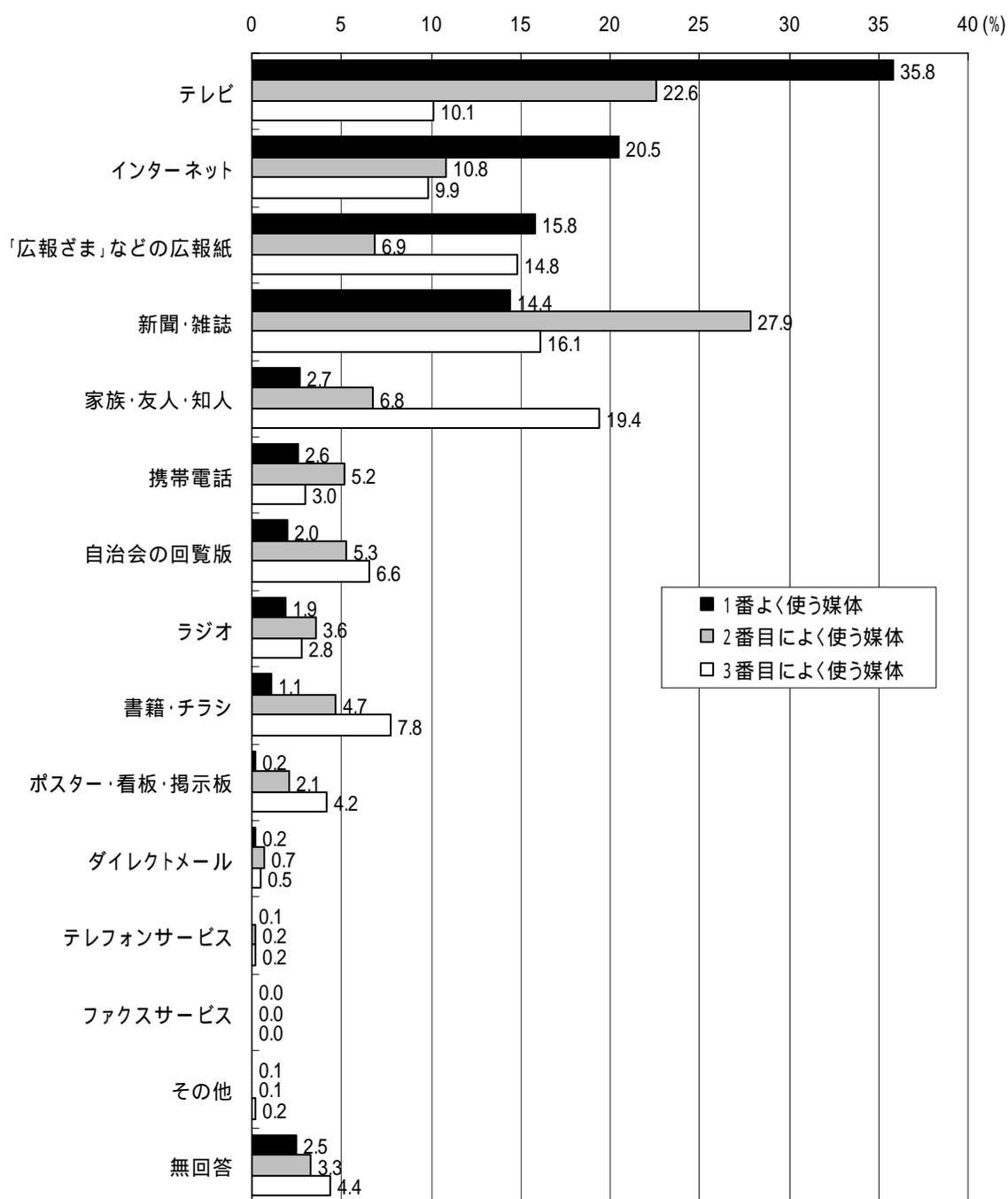
%		全体 (実数)	「広報ざま」 などの広報紙	テレビ	ラジオ	新聞・雑誌	携帯電話	書籍・チラシ	インターネット	ポスター・看板・ 掲示板	自治会の 回覧版	テレホンサービス	ファックスサービス	ダイレクトメール	家族・友人・知人	その他	無回答	
全体		1219	15.8	35.8	1.9	14.4	2.6	1.1	20.5	0.2	2.0	0.1	-	0.2	2.7	0.1	2.5	
性別・ 年齢	男性全体	551	14.2	32.5	3.1	17.2	2.0	1.3	24.3	0.2	1.5	0.2	-	0.2	0.9	0.2	2.4	
	18～29歳	60	5.0	25.0	5.0	1.7	10.0	1.7	50.0	-	-	-	-	-	1.7	-	-	
	30～39歳	82	11.0	18.3	2.4	4.9	2.4	1.2	53.7	1.2	1.2	-	-	-	1.2	-	2.4	
	40～49歳	95	7.4	27.4	6.3	14.7	2.1	1.1	37.9	-	-	-	-	-	1.1	-	2.1	
	50～59歳	92	18.5	46.7	-	10.9	-	-	18.5	-	2.2	-	-	-	1.1	-	2.2	
	60～69歳	121	17.4	35.5	4.1	28.9	0.8	2.5	5.0	-	-	-	-	-	0.8	-	5.0	
	70歳以上	101	20.8	36.6	1.0	30.7	-	1.0	1.0	-	5.0	1.0	-	1.0	-	1.0	1.0	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性全体	660	17.0	38.6	0.8	12.3	3.2	0.9	17.6	0.3	2.4	-	-	-	0.2	4.2	-	2.6
	18～29歳	92	4.3	41.3	-	4.3	15.2	-	28.3	-	-	-	-	-	-	4.3	-	2.2
	30～39歳	116	17.2	34.5	-	8.6	4.3	0.9	31.0	-	1.7	-	-	-	1.7	-	-	
	40～49歳	103	8.7	39.8	-	6.8	1.9	1.0	30.1	1.0	1.9	-	-	1.0	4.9	-	2.9	
	50～59歳	102	16.7	43.1	-	15.7	-	2.0	13.7	-	-	-	-	-	8.8	-	-	
	60～69歳	140	22.1	40.0	1.4	22.1	-	1.4	4.3	0.7	2.9	-	-	-	2.1	-	2.9	
70歳以上	107	29.0	33.6	2.8	12.1	-	-	2.8	-	7.5	-	-	-	4.7	-	7.5		
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

2 番目、3 番目によく使う媒体

日常生活に役立つ情報を得るために 2 番目によく使う媒体(メディア)を聞いた結果最も多かったのは、「新聞・雑誌」(27.9%)であった。次いで、「テレビ」(22.6%)、「インターネット」(10.8%)、「「広報ざま」などの広報紙」(6.9%)、「家族・友人・知人」(6.8%)が続く。

日常生活に役立つ情報を得るために 3 番目によく使う媒体(メディア)を聞いた結果最も多かったのは、「家族・友人・知人」(19.4%)であった。次いで、「新聞・雑誌」(16.1%)、「「広報ざま」などの広報紙」(14.8%)、「テレビ」(10.1%)「インターネット」(9.9%)、が続く。

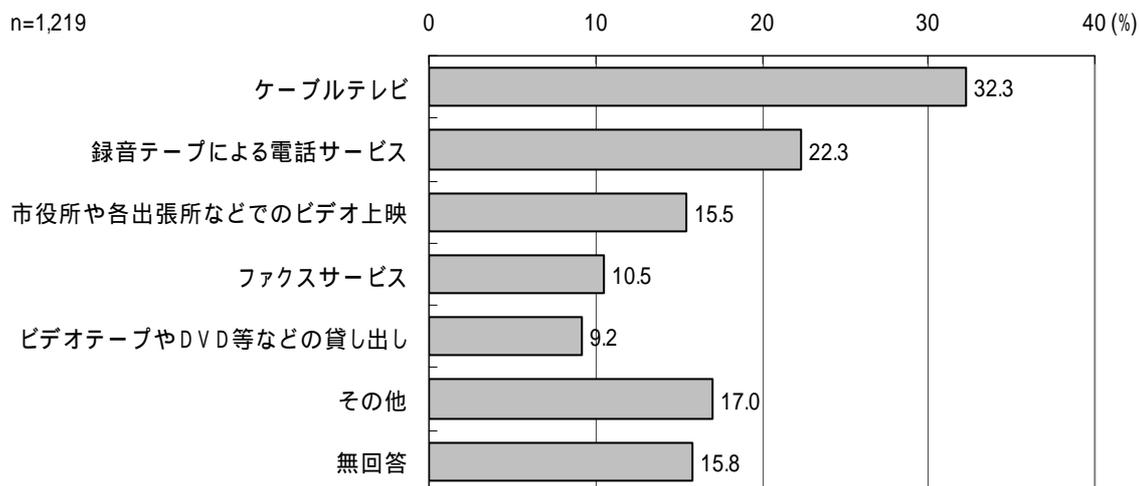
日常生活に役立つ情報を得るために使う媒体は「テレビ」、「インターネット」、「「広報ざま」などの広報紙」、「新聞・雑誌」などの媒体が良く使われる。それを補完する形で「家族・友人・知人」からの情報などが使われている傾向がみられる。



(3) 市のお知らせの便利な伝達方法

問10 市のお知らせについては、「広報ざま」のほか、今後どのようなものを使うと便利だと思いますか。【あてはまるものをいくつでも選んでください】

市のお知らせの便利な伝達方法を聞いた結果最も多かったのは、「ケーブルテレビ」(32.3%)、であった。次いで、「録音テープによる電話サービス」(22.3%)、「市役所や各出張所などでのビデオ上映」(15.5%)、「ファックスサービス」(10.5%)が続く。



【性別・年齢別】市のお知らせの便利な伝達方法

性別・年齢別にみると、全体で1位であった「ケーブルテレビ」は、70歳以上を除き、どの年代でも最も比率が高くなっている。また、70歳以上では全体で2位であった「録音テープによる電話サービス」が最も比率が高い。「市役所や各出張所などでのビデオ上映」は60歳以上の高齢者の比率が高いが目立つ。

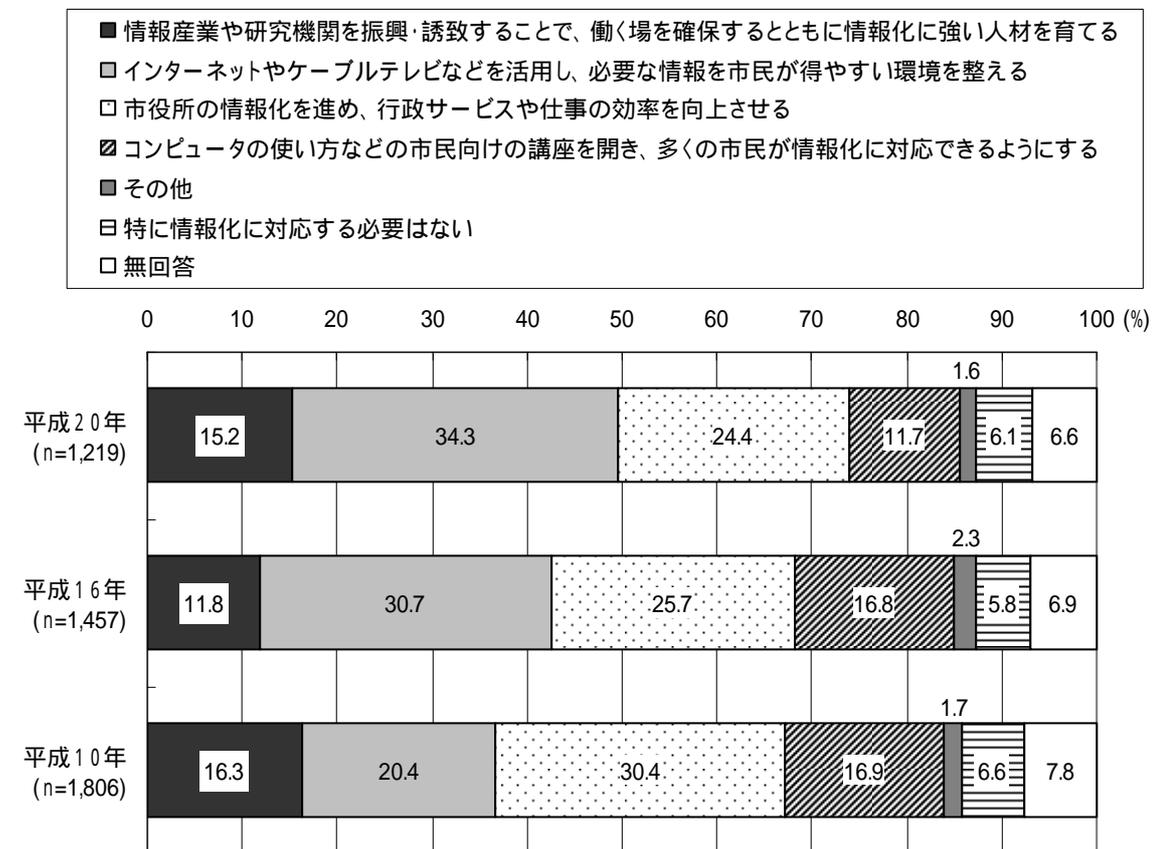
		全体 (実数)	ビデオテープやDVD等 の貸し出し	市役所や各出張所など でのビデオ上映	録音テープによる電話サ ービス	ケーブルテレビ	ファクスサービス	その他	無回答	
%										
全体		1219	9.2	15.5	22.3	32.3	10.5	17.0	15.8	
性別・ 年齢	男性	男性全体	551	12.5	15.1	19.4	35.6	10.2	20.5	12.2
		18～29歳	60	11.7	10.0	6.7	41.7	3.3	30.0	6.7
		30～39歳	82	8.5	11.0	12.2	40.2	3.7	26.8	15.9
		40～49歳	95	12.6	8.4	8.4	50.5	9.5	26.3	11.6
		50～59歳	92	15.2	10.9	23.9	38.0	12.0	20.7	7.6
		60～69歳	121	14.9	19.8	24.8	30.6	14.0	17.4	9.9
		70歳以上	101	10.9	25.7	32.7	17.8	13.9	7.9	19.8
		無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	女性全体	660	6.5	15.8	24.8	29.7	10.9	14.1	18.5
		18～29歳	92	3.3	12.0	23.9	41.3	6.5	21.7	8.7
		30～39歳	116	5.2	14.7	21.6	30.2	9.5	17.2	15.5
		40～49歳	103	5.8	10.7	23.3	39.8	12.6	12.6	11.7
		50～59歳	102	7.8	14.7	29.4	33.3	13.7	10.8	17.6
		60～69歳	140	7.9	23.6	29.3	26.4	12.1	10.0	18.6
		70歳以上	107	8.4	15.9	20.6	10.3	10.3	14.0	37.4
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	

(4) 「高度情報化」において重点的に行うこと

問11 最近、「高度情報化」という言葉がよく使われます。このような時代に、今後、座間市はどのようなことを重点的に行えば良いとお考えですか。【1つだけ選んでください】

「高度情報化」において市が重点的に行うべきことを聞いた結果最も多かったのは、「インターネットやケーブルテレビなどを活用し、必要な情報を市民が得やすい環境を整える」(34.3%)であった。次いで、「市役所の情報化を進め、行政サービスや仕事の効率を向上させる」(24.4%)、「情報産業や研究機関を振興・誘致することで、働く場を確保するとともに情報化に強い人材を育てる」(15.2%)、「コンピュータの使い方などの市民向けの講座を開き、多くの市民が情報化に対応できるようにする」(11.7%)が続く。

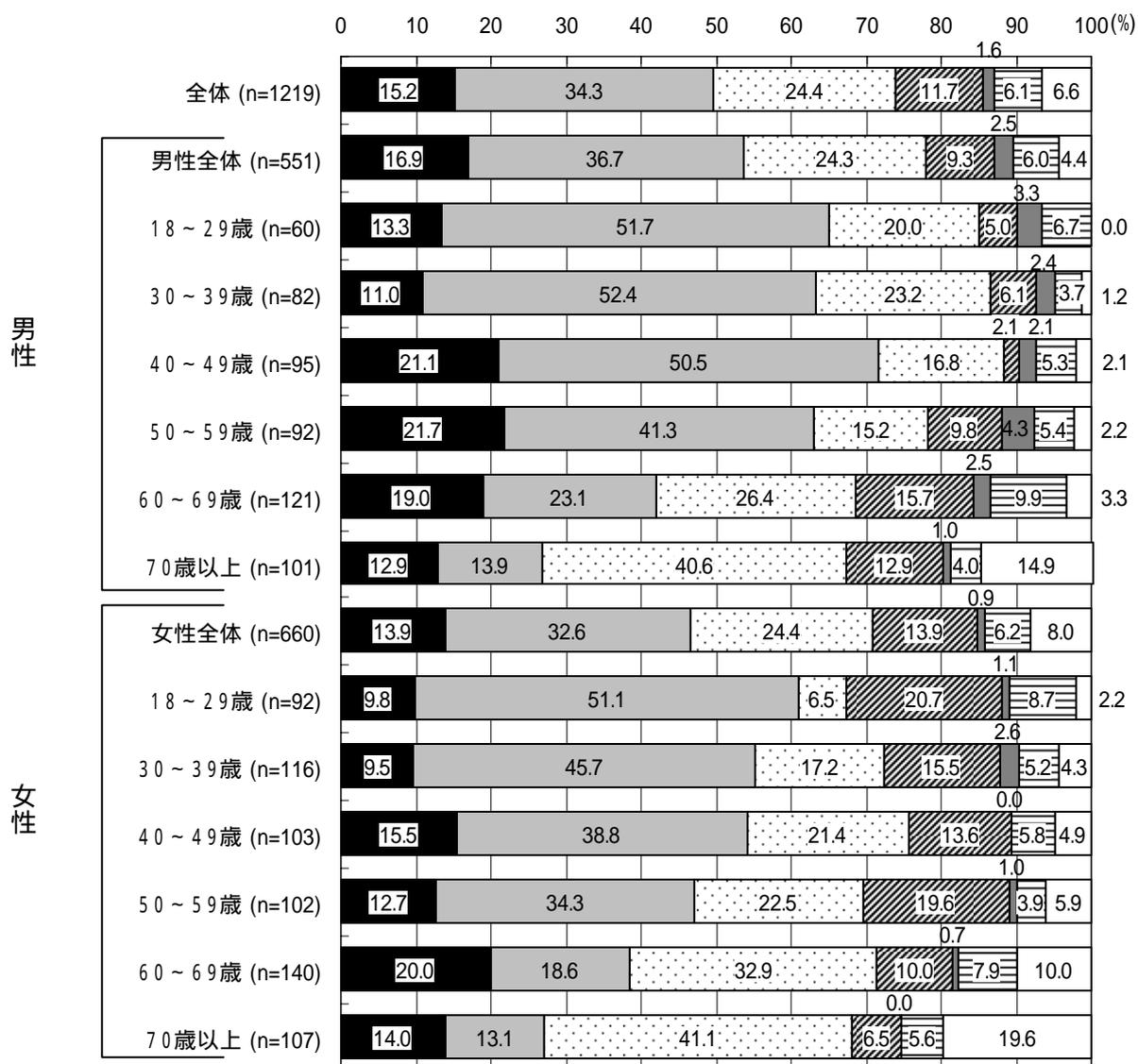
過去の調査と比較すると、「インターネットやケーブルテレビなどを活用し、必要な情報を市民が得やすい環境を整える」は、年々増加している。反対に「市役所の情報化を進め、行政サービスや仕事の効率を向上させる」は年々減少している。コンピュータの利用が一般的になってきたため、市民に利用しやすい環境作りが求められている傾向が見られる。



【性別・年齢別】「高度情報化」において市が重点的に行うべきこと

性別・年齢別にみると、全体で1位であった「インターネットやケーブルテレビなどを活用し、必要な情報を市民が得やすい環境を整える」の比率は男性で30歳代、女性で18歳～29歳をピークに若い世代で比率が高くなっている。2位であった「市役所の情報化を進め、行政サービスや仕事の効率を向上させる」は、男女とも60歳代以上の年齢で比率が高くなっている。また、3位であった「情報産業や研究機関を振興・誘致することで、働く場を確保するとともに情報化に強い人材を育てる」は、男性の方が女性よりも比率が高い。

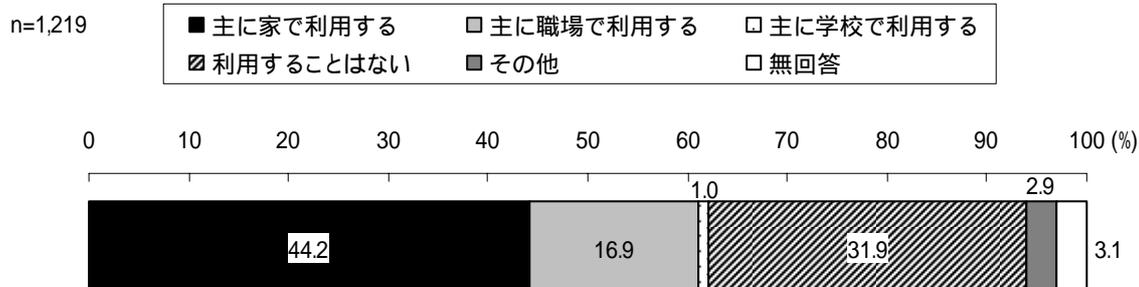
- 情報産業や研究機関を振興・誘致することで、働く場を確保するとともに情報化に強い人材を育てる
- インターネットやケーブルテレビなどを活用し、必要な情報を市民が得やすい環境を整える
- 市役所の情報化を進め、行政サービスや仕事の効率を向上させる
- ▨ コンピュータの使い方などの市民向けの講座を開き、多くの市民が情報化に対応できるようにする
- その他
- 特に情報化に対応する必要はない
- 無回答



(5) 日常の場面でのインターネット利用状況

問12 あなたは、家、職場・学校、外出先などの日常の場面でインターネットを利用することがありますか。【1つだけ選んでください】

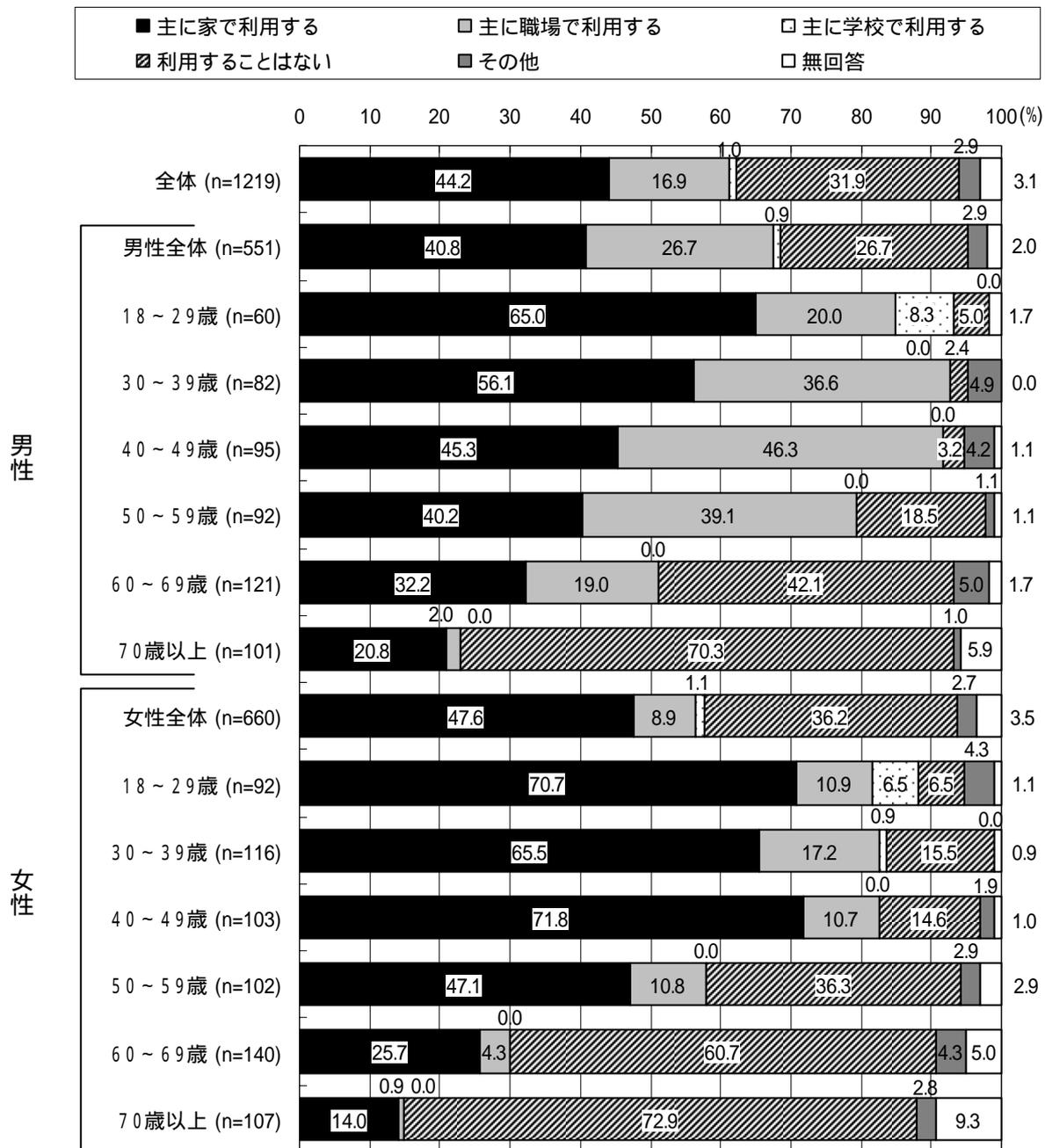
日常の場面でのインターネット利用状況を聞いた結果最も多かったのは、「主に家で利用する」(44.2%)であった。次いで、「利用することはない」(31.9%)、「主に職場で利用する」(16.9%)、「主に学校で利用する」(1.0%)が続く。



【性別・年齢別】日常の場面でのインターネット利用状況

性別・年齢別にみると、「主に家で利用する」は男性で若い年齢ほど比率が高くなっている。女性でも若い年齢の比率が高いのが目立つ。「主に職場で利用する」は男性の30歳代から50歳代で特に比率が高く、女性では30歳代で他の年齢よりも比率が高くなっている。

全体的にインターネットの利用率は男性の方が高く、職場での利用の比率が女性よりも高いのが目立つ。「利用することはない」は男女ともに加齢とともに比率が高くなる傾向が見られる。

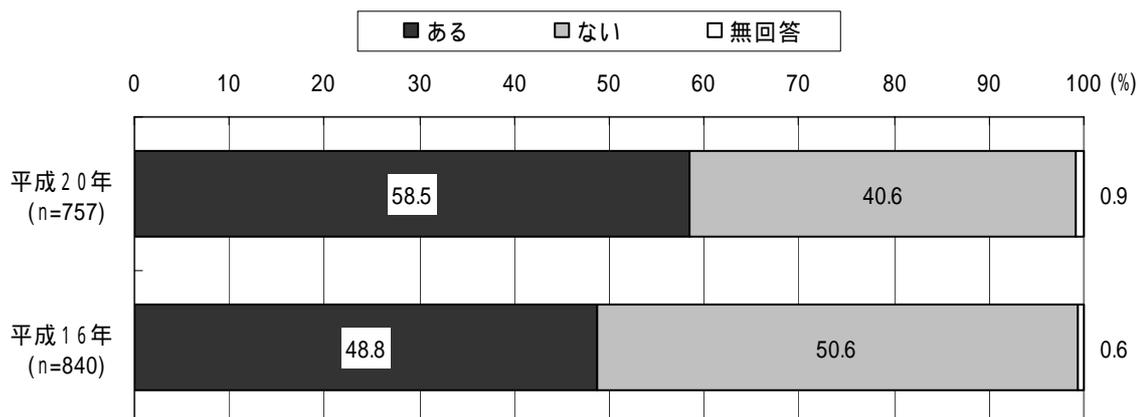


(6) 座間市のホームページの閲覧経験

問12-1 問12で「1.主に家で利用する」「2.主に職場で利用する」「3.主に学校で利用する」とお答えの方にお伺いします。座間市のホームページを閲覧したことがありますか。

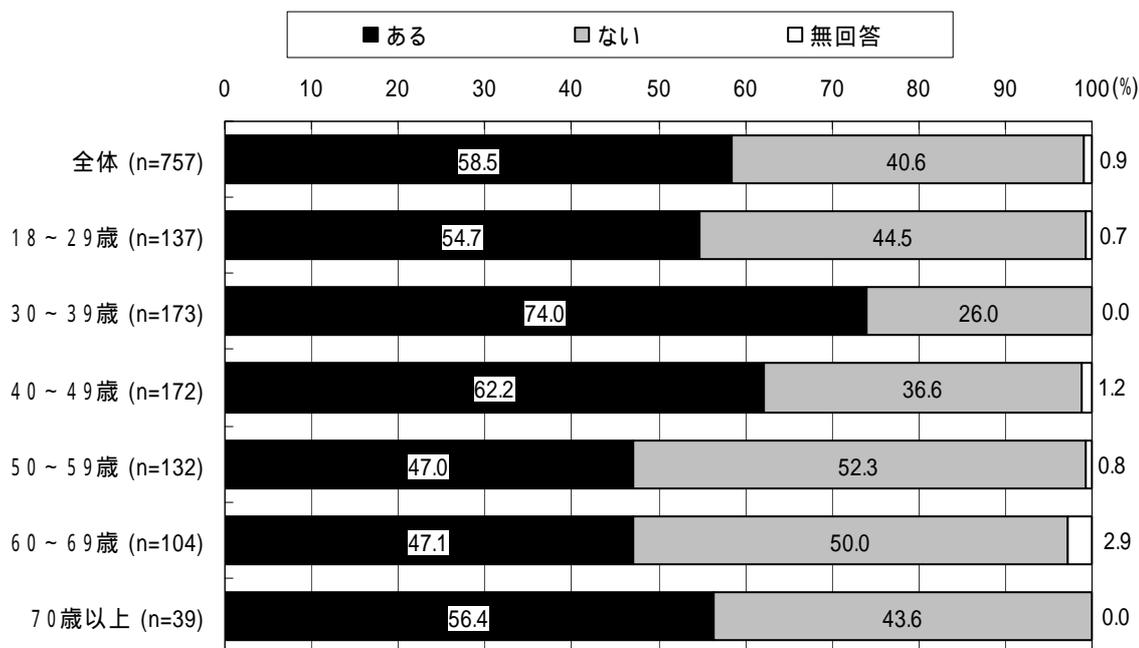
座間市のホームページの閲覧経験を聞いた結果は、「ある」(58.5%)、「ない」(40.6%)であった。

過去の調査(平成16年)と比較すると「ある」が 9.7 ポイント増加している。問9で日常生活に役立つ情報を知るための媒体としてインターネットの利用が上位に挙げられていたことも関連する結果となった。



【年齢別】座間市のホームページの閲覧経験

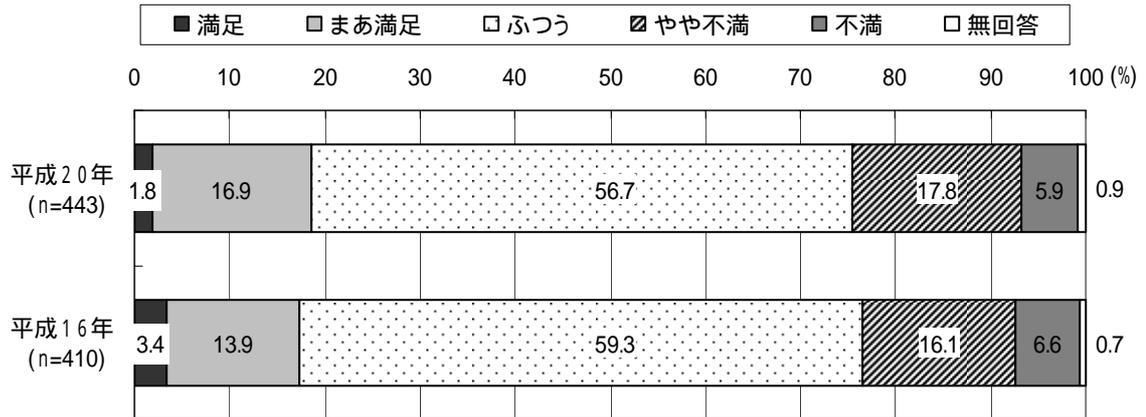
年齢別にみると、閲覧経験が「ある」と回答した比率は30歳代で最も高く、70歳以上でも50%を超えている。反対に50歳代で最も低かった。



(7) 座間市のホームページの満足度

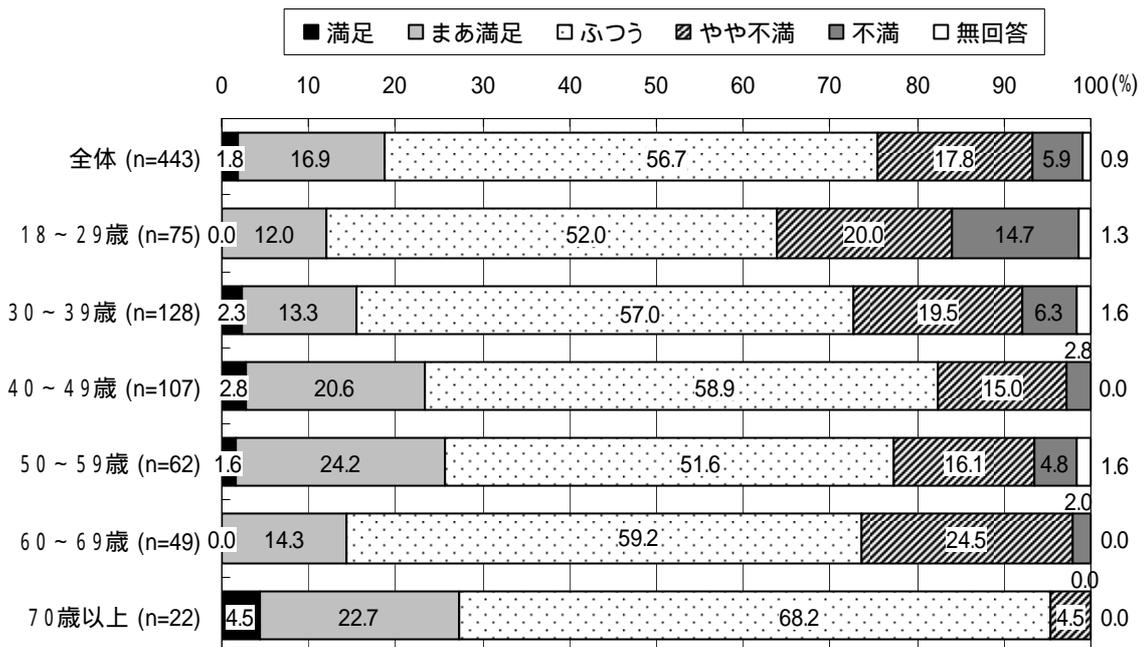
問12-2 問12-1で「1.ある」とお答えの方にお伺いします。現在のホームページに満足していますか。【1つだけ選んでください】

座間市のホームページの満足度を聞いた結果最も多かったのは、「ふつう」(56.7%)であった。次いで、「やや不満」(17.8%)、「まあ満足」(16.9%)、「不満」(5.9%)、「満足」(1.8%)が続く。「満足」と「まあ満足」を合わせた《座間市のホームページの満足度》は、18.7%で前回の調査(平成16年)の17.3%よりも高くなっている。また、「満足」+「まあ満足」-「やや不満」-「不満」は-5.0ポイントとなった。若干ではあるが、満足度は高くなっている傾向が見られる。



【年齢別】座間市のホームページの満足度

年齢別にみると、どの年代においても「ふつう」の比率が最も高くなっている。「満足」+「まあ満足」-「やや不満」-「不満」で表した《座間市のホームページの満足度》は70歳以上で22.7ポイントと最も高く、次いで、40歳代で5.6ポイント、50歳代で4.9ポイントと続く。反対に18歳～29歳で-22.7ポイントと最も低くなっている。



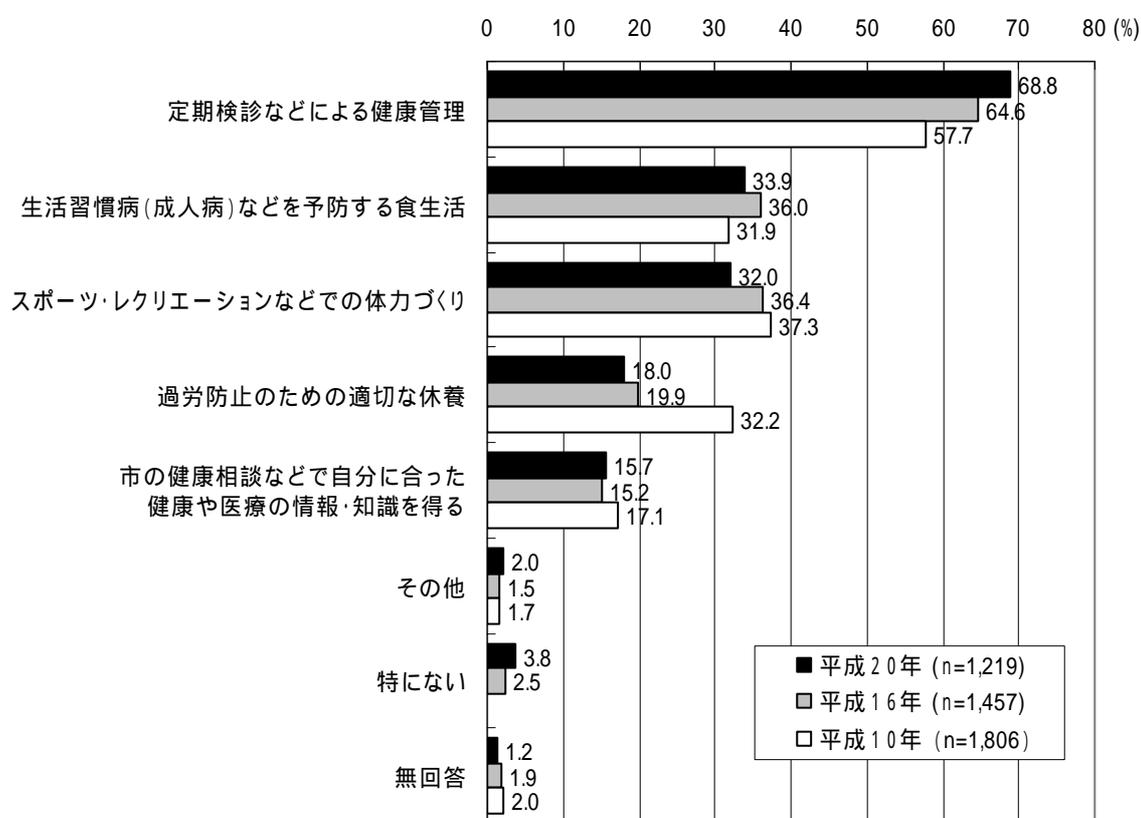
6. 健康づくりについて

(1) 健康づくりのために重要だと思うこと

問13 あなたは、ご自身の健康づくりのために今後どのようなことが重要だとお考えですか。【2つまで選んでください】

健康づくりのために重要だと思うことを聞いた結果最も多かったのは、「定期検診などによる健康管理」(68.8%)であった。次いで、「生活習慣病(成人病)などを予防する食生活」(33.9%)、「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」(32.0%)、「過労防止のための適切な休養」(18.0%)、「市の健康相談などで自分に合った健康や医療の情報・知識を得る」(15.7%)が続く。

過去の調査と比較すると、「定期検診などによる健康管理」は年々増加している。反対に「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」、「過労防止のための適切な休養」の比率が年々減少し、「生活習慣病(成人病)などを予防する食生活」も前回の調査(平成16年)と比較するとやや減少している。



【年齢別】健康づくりのために重要だと思うこと

年齢別にみると、「定期検診などによる健康管理」は、30歳代、60歳代、70歳以上では7割を超え、比率が高いのが目立つ。反対に「生活習慣病(成人病)などを予防する食生活」は18歳～29歳で最も比率が高く、若い年代ほど成人病に対する関心が高い傾向がみられる。「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」は70歳以上で比率が低いのが目立つが、その他の年齢ではあまり違いは見られない。「過労防止のための適切な休養」は18歳～29歳で最も高く、40歳代までの比率が高い。

%		全体 (実数)	定期検診などによる健康管理	市町村の健康相談や医療の情報に合った健康知識を得る	生活習慣病(成人病)などを予防する食生活	スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり	過労防止のための適切な休養	その他	特になし	無回答
全体		1219	68.8	15.7	33.9	32.0	18.0	2.0	3.8	1.2
年齢	18～29歳	152	53.3	10.5	41.4	34.9	31.6	1.3	3.9	0.7
	30～39歳	198	73.2	10.1	36.9	35.4	21.2	1.5	1.5	-
	40～49歳	198	63.6	10.1	33.8	36.9	25.3	3.0	2.5	1.0
	50～59歳	194	63.4	18.0	32.0	34.5	16.5	2.1	6.7	0.5
	60～69歳	262	76.0	19.1	31.7	35.1	9.5	1.5	3.8	0.8
	70歳以上	212	76.9	22.6	30.7	16.5	10.8	2.4	4.2	3.8
	無回答	3	66.7	66.7	-	-	-	-	-	33.3

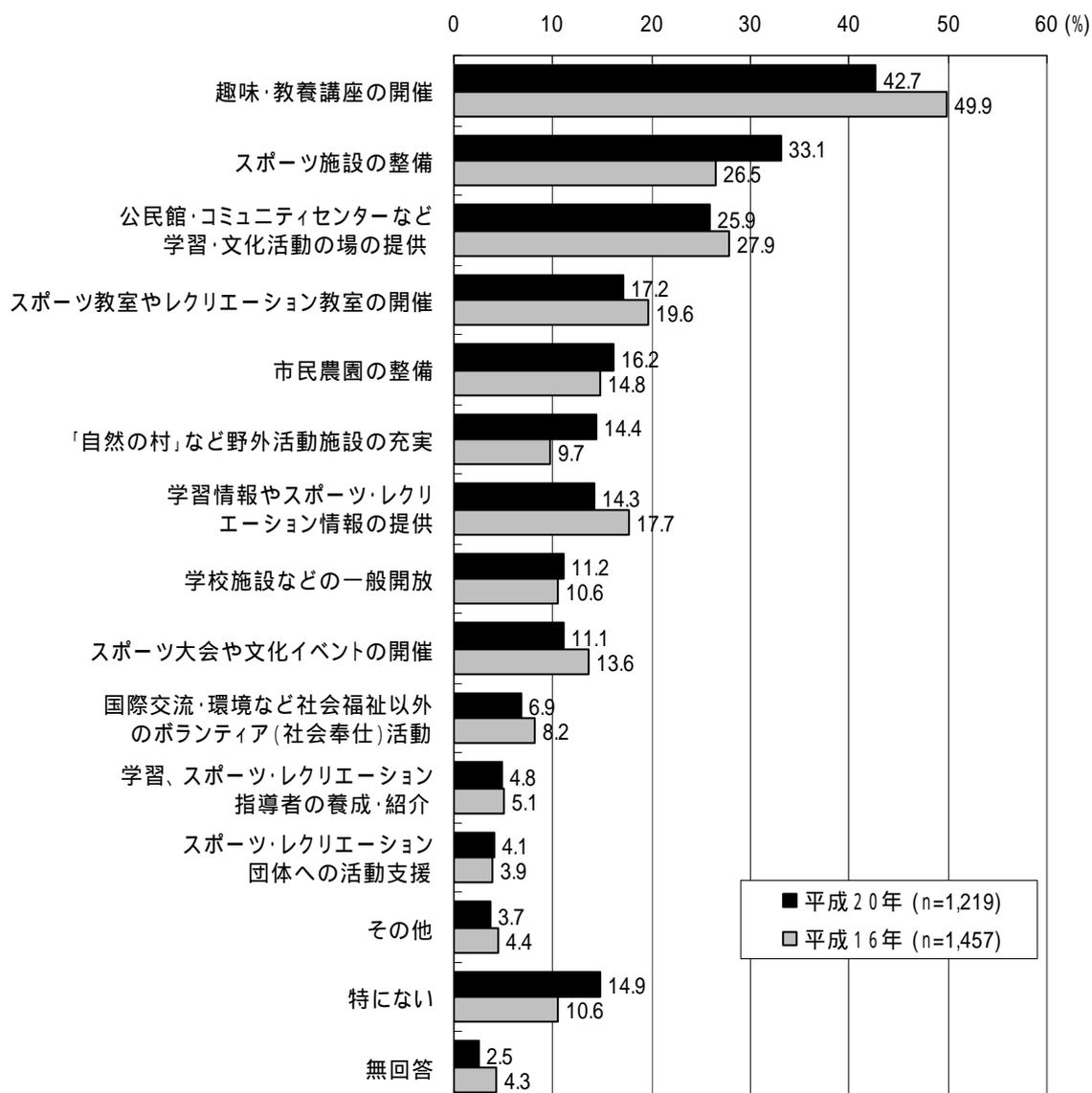
7. 自由時間(余暇)について

(1) 自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設

問14 今後、あなたが自由時間を過ごすために、どのような施策・施設が必要だとお考えですか。【3つまで選んでください】

自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設を聞いた結果最も多かったのは、「趣味・教養講座の開催」(42.7%)であった。次いで、「スポーツ施設の整備」(33.1%)、「公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供」(25.9%)、「スポーツ教室やレクリエーション教室の開催」(17.2%)、「市民農園の整備」(16.2%)が続く。

過去の調査と比較すると、「趣味・教養講座の開催」は大幅に減少しており、「学習情報やスポーツ・レクリエーション情報の提供」、「スポーツ教室やレクリエーション教室の開催」、「公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供」なども減少している。反対に、「スポーツ施設の整備」は大幅に増加している。



【性別・年齢別】自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設

性別・年齢別にみると、全体で1位であった「趣味・教養講座の開催」は、女性の50歳代、60歳代、で50%を超える高い比率となっている。反対に男性の40歳代で20%台と比率が低いのが目立つ。男性よりも女性の方が比率が高くなっている。

全体で2位であった「スポーツ施設の整備」は、男性の18歳～29歳、30歳代で50%を超える高い比率となっている。女性よりも男性の方が比率が高くなっている。

(その1)

%		全体 (実数)	化ス イポ イベ ント 大会 や文 催	備ス ポ ツ 施 設 の 整	場学 習・ セン ター 文化 活動 の 提 供	公民 館・ コミ ュニ ティ	般学 校 開 放 施 設 な ど の 一	シ ョ ン 情 報 の 提 供	学 習 情 報 や ス ポ ー ツ の 提 供	介 指 導 者 の 養 成 ・ 紹 介	レ ク リ エ ー シ ョ ン ・ 学 習 の 場	室ク ス ポ ー ツ 教 室 や レ ク リ エ ー シ ョ ン の 開 催	
全体		1219	11.1	33.1	25.9	11.2	14.3	4.8	17.2				
性別・ 年齢	男性全体	551	14.5	37.4	22.3	13.4	14.3	2.9	14.5				
	18～29歳	60	11.7	55.0	18.3	28.3	8.3	-	16.7				
	30～39歳	82	14.6	51.2	15.9	18.3	13.4	6.1	15.9				
	40～49歳	95	15.8	45.3	17.9	15.8	18.9	4.2	8.4				
	50～59歳	92	13.0	33.7	14.1	9.8	23.9	5.4	21.7				
	60～69歳	121	17.4	27.3	28.9	10.7	9.9	0.8	16.5				
	70歳以上	101	12.9	23.8	33.7	5.0	10.9	1.0	8.9				
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	女性全体	660	8.3	29.7	29.1	9.5	14.4	6.4	19.7				
	18～29歳	92	6.5	34.8	19.6	12.0	12.0	2.2	19.6				
	30～39歳	116	11.2	44.0	22.4	8.6	17.2	6.0	30.2				
	40～49歳	103	7.8	41.7	29.1	7.8	19.4	12.6	21.4				
	50～59歳	102	2.0	35.3	26.5	8.8	13.7	4.9	25.5				
	60～69歳	140	10.7	15.7	40.7	9.3	17.1	5.0	16.4				
	70歳以上	107	10.3	11.2	31.8	11.2	5.6	7.5	5.6				
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-				

(その2)

%		開趣 催味 ・ 教 養 講 座 の	のエ ス ポ ー ツ の 活 動 支 援	会ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 (社 会)	ど社 交 流 ・ 福 祉 ・ 環 境 な ど	実野 外 自 然 の 活 動 施 設 の 充 た せ	市 民 農 園 の 整 備	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		42.7	4.1	6.9	14.4	16.2	3.7	14.9	2.5	
性別・ 年齢	男性全体	38.1	4.2	5.1	18.3	19.2	3.8	14.2	2.7	
	18～29歳	31.7	5.0	5.0	8.3	10.0	6.7	13.3	3.3	
	30～39歳	34.1	1.2	4.9	13.4	15.9	4.9	14.6	2.4	
	40～49歳	26.3	5.3	5.3	29.5	20.0	4.2	9.5	2.1	
	50～59歳	39.1	3.3	3.3	20.7	22.8	3.3	14.1	2.2	
	60～69歳	48.8	5.0	5.0	18.2	25.6	3.3	12.4	2.5	
	70歳以上	42.6	5.0	6.9	15.8	15.8	2.0	20.8	4.0	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性全体	46.8	4.1	8.5	11.1	13.9	3.6	15.2	2.1		
18～29歳	34.8	6.5	15.2	12.0	8.7	2.2	21.7	1.1		
30～39歳	44.8	3.4	4.3	19.0	15.5	3.4	9.5	1.7		
40～49歳	44.7	3.9	5.8	8.7	14.6	3.9	10.7	1.0		
50～59歳	55.9	5.9	11.8	5.9	20.6	2.9	12.7	2.0		
60～69歳	54.3	1.4	10.0	10.7	13.6	0.7	17.1	2.1		
70歳以上	43.0	4.7	4.7	9.3	10.3	9.3	19.6	4.7		
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

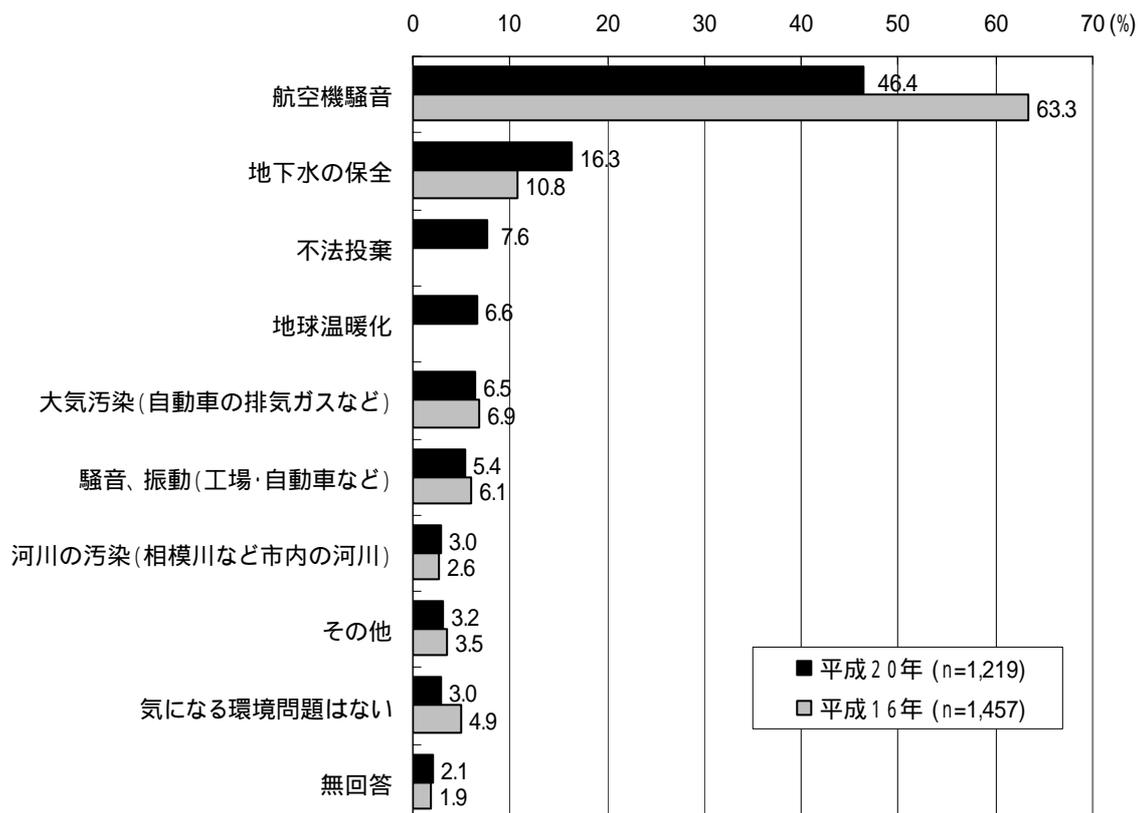
8. 環境問題について

(1) 一番気になる環境問題

問15 座間市に住んでいて、一番気になる環境問題は何ですか。【1つだけ選んでください】

一番気になる環境問題を聞いた結果最も多かったのは、「航空機騒音」(46.4%)であった。次いで、「地下水の保全」(16.3%)、「不法投棄」(7.6%)、「地球温暖化」(6.6%)「大気汚染(自動車の排気ガスなど)」(6.5%)、「騒音、振動(工場・自動車など)」(5.4%)が続く。

※「不法投棄」、「地球温暖化」は今回から調査項目に加わったため、過去のデータはない。

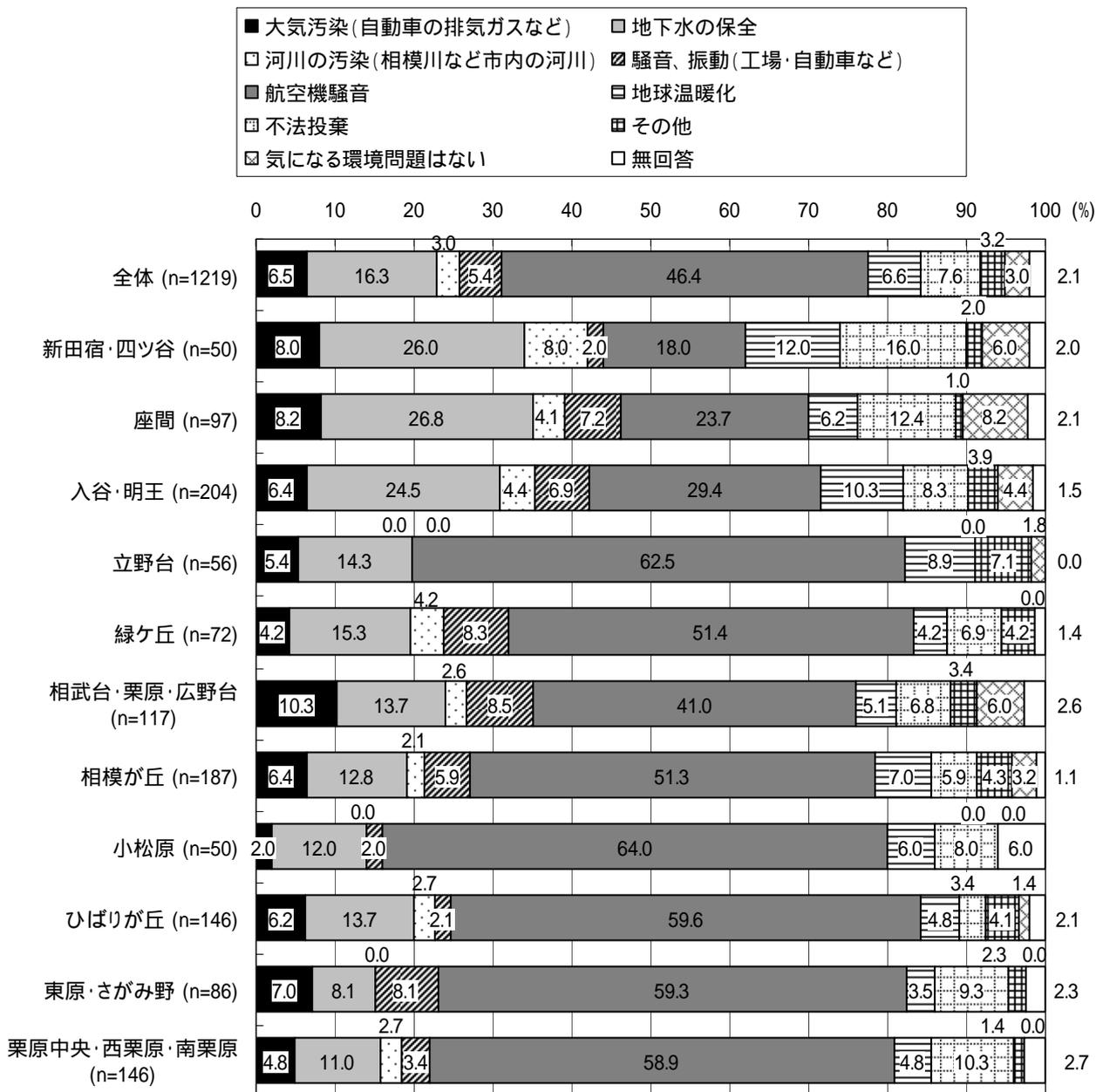


【住まいの地域別】一番気になる環境問題

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「航空機騒音」は、新田宿・四ツ谷、座間を除くすべての地域で1位で、小松原で最も比率が高く、立野台、ひばりが丘、東原・さがみ野などでも高かった。一方、新田宿・四ツ谷では、前回に続き最も比率が低かった。

全体で2位だった「地下水の保全」は、座間で最も高く、新田宿・四ツ谷、入谷・明王などでも高かった。一方、東原・さがみ野、栗原中央・西栗原・南栗原では低かった。

「気になる環境問題はない」は、座間で最も比率が高く、新田宿・四ツ谷、相武台・栗原・広野台などでも高かった。



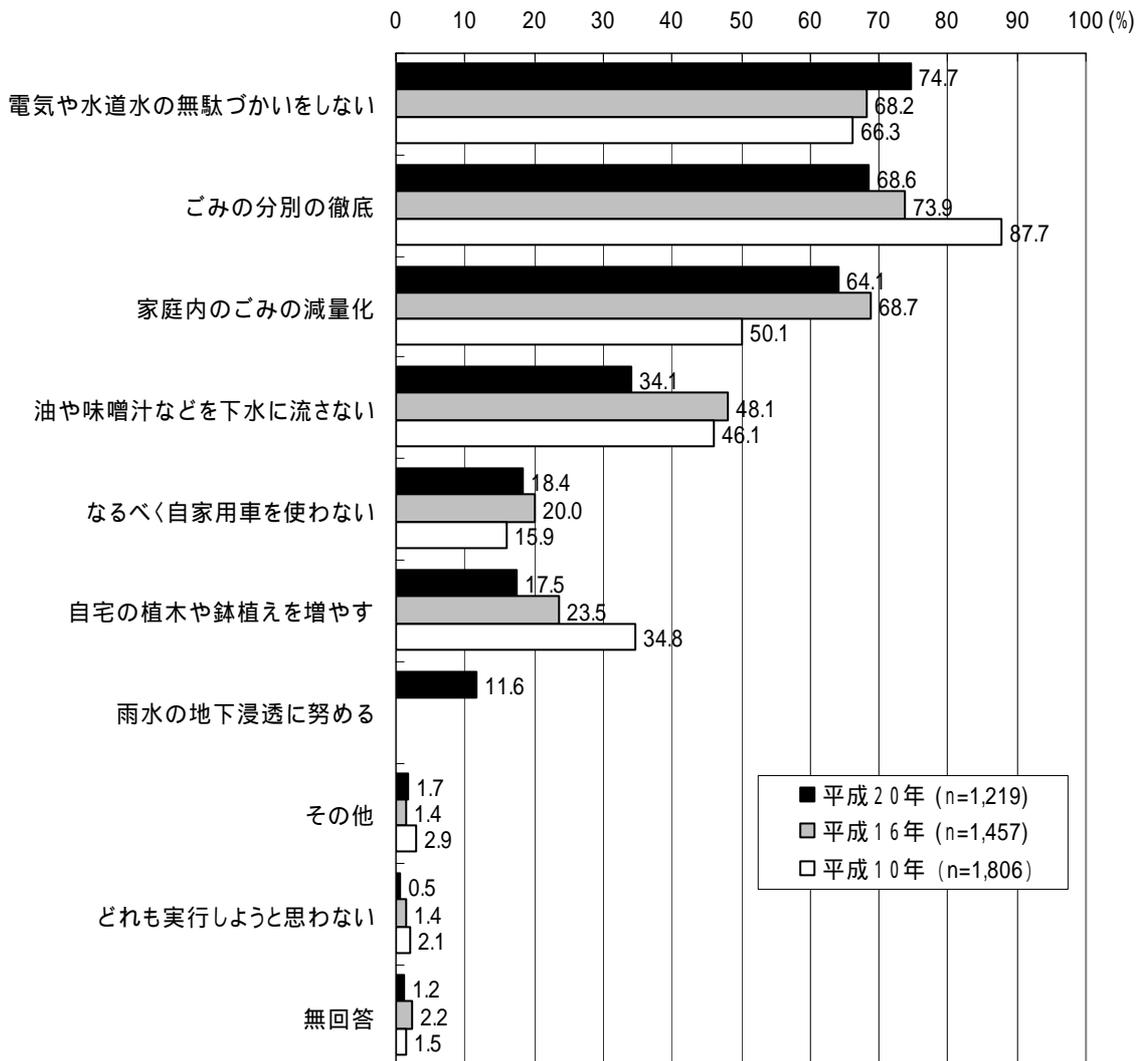
(2) 環境のため今後とも気を付けて実行したいこと

問16 あなたは環境のために、今後とも気を付けて実行したいと思っていることは何ですか。【あてはまるものをいくつでも選んでください】

環境のため今後とも気を付けて実行したいことを聞いた結果最も多かったのは、「電気や水道水の無駄づかいをしない」(74.7%)であった。次いで、「ごみの分別の徹底」(68.6%)、「家庭内のごみの減量化」(64.1%)、「油や味噌汁などを下水に流さない」(34.1%)、「なるべく自家用車をつかわない」(18.4%)が続く。

過去の調査と比較すると、「電気や水道水の無駄づかいをしない」が年々増加している傾向がみられる。

※「雨水の地下浸透に努める」は今回からの調査項目で、前回までのデータはない。



【性別・年齢別】環境のため今後とも気を付けて実行したいこと

性別・年齢別にみると、全体で1位であった「電気や水道水の無駄づかいをしない」は、女性では70歳以上を除き、すべての年齢で80%を超える高い比率となっている。男性でも60%から70%台と高い比率となっているが、女性の方が関心が高い傾向がみられる。

全体で2位であった「ごみの分別の徹底」は、女性の30歳代、40歳代で比率が高いのが目立ち、全体的に男性より女性の方が高い比率となっている。男女とも70歳以上では50%台と他の年齢に比べて比率が低くなっている。

全体で3位であった「家庭内のごみの減量化」は、男性では加齢にともなって比率の増加傾向がみられる。女性では60歳代で85.0%となっており、比率が高いのが目立つ。

「どれも実行しようと思わない」は男性の18歳～29歳でやや高い比率であるが、他の項目と比べると極めて低い比率となっている。

		全体 (実数)	家庭内のごみの減量化	ごみの分別の徹底	いなるべく自家用車を使わな	す自宅の植木や鉢植えを増や	を電気や水道水の無駄づかい	さない油や味噌汁などを下水に流	雨水の地下浸透に努める	その他	いどれも実行しようと思わな	無回答	
%													
全体		1219	64.1	68.6	18.4	17.5	74.7	34.1	11.6	1.7	0.5	1.2	
性別・年齢	男性	男性全体	551	59.2	63.5	18.0	18.3	70.1	23.8	13.1	1.8	0.9	1.8
		18～29歳	60	41.7	61.7	13.3	8.3	70.0	21.7	5.0	3.3	3.3	3.3
		30～39歳	82	52.4	67.1	23.2	13.4	70.7	22.0	12.2	1.2	1.2	1.2
		40～49歳	95	54.7	67.4	10.5	14.7	70.5	14.7	9.5	2.1	1.1	2.1
		50～59歳	92	58.7	66.3	17.4	13.0	67.4	22.8	9.8	4.3	1.1	3.3
		60～69歳	121	65.3	64.5	20.7	23.1	76.0	24.8	16.5	0.8	-	-
		70歳以上	101	72.3	54.5	20.8	30.7	64.4	34.7	20.8	-	-	2.0
		無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	女性全体	660	68.2	73.3	18.5	16.7	78.8	42.9	10.3	1.5	0.2	0.6
		18～29歳	92	53.3	60.9	15.2	10.9	81.5	33.7	5.4	2.2	-	-
		30～39歳	116	65.5	82.8	22.4	12.1	81.0	33.6	0.9	-	-	0.9
		40～49歳	103	56.3	82.5	23.3	8.7	83.5	42.7	2.9	1.0	-	-
		50～59歳	102	71.6	78.4	17.6	17.6	81.4	51.0	9.8	2.0	-	1.0
		60～69歳	140	85.0	76.4	20.0	20.7	80.0	45.7	20.7	1.4	-	0.7
		70歳以上	107	70.1	56.1	11.2	28.0	65.4	49.5	18.7	2.8	0.9	0.9
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

9. 防災について

(1) 地震や火災に備えてとっている対策

問17 あなたの家では、現在、地震や火災に備えてどのような対策をとっていますか。
【あてはまるものをいくつでも選んでください】

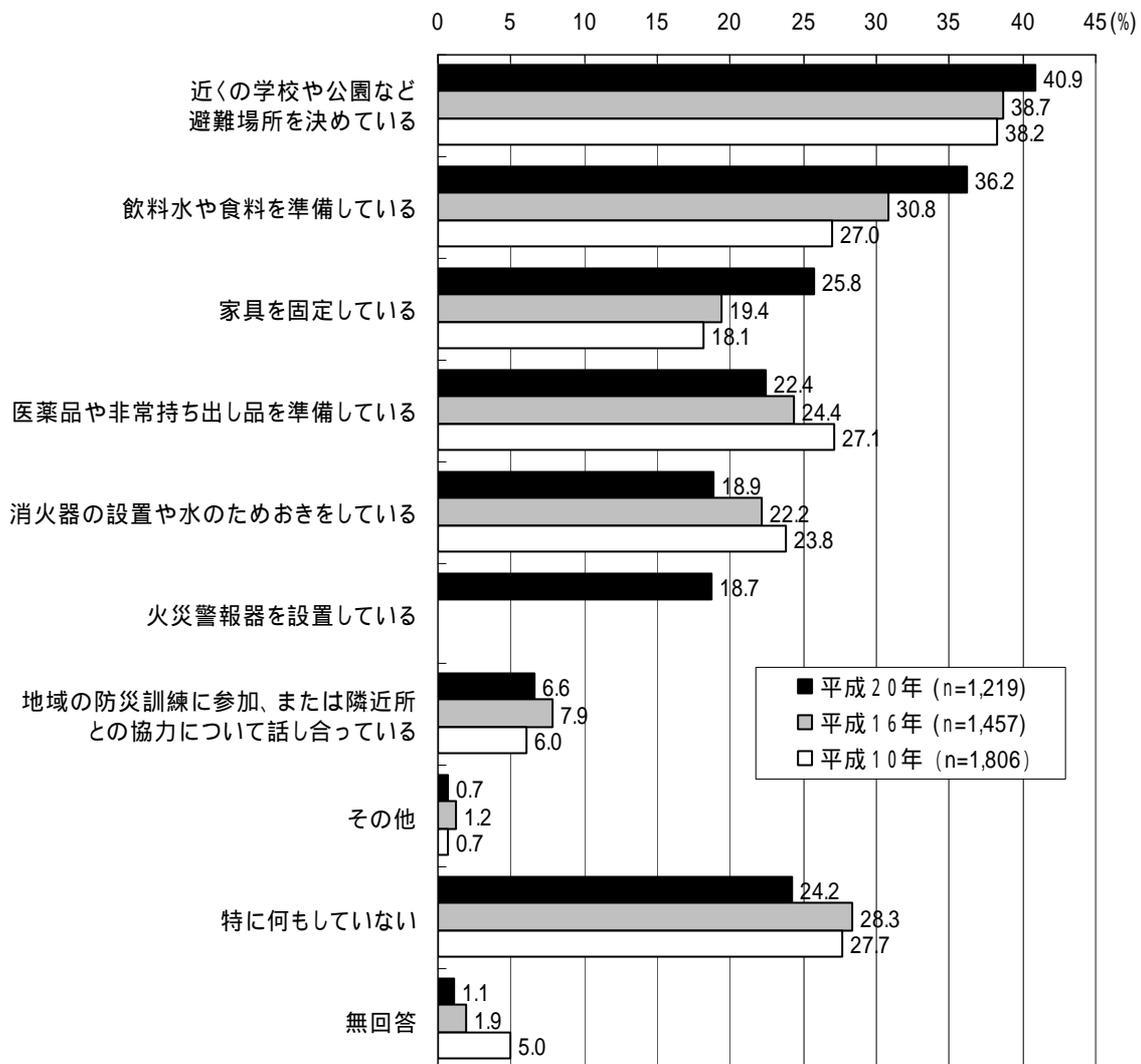
地震や火災に備えてとっている対策を聞いた結果最も多かったのは、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(40.9%)であった。次いで、「飲料水や食料を準備している」(36.2%)、「家具を固定している」(25.8%)、「医薬品や非常持ち出し品を準備している」(22.4%)、「消火器の設置や水のためおきをしている」(18.9%)が続く。

平成23年5月31日までにすべての住宅に火災警報器の設置が義務付けられたことから、「火災警報器を設置している」も18.7%となっている。

しかし、「特に何もしていない」(24.2%)の比率も比較的高くなっているのが今後の課題となるだろう。

過去の調査と比較すると、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」、「飲料水や食料を準備している」「家具を固定している」の項目は年々比率が高くなっている。

※「火災警報器を設置している」は今回から調査項目に加わったため、過去のデータはない。



【住まいの地域別】地震や火災に備えてとっている対策

住まいの地域別にみると、「特に何もしていない」の比率は、小松原で **38.0%**と比率が高いのが目立つ。反対に、立野台、東原・さがみ野、緑ヶ丘で **20%**未満と低い。

全体で1位であった「近くの学校や公園など避難場所を決めている」は、すべての地域で **30%**を越えているが、立野台、緑ヶ丘では **50%**を超え、特に比率が高い。反対に座間、東原・さがみ野、相武台・栗原・広野台は比較的比率が低い。

全体で2位であった「飲料水や食料を準備している」は、立野台で **50%**を超え、最も比率が高くなっている。反対に、小松原では **18.0%**と比率が低いのが目立つ。

「地域の防災訓練に参加したり、隣近所との協力について話し合っている」は、緑ヶ丘、相武台・栗原・広野台では **10%**を超えており、他の地域よりは地域協力に関心がある様子がうかがえる。

「火災警報器を設置している」は、相武台・栗原・広野台、入谷・明王、相模が丘では **20%**を超えているが、立野台では **7.1%**となっており、設置状況に地域差がある。

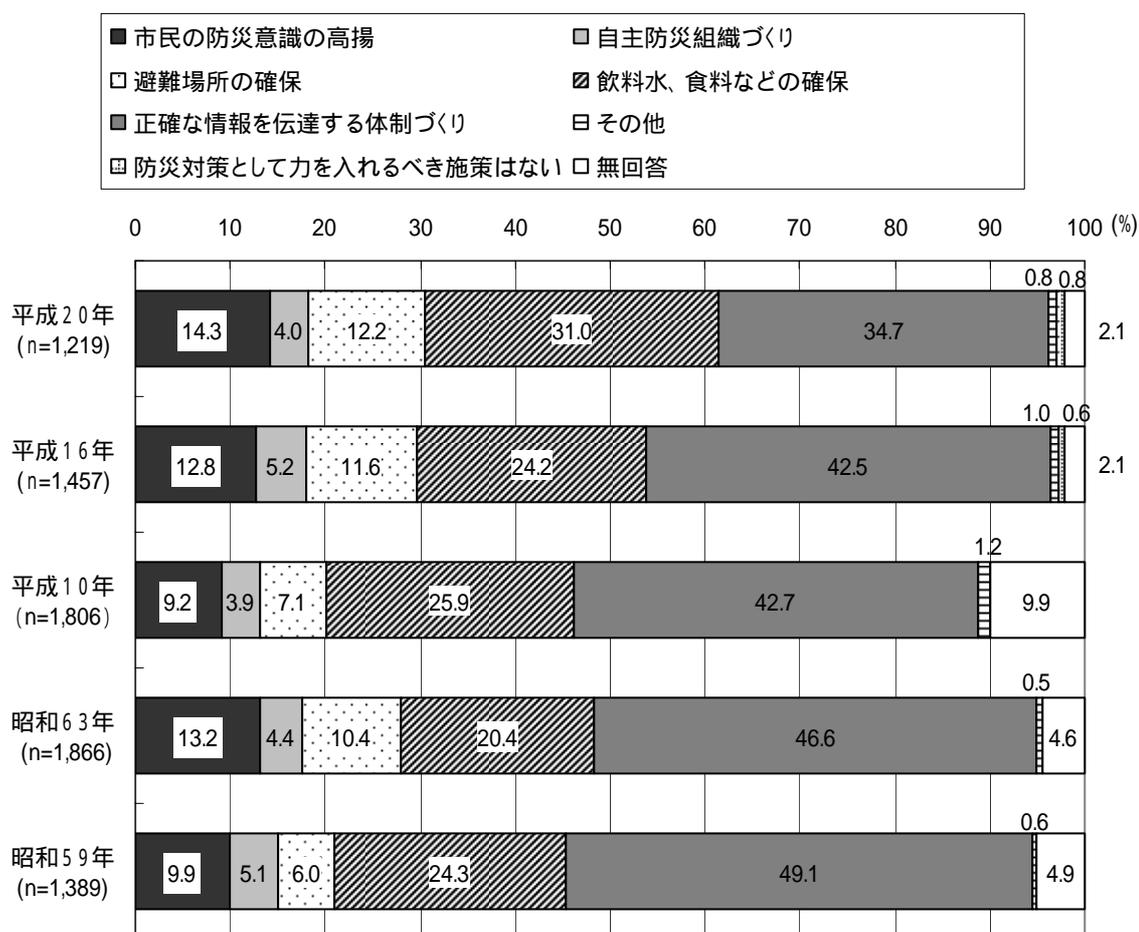
%		全体 (実数)	近 所 の 学 校 や 公 園 な ど 避 難	家 具 を 固 定 し て い る	飲 料 水 や 食 料 を 準 備 し て い る	消 火 器 の 設 置 や 水 の た め お き を し て い る	医 薬 品 や 非 常 持 ち 出 し 品 を 準 備 し て い る	地 域 の 防 災 訓 練 に 参 加 し て い る	火 災 警 報 器 を 設 置 し て い る	そ の 他	特 に 何 も し て い な い	無 回 答
全体		1219	40.9	25.8	36.2	18.9	22.4	6.6	18.7	0.7	24.2	1.1
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	50	42.0	20.0	38.0	24.0	8.0	4.0	18.0	2.0	24.0	-
	座間	97	32.0	20.6	34.0	12.4	14.4	3.1	18.6	1.0	27.8	2.1
	入谷・明王	204	39.2	26.0	35.3	21.6	26.5	7.8	23.5	0.5	23.0	0.5
	立野台	56	53.6	41.1	50.0	17.9	30.4	8.9	7.1	-	16.1	-
	緑ヶ丘	72	50.0	33.3	33.3	16.7	16.7	11.1	15.3	-	19.4	2.8
	相武台・栗原・広野台	117	35.9	25.6	41.0	18.8	27.4	10.3	27.4	1.7	21.4	-
	相模が丘	187	43.3	26.2	34.8	21.9	22.5	4.8	22.5	-	25.7	-
	小松原	50	40.0	16.0	18.0	6.0	18.0	6.0	16.0	-	38.0	2.0
	ひばりが丘	146	47.3	22.6	37.0	20.5	17.1	6.2	15.1	1.4	26.0	0.7
	東原・さがみ野	86	34.9	39.5	38.4	22.1	30.2	8.1	16.3	-	18.6	1.2
	栗原中央・西栗原・南栗原	146	39.0	19.9	35.6	15.8	24.0	3.4	12.3	0.7	26.0	3.4
	無回答	8	12.5	12.5	50.0	25.0	37.5	12.5	25.0	-	25.0	12.5

(2) 防災対策として力を入れるべき施策

問18 あなたは、防災対策として座間市が一番力を入れるべき施策は何だと考えますか。【1つだけ選んでください】

防災対策として力を入れるべき施策を聞いた結果最も多かったのは、「正確な情報を伝達する体制づくり」(34.7%)であった。次いで、「飲料水、食料などの確保」(31.0%)、「市民の防災意識の高揚」(14.3%)、「避難場所の確保」(12.2%)、「自主防災組織づくり」(4.0%)が続く。

過去の調査と比較すると、「正確な情報を伝達する体制づくり」は、年々減少傾向にあり、反対に「飲料水、食料などの確保」は増加傾向にある。「正確な情報を伝達する体制づくり」、「飲料水、食料などの確保」、「市民の防災意識の高揚」の順で比率が高いということに変わりはない。

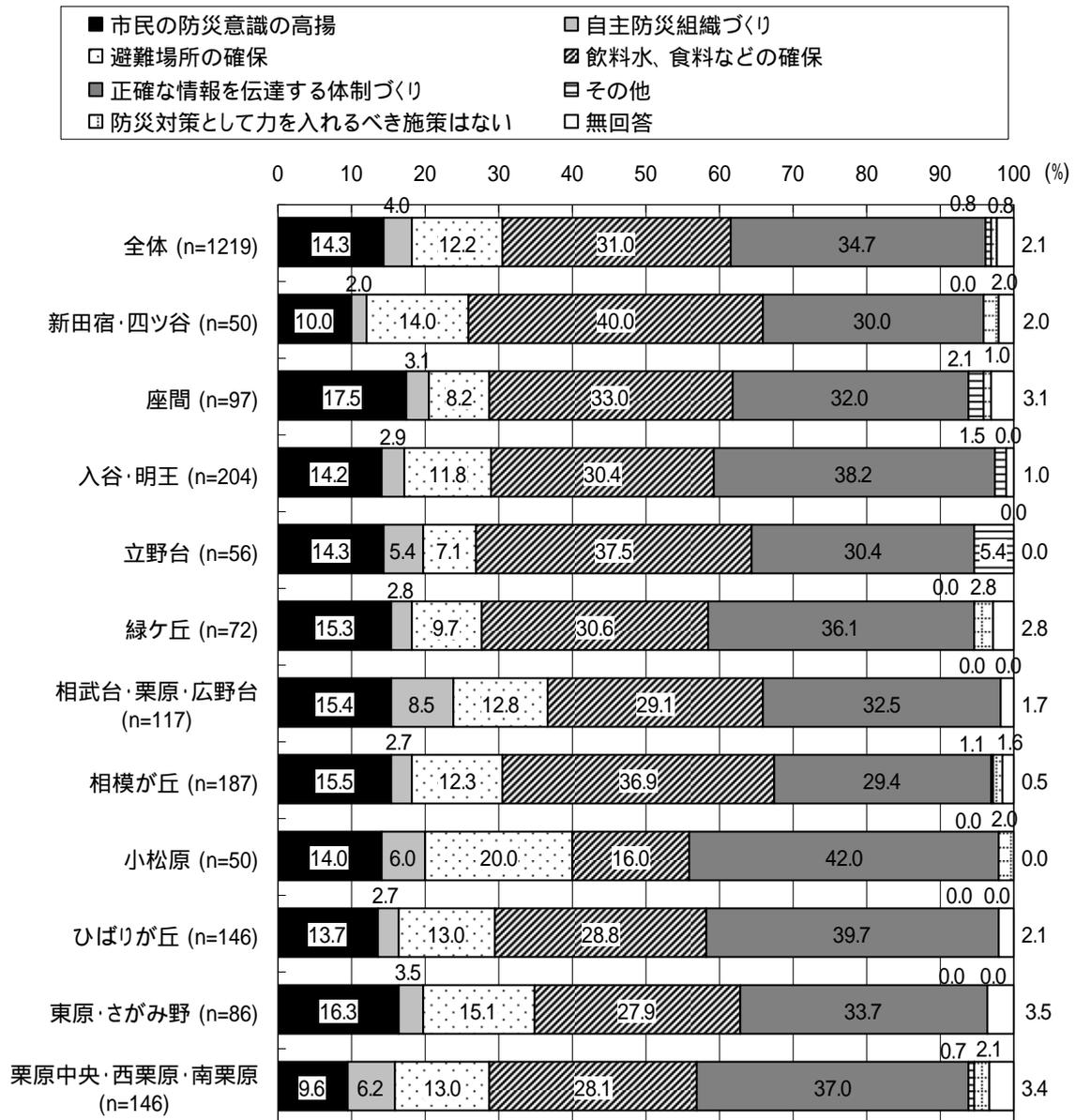


【住まいの地域別】防災対策として力を入れるべき施策

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「正確な情報を伝達する体制づくり」は、小松原で最も比率が高く、ひばりが丘、入谷・明王でも高かった。反対に、相模が丘、新田宿・四ツ谷、立野台で低かった。

全体で2位だった「飲料水、食料などの確保」は、新田宿・四ツ谷で最も高く、立野台、相模が丘などでも高かった。新田宿・四ツ谷、座間、立野台、相模が丘では「正確な情報を伝達する体制づくり」よりも比率が高く、1位であった。

全体で3位だった「市民の防災意識の高揚」は、座間で最も高かった。反対に、栗原中央・西栗原・南栗原で最も低かった。



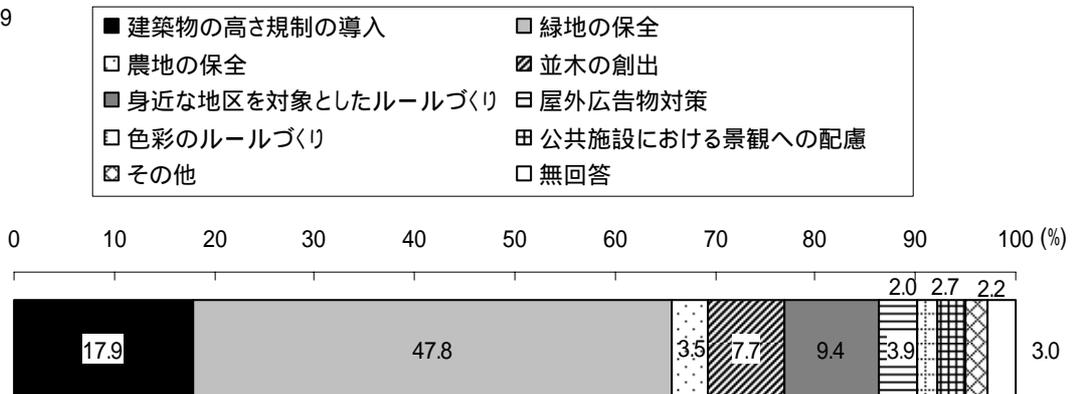
10. 都市景観・都市環境について

(1) 良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこと

問19 良好な都市景観、都市環境を形成するためには、どのようなことが必要だと思いますか。【1つだけ選んでください】

良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なことを聞いた結果最も多かったのは、「緑地の保全」(47.8%)であった。次いで、「建築物の高さ規制の導入」(17.9%)、「身近な地区を対象としたルールづくり」(9.4%)、「並木の創出」(7.7%)が続く。

n=1,219

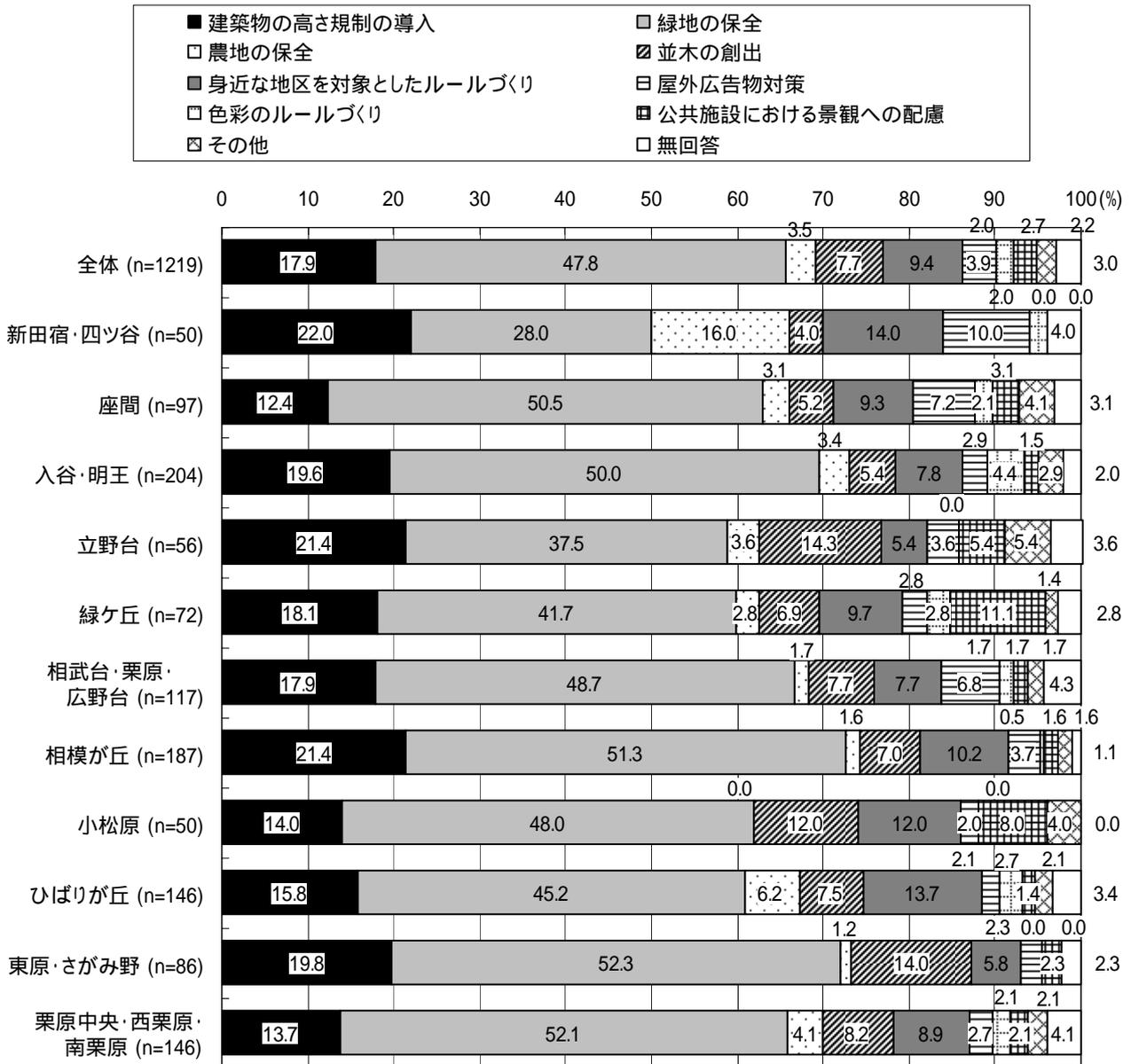


【住まいの地域別】良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこと

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「緑地の保全」は、東原・さがみ野で最も比率が高く、栗原中央・西栗原・南栗原、相模が丘、座間、入谷・明王でも高かった。反対に、新田宿・四ツ谷で低いのが目立つ。

全体で2位だった「建築物の高さ規制の導入」は、新田宿・四ツ谷で最も比率が高く、立野台、相模が丘などでも高かった。反対に座間、栗原中央・西栗原・南栗原、小松原では比率が低い。

「農地の保全」、「並木の創出」、「公共施設における景観への配慮」などは地域によってかなり差がある。



(2) 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

問20 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合、どう感じますか。【1つだけ選んでください】

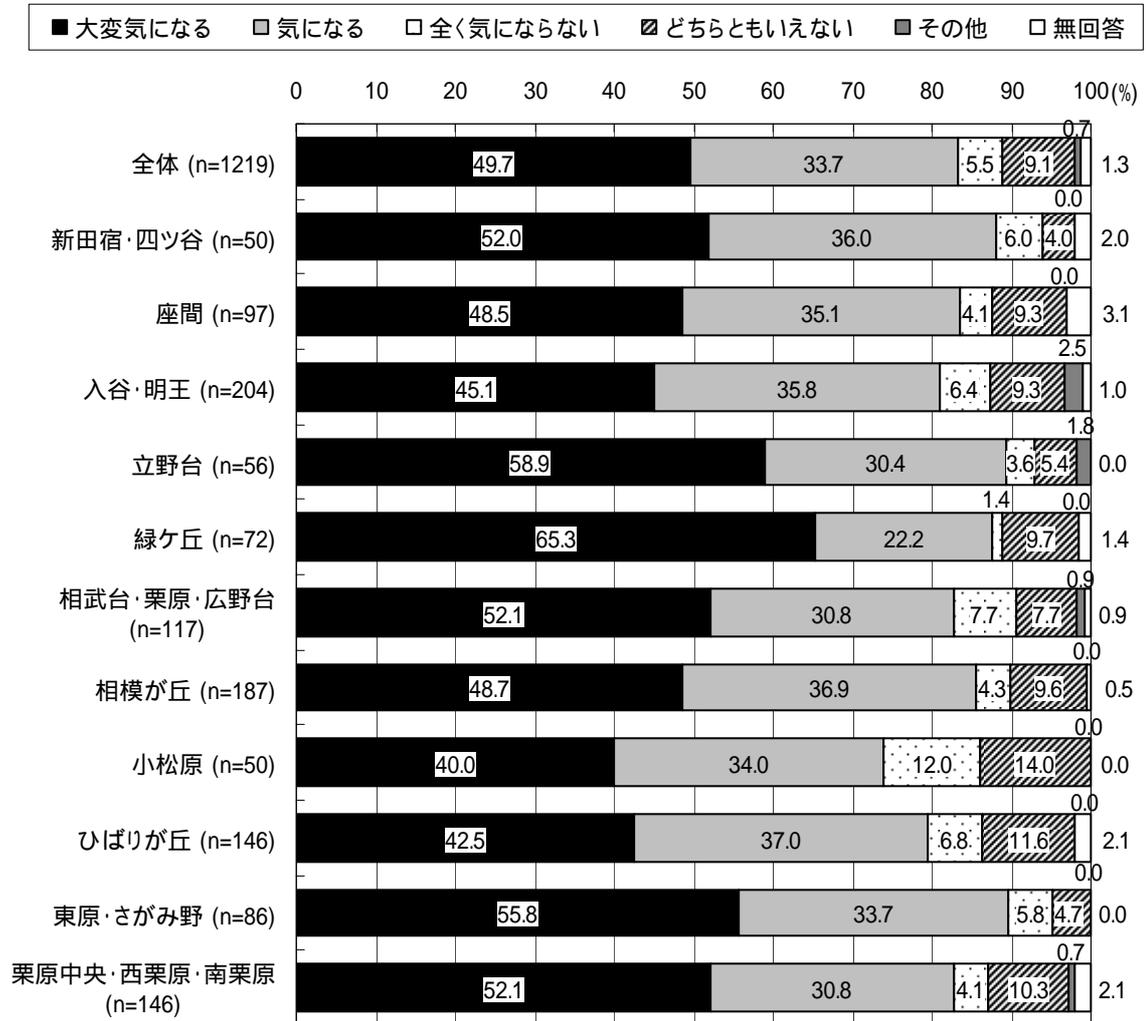
住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方を聞いた結果最も多かったのは、「大変気になる」(49.7%)であった。次いで、「気になる」(33.7%)、「どちらともいえない」(9.1%)、「全く気にならない」(5.5%)が続く。80%以上が「気になる」と回答している。



【住まいの地域別】住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

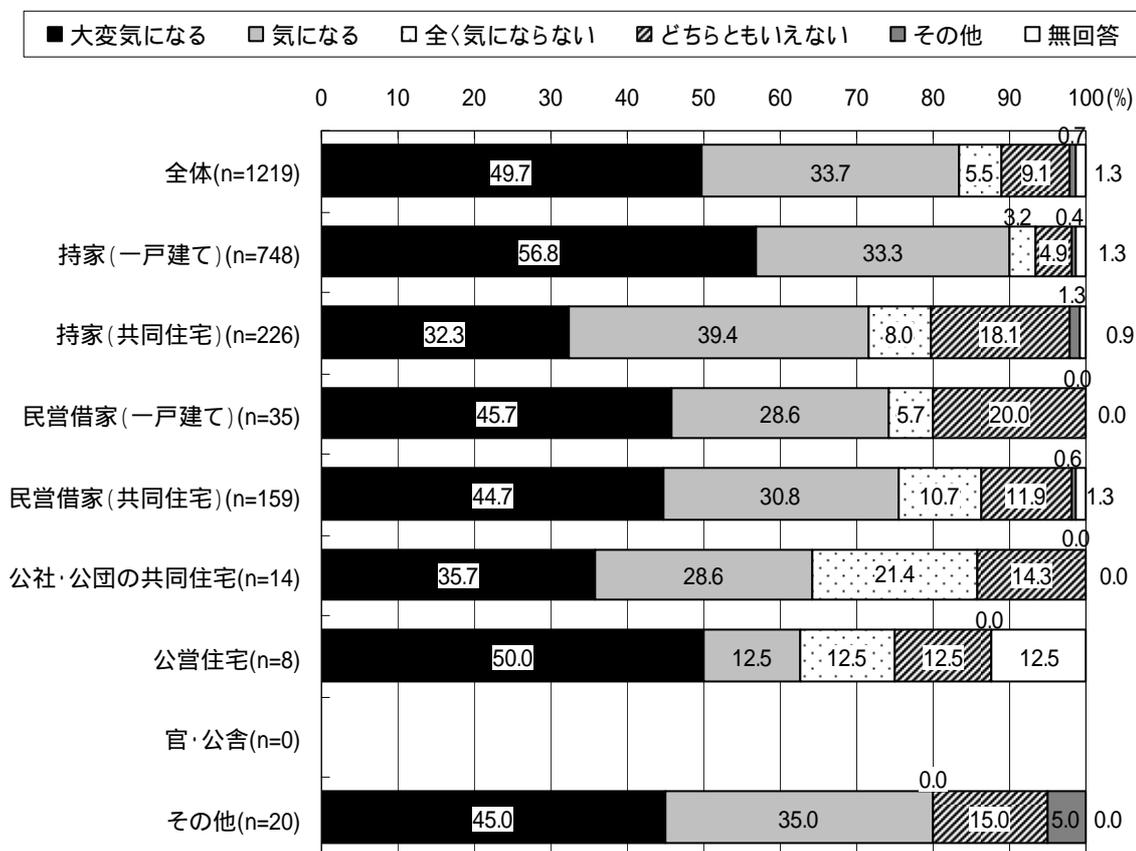
住まいの地域別にみると、全体で1位だった「大変気になる」は、緑ヶ丘で 65.3%と最も比率が高く、立野台、東原・さがみ野でも高かった。反対に、小松原、ひばりが丘では比較的比率が低い。どの地域でも1位となっている。

「どちらともいえない」、「全く気にならない」は、小松原で比率が高いのが目立つ。



【住まいの形態別】住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

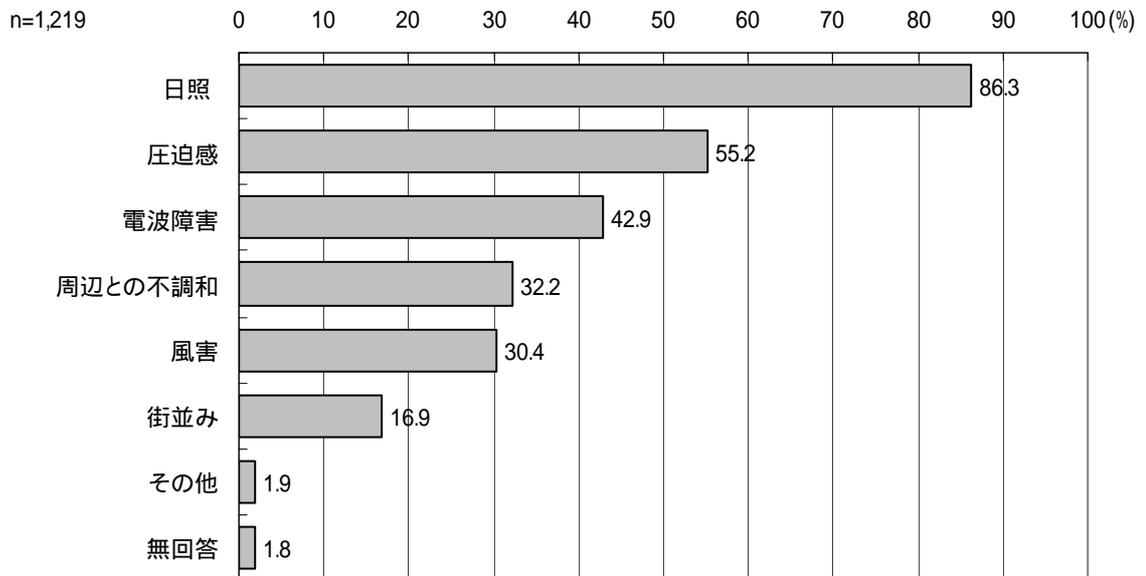
住まいの形態別にみると、「大変気になる」は、持家(一戸建て)で56.8%となっており、最も比率が高くなっている。反対に持家(共同住宅)では32.3%と最も低い。民間借家ではあまり差は見られない。「全く気にならない」は、一戸建てよりも共同住宅で比率が高い傾向がみられる。公社・公団の共同住宅で比率が高いのが目立つが、サンプル数が少ないため、参考として示すにとどめる。



(3) 中高層建築物の具体的問題点

問21 中高層建築物の具体的な問題点は何だと思いますか。【いくつでも選んでください】

中高層建築物の具体的な問題点を聞いた結果最も多かったのは、「日照」(86.3%)であった。次いで、「圧迫感」(55.2%)、「電波障害」(42.9%)、「周辺との不調和」(32.2%)、「風害」(30.4%)が続く。



【住まいの地域別】中高層建築物の具体的問題点

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「日照」は、立野台、座間で 90%を超え、比率が高いのが目立つ。他の地域でも 80%以上となっており、極めて重要な問題であるといえる。

全体で2位だった「圧迫感」は、緑が丘で比率が高いのが目立ち、反対に、立野台では比較的低かった。

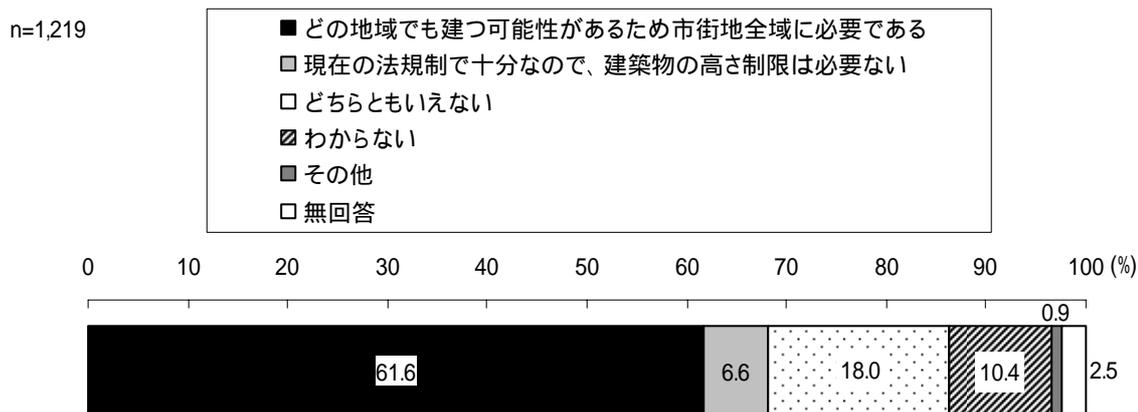
「周辺との不調和」、「街並み」は緑が丘で比率が高いのが目立ち、立野台、東原・さがみ野でも高い。

%		全体	日照	圧迫感	電波障害	風害	周辺との不調和	街並み	その他	無回答
全体		1219	86.3	55.2	42.9	30.4	32.2	16.9	1.9	1.8
住まいの地域	新田宿・四ツ谷	50	88.0	58.0	38.0	26.0	38.0	16.0	-	-
	座間	97	91.8	51.5	49.5	39.2	29.9	17.5	2.1	1.0
	入谷・明王	204	84.3	58.3	40.7	24.0	31.9	17.6	2.0	3.4
	立野台	56	92.9	48.2	42.9	30.4	37.5	21.4	3.6	-
	緑ヶ丘	72	83.3	66.7	47.2	25.0	48.6	30.6	4.2	1.4
	相武台・栗原・広野台	117	82.9	50.4	35.0	28.2	26.5	13.7	4.3	3.4
	相模が丘	187	82.9	50.3	44.9	37.4	28.3	16.0	0.5	1.1
	小松原	50	86.0	52.0	48.0	30.0	24.0	8.0	4.0	-
	ひばりが丘	146	88.4	55.5	45.2	29.5	32.2	9.6	0.7	2.1
	東原・さがみ野	86	88.4	57.0	33.7	39.5	33.7	20.9	2.3	-
	栗原中央・西栗原・南栗原	146	87.7	59.6	44.5	26.7	32.9	18.5	0.7	2.1
	無回答	8	87.5	50.0	75.0	25.0	37.5	25.0	-	12.5

(4) 建築物の高さ制限の必要性について

問22 建築物の高さ制限の必要性についてどのように思いますか。
【1つだけ選んでください】

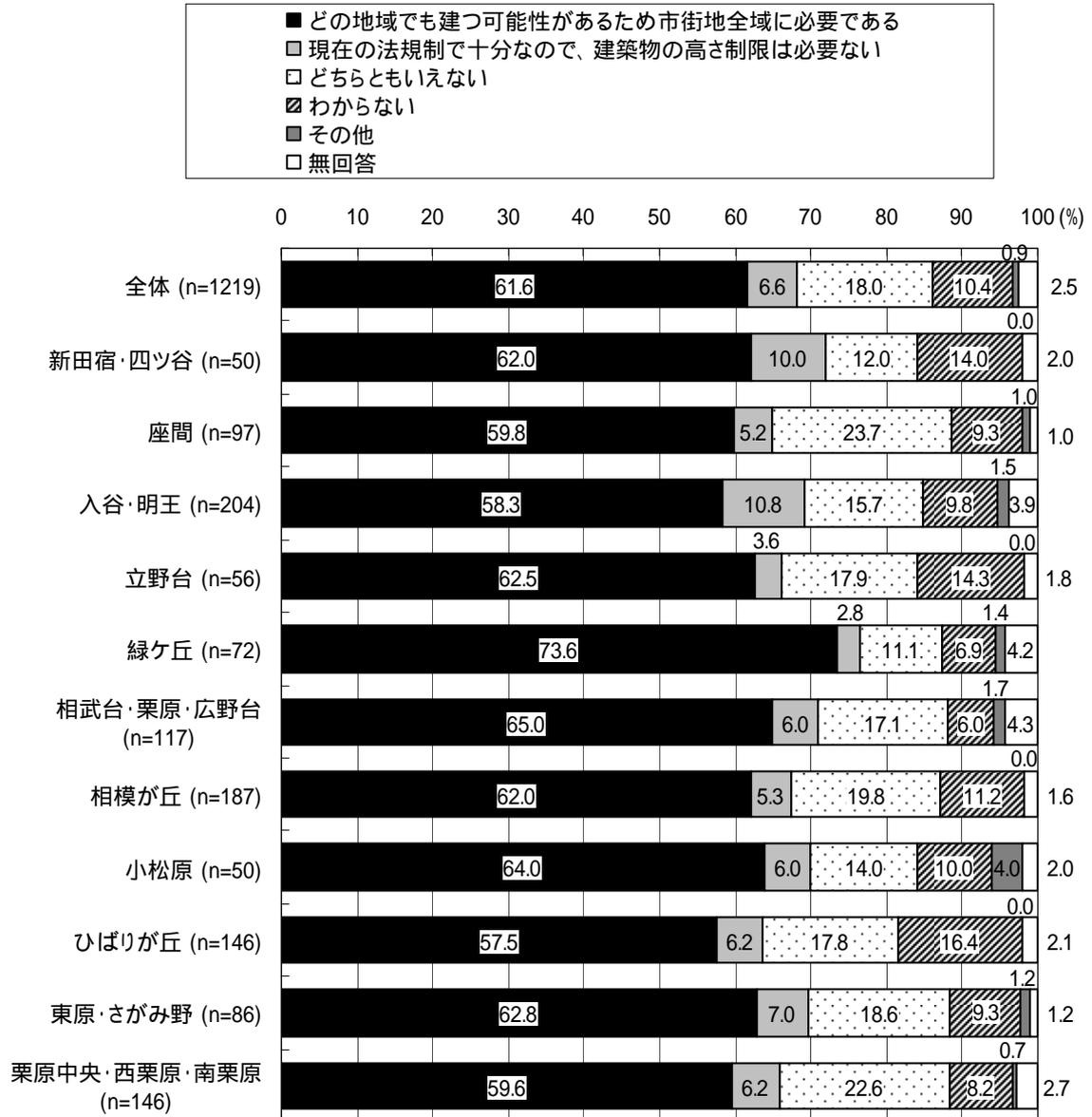
建築物の高さ制限の必要性についてどのように思うかを聞いた結果最も多かったのは、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」(61.6%)であった。次いで、「どちらともいえない」(18.0%)、「わからない」(10.4%)、「現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない」(6.6%)が続く。



【住まいの地域別】建築物の高さ制限の必要性について

住まいの地域別にみると、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」は、緑が丘で73.6%と比率が高いのが目立つ。反対に、ひばりが丘では比較的比率が低い。

「現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない」は、入谷・明王、新田宿・四ツ谷で比率が高い。反対に緑ヶ丘、立野台では低い。

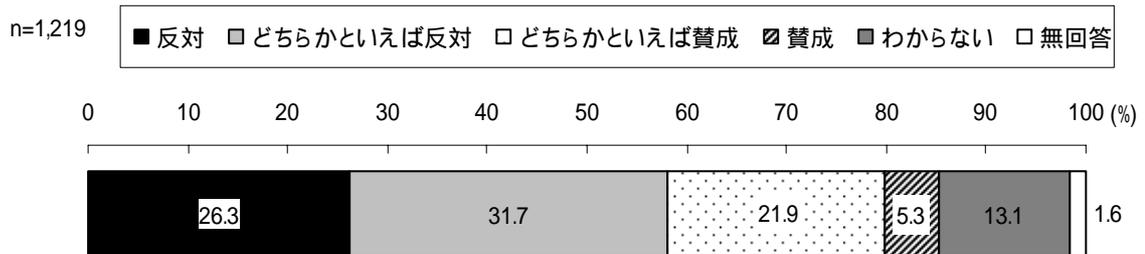


11. 男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

問23 「男は仕事、女は家庭」といった考えがあります。あなたはどのように考えますか。
【1つだけ選んでください】

「男は仕事、女は家庭」といった考えについて聞いた結果最も多かったのは、「どちらかといえば反対」(31.7%)であった。次いで、「反対」(26.3%)、「どちらかといえば賛成」(21.9%)、「わからない」(13.1%)、「賛成」(5.3%)が続く。「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた《反対派》は過半数を超える。

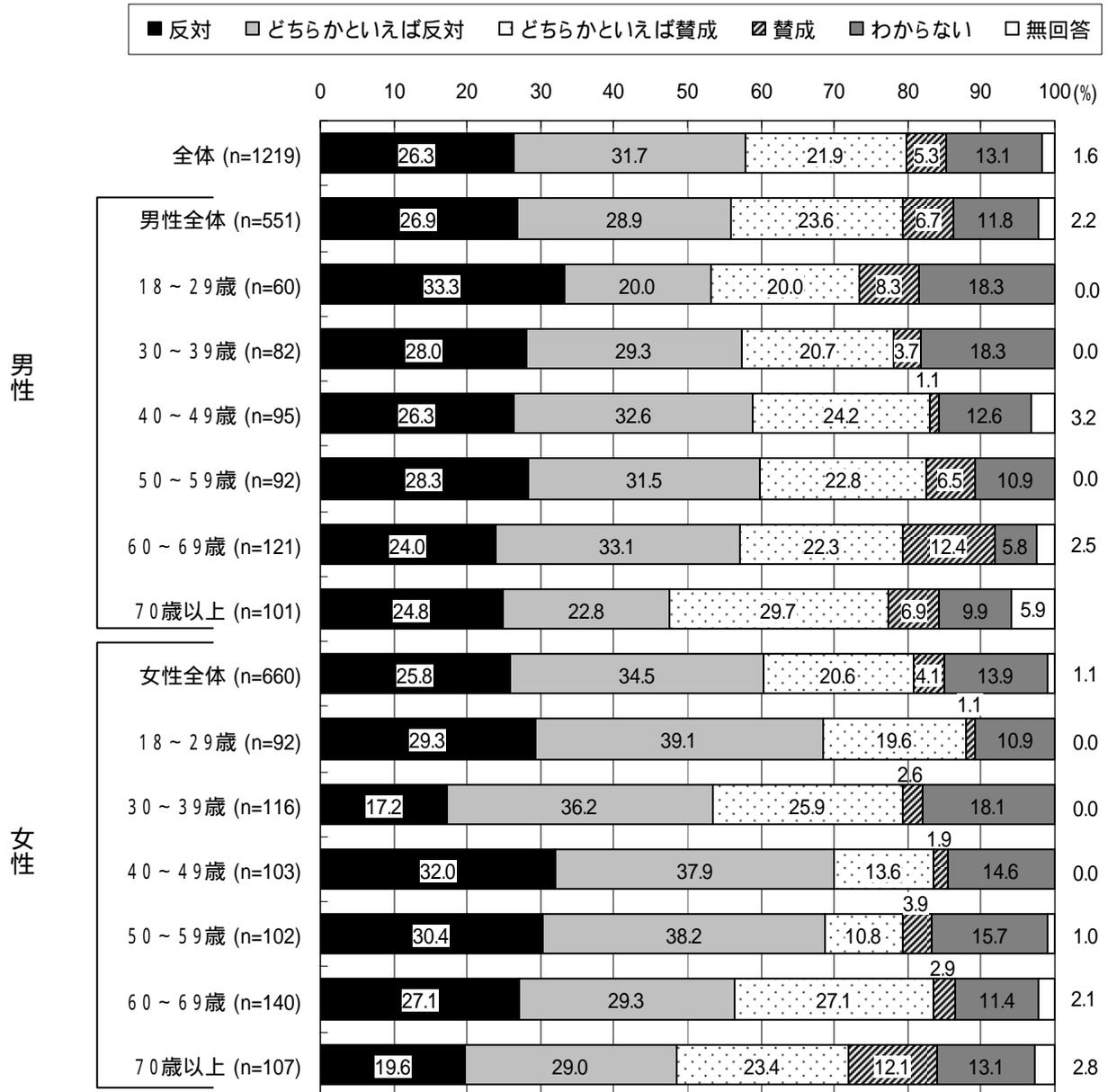


【性別・年齢別】「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

性別・年齢別にみると、《反対派》の比率は全体的にみると男性よりも女性の方が高い。特に、女性の18歳～29歳、40歳代、50歳代で比率が高くなっている。また、30歳代、60歳代では、女性よりも男性の方が比率が高くなっている。男女ともに70歳以上では《反対派》の比率が過半数を割っている。

「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成派》は男性では、加齢とともに比率が高くなっていく傾向がみられ、女性では、50歳代を底に、それ以降加齢とともに比率が高くなっていく傾向がみられる。

すべての性別・年齢で、《反対派》が《賛成派》を上回っている。

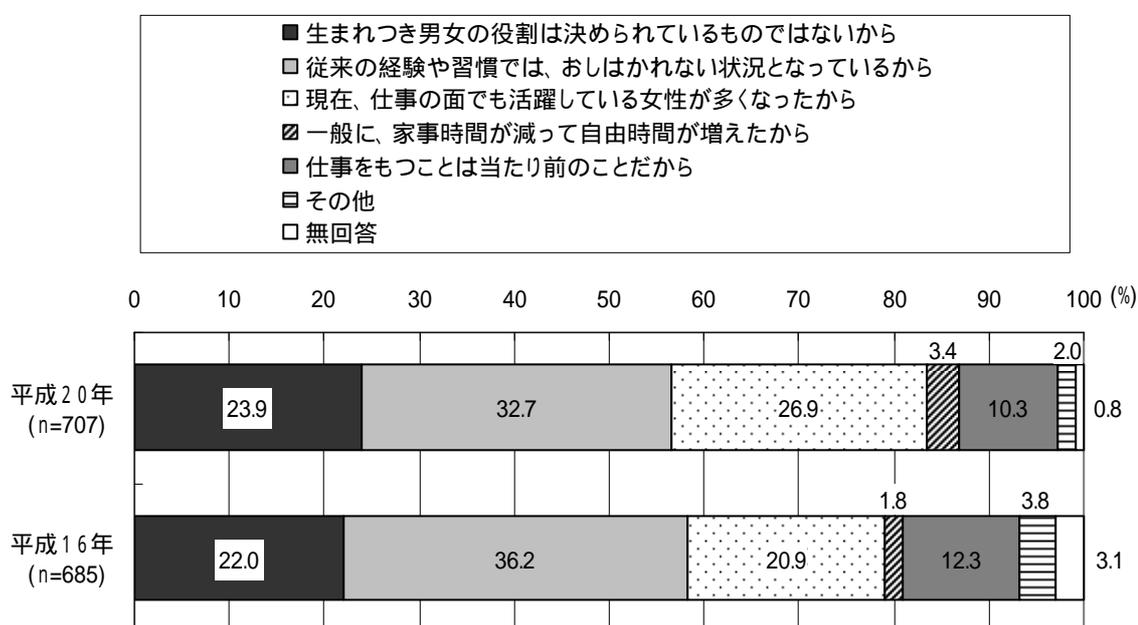


(2) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由

問23-1 問23で「1.反対」または「2.どちらかといえば反対」とお答えの方にお伺いします。その理由は次のどれですか。【1つだけ選んでください】

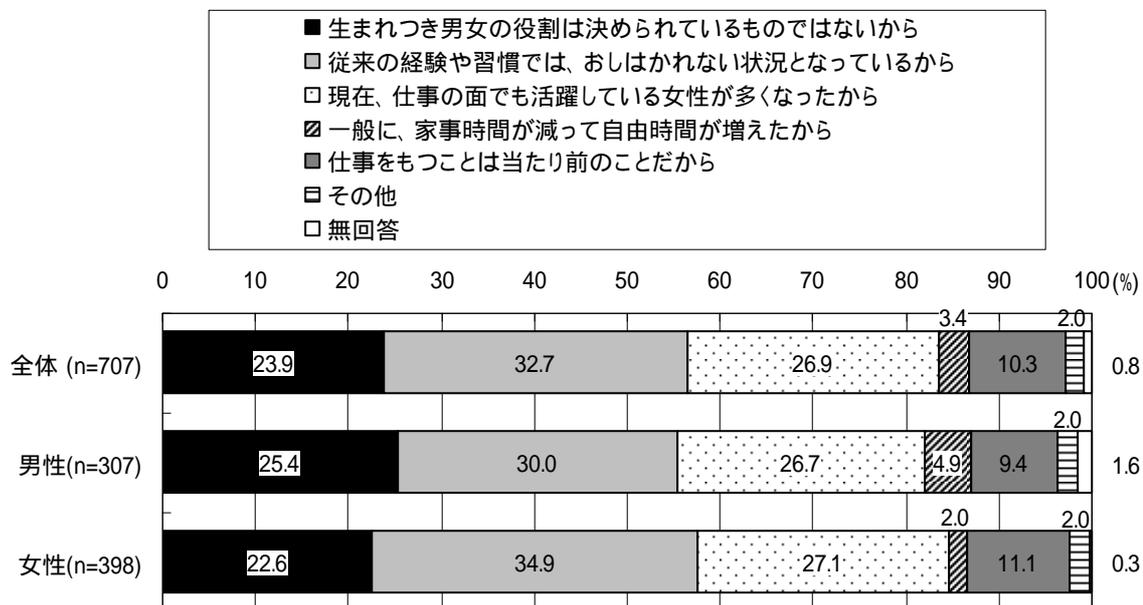
「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由を聞いた結果最も多かったのは、「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」(32.7%)であった。次いで、「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」(26.9%)、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」(23.9%)、「仕事をもつことは当たり前のことだから」(10.3%)、「一般に、家事時間が減って自由時間が増えたから」(3.4%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」、「仕事をもつことは当たり前のことだから」は前回(平成16年)調査より比率が低くなっている。反対に「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」は前回(平成16年)調査より比率が高くなっている。



【性別】「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由

性別にみると、男女とも項目の順位は全体と同じであったが、女性で「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」、男性で「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」の比率が比較的高くなっている。

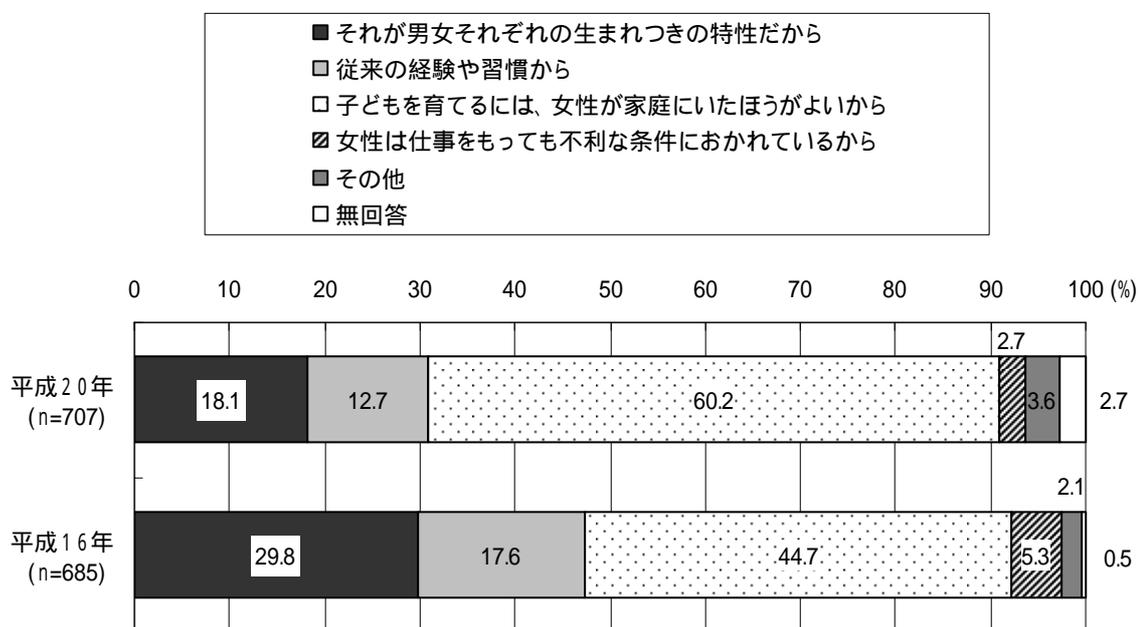


(3) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由

問23 - 2 問23で「3.どちらかといえば賛成」または「4.賛成」とお答えの方にお伺いします。その理由は次のどれですか。【1つだけ選んでください】

「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由を聞いた結果最も多かったのは、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」(60.2%)であった。次いで、「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」(18.1%)、「従来の経験や習慣から」(12.7%)、「女性は仕事をもっても不利な条件におかれているから」(2.7%)が続く。

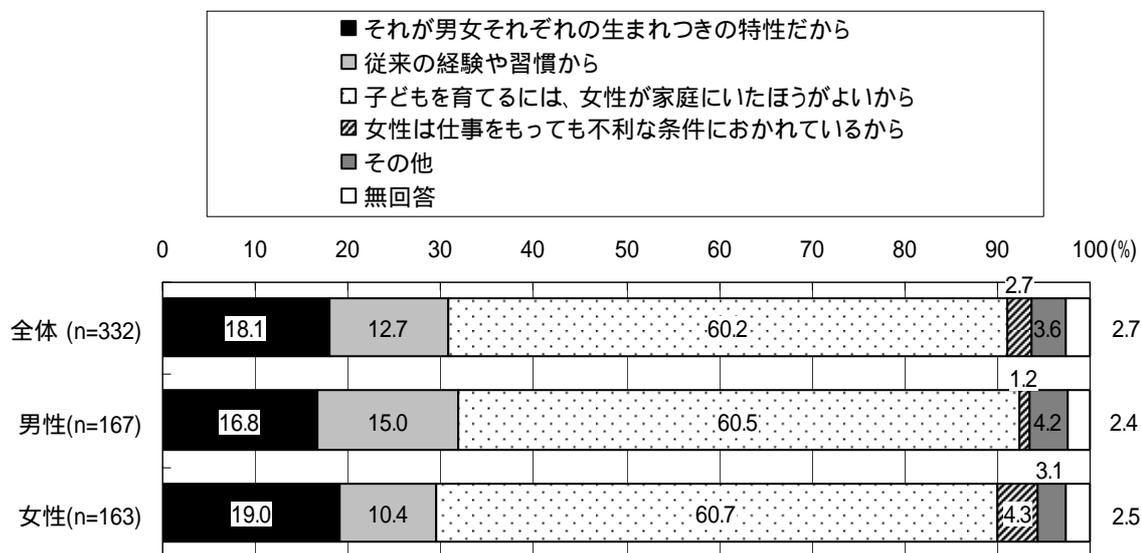
過去の調査結果と比較すると、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」は前回(平成16年)調査より大幅に比率が高くなっている。反対に「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」は前回(平成16年)調査より比率が低くなっているのが目立つ。「従来の経験や習慣から」、「女性は仕事をもっても不利な条件におかれているから」はやや比率が低くなっている。



【性別】「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由

性別にみると、男女とも項目の順位は全体と同じであり、全体で1位の「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」の比率も男女間であまり違いは見られない。

女性で「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」が、男性で「従来経験や習慣から」がそれぞれ全体と比べて比較的比率が高くなっている。



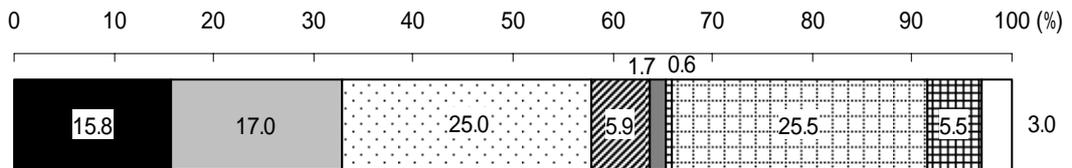
(4) 女性が仕事をもつことにおいて望ましいこと

問24 女性が仕事をもつことにおいて、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。
【1つだけ選んでください】

女性が仕事を持つことにおいて望ましいことを聞いた結果最も多かったのは、「夫の収入によって答えは変わる」(25.5%)であった。次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(25.0%)、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」(17.0%)、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」(15.8%)、「結婚するまでは仕事をもつが、結婚後はもたない」(5.9%)が続く。

n=1,219

- 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ
- 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- ▣ 結婚して子どもができるまでは仕事をもつが、出産後はもたない
- 結婚するまでは仕事をもつが、結婚後はもたない
- 仕事は一生もたない
- 夫の収入によって答えは変わる
- ▣ その他
- 無回答



【性別・年齢別】女性が仕事を持つことにおいて望ましいこと

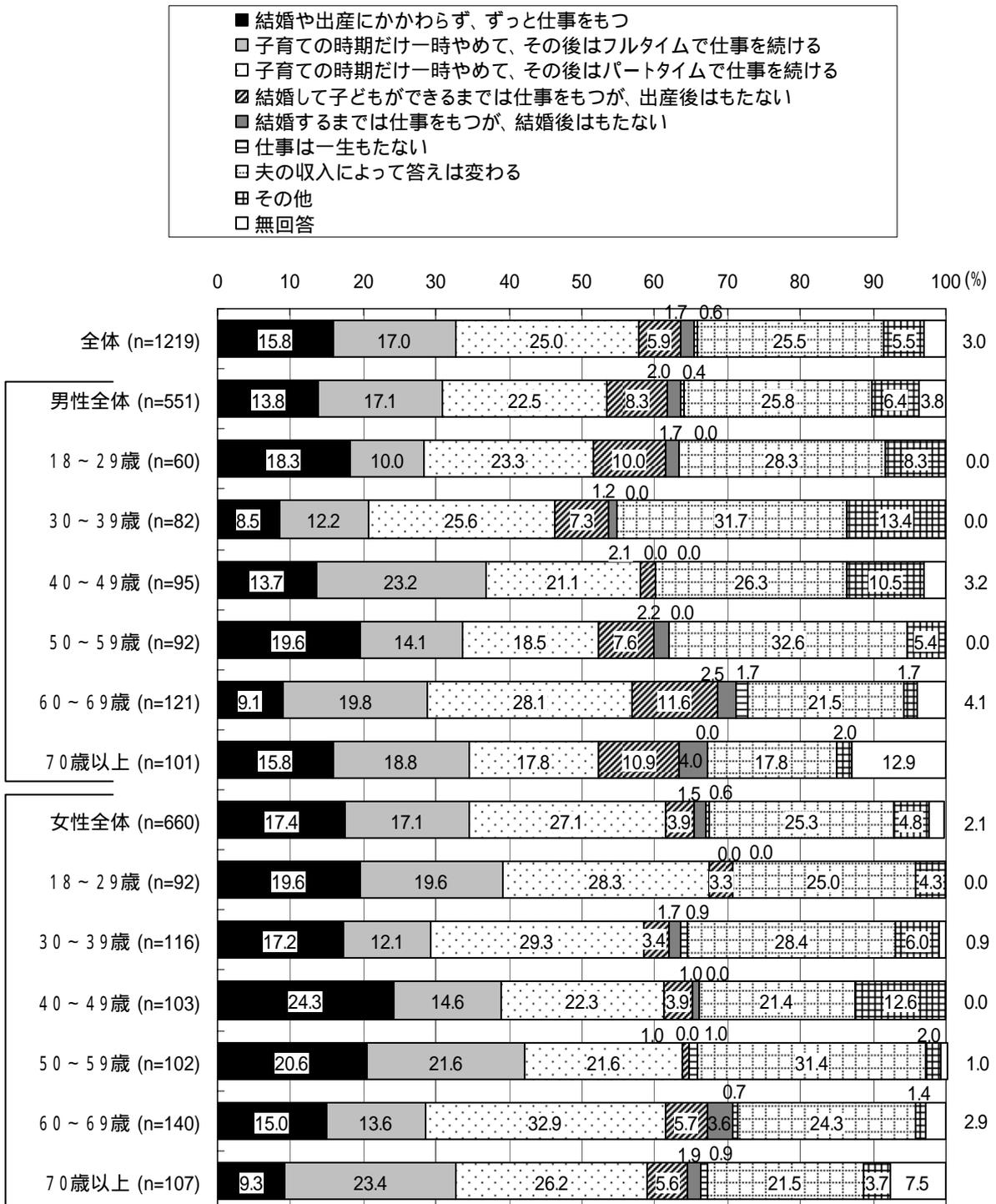
性別・年齢別にみると、全体で1位だった「夫の収入によって答えは変わる」は、男女ともに50歳代で最も比率が高くなっている。反対に男性の60歳代、70歳以上、女性の40歳代、70歳以上では比較的比率が低い。

全体で2位だった「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事続ける」は、どの年齢においても女性の方が比率が高く、特に60歳代では30%を超え、他の年齢よりも比率が高い。

全体で3位だった「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事続ける」は、男性は40歳代、女性は70歳以上で最も比率が高くなっている。

全体で4位だった「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」は、男性では50歳代で最も比率が高く、次いで、18歳～29歳、70歳以上が続く。女性では40歳代で最も比率が高く、それ以降は加齢とともに低くなっていく傾向がみられる。

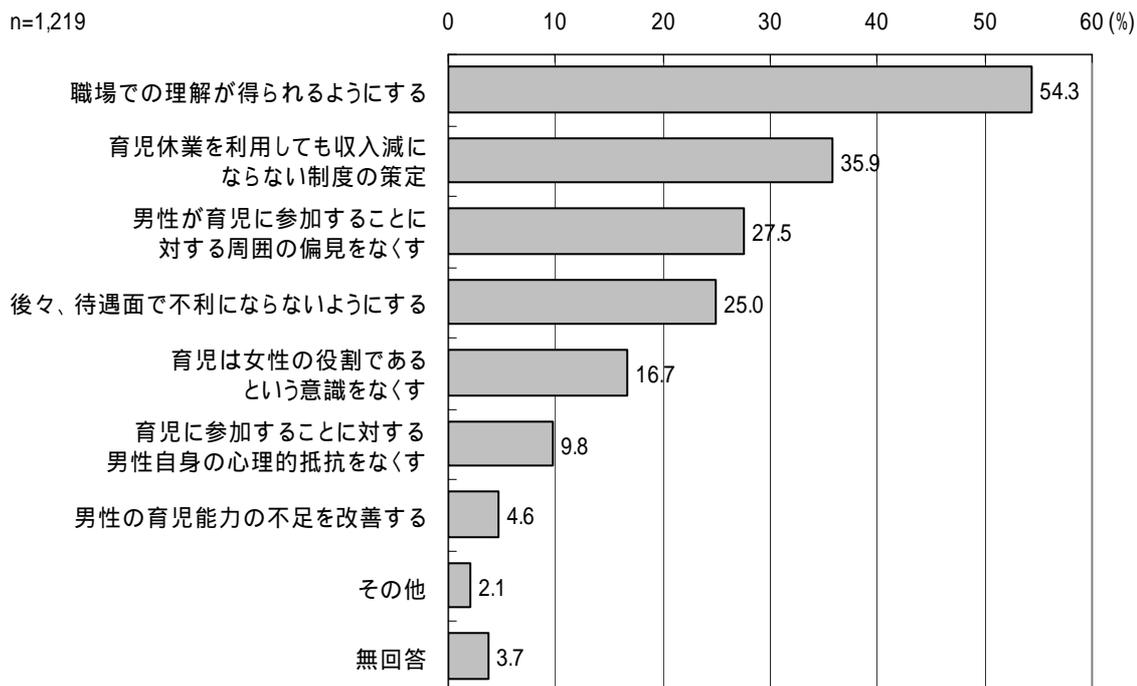
出産後も何らかのかたちで仕事続けることが望ましいと考えているのは、男性よりも女性の方が比率が高く、男性でも30歳代を除き、すべての年齢で半数を超えている。



(5) 男性の育児休業制度取得を促す方法

問25 育児休業制度は男性も利用できるようになっていますが、男性の利用者が極めて少ないのが現実です。どうすれば利用できるようになると思いますか。【2つまで選んでください】

男性の育児休業制度取得を促す方法を聞いた結果最も多かったのは、「職場での理解が得られるようにする」(54.3%)であった。次いで、「育児休業を利用しても収入減にならない制度の策定」(35.9%)、「男性が育児に参加することに対する周囲の偏見をなくす」(27.5%)、「後々、待遇面で不利にならないようにする」(25.0%)、「育児は女性の役割であるという意識をなくす」(16.7%)が続く。職場での育児休業制度の整備や理解が重要なポイントとなっている。



【性別・年齢別】男性の育児休業制度取得を促す方法

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「職場での理解が得られるようにする」は、男女ともに子育て世代である30歳代で比率が高いのが目立ち、それ以降は加齢とともに低くなっていく傾向がみられる。

全体で2位だった「育児休業を利用しても収入減にならない制度の策定」は、男性は18歳～29歳、30歳代、40歳代で他の年齢よりも比率が高くなっている。女性は18歳～29歳で比率が高いが目立つ。

全体で3位だった「男性が育児に参加することに対する周囲の偏見をなくす」は、男性は18歳～29歳で最も比率が高いのに対し、女性は18歳～29歳で最も比率が低く、50歳以上で比較的高くなっている。また、「育児は女性の役割であるという意識をなくす」でも女性の60歳以上で比率が高くなっている。

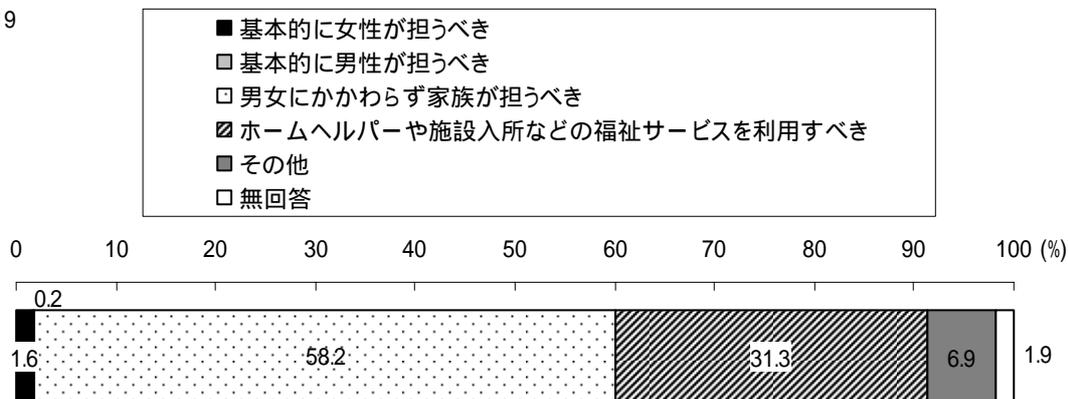
		全体 (実数)	育児は女性の役割であるという意識をなくす	男性が育児に参加することに対する周囲の偏見をなくす	職場での理解が得られるようにする	後々、待遇面で不利にならないようにする	育児休業を利用しても収入減にならない制度の策定	育児に参加することの心理的抵抗をなくす	男性の育児能力の不足を改善する	その他	無回答	
全体		1219	16.7	27.5	54.3	25.0	35.9	9.8	4.6	2.1	3.7	
性別・年齢	男性全体	551	14.2	25.8	53.9	25.8	35.4	7.6	4.5	2.7	4.4	
	18～29歳	60	13.3	38.3	45.0	33.3	43.3	1.7	6.7	1.7	-	
	30～39歳	82	9.8	23.2	67.1	26.8	41.5	2.4	3.7	3.7	-	
	40～49歳	95	10.5	28.4	56.8	28.4	41.1	5.3	5.3	3.2	2.1	
	50～59歳	92	17.4	26.1	59.8	25.0	31.5	8.7	4.3	4.3	-	
	60～69歳	121	14.0	21.5	50.4	26.4	33.1	11.6	5.8	3.3	5.8	
	70歳以上	101	18.8	22.8	44.6	17.8	26.7	11.9	2.0	-	14.9	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性全体	660	18.6	29.1	55.0	24.7	36.4	11.7	4.5	1.7	2.7	
	18～29歳	92	19.6	22.8	56.5	26.1	48.9	15.2	3.3	-	-	
	30～39歳	116	12.1	28.4	67.2	27.6	39.7	12.9	1.7	-	-	
	40～49歳	103	15.5	28.2	56.3	31.1	33.0	10.7	3.9	2.9	1.0	
	50～59歳	102	17.6	31.4	52.9	19.6	38.2	14.7	6.9	1.0	1.0	
	60～69歳	140	23.6	31.4	53.6	21.4	31.4	10.7	5.7	2.1	5.0	
	70歳以上	107	22.4	30.8	43.0	23.4	29.9	6.5	5.6	3.7	8.4	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(6) 家族の介護は誰が行うべきか

問2.6 家族の介護は現状でどなたが行うべきと考えますか。【1つだけ選んでください】

家族の介護は誰が行うべきかを聞いた結果最も多かったのは、「男女にかかわらず家族が担うべき」(58.2%)であった。次いで、「ホームヘルパーや施設入所などの福祉サービスを利用すべき」(31.3%)、「基本的に女性が担うべき」(1.6%)、「基本的に男性が担うべき」(0.2%)が続く。

n=1,219

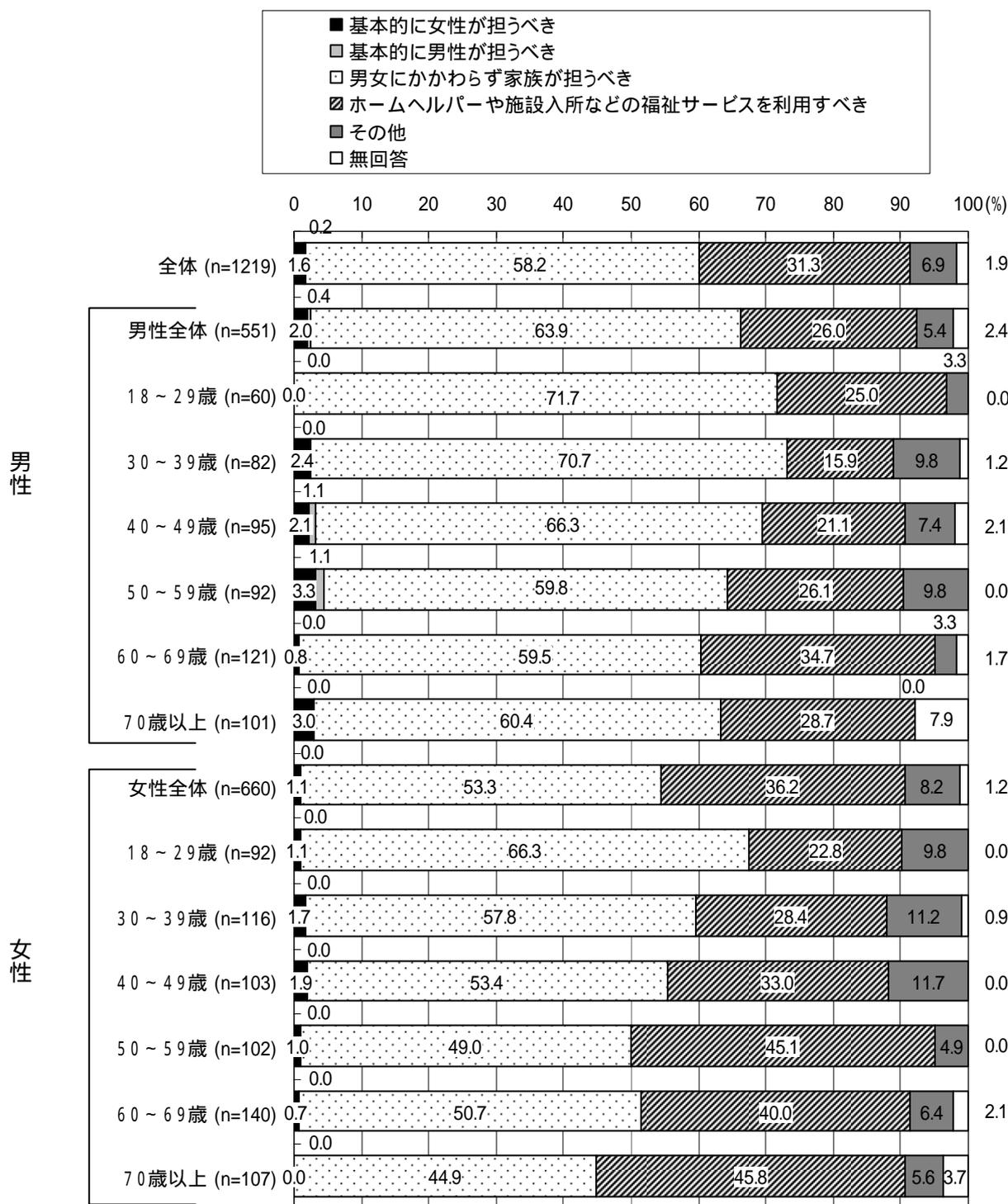


【性別・年齢別】家族の介護は誰が行うべきか

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「男女にかかわらず家族が担うべき」は、女性70歳以上を除き、すべての性別・年齢で最も比率が高く、特に男性の18歳～29歳、30歳代で70%を超え、比率が高いのが目立つ。

全体で2位だった「ホームヘルパーや施設入所などの福祉サービスを利用すべき」は、女性の70歳以上で最も比率が高くなっており、全体で1位だった「男女にかかわらず家族が担うべき」よりも高い。全体的に男性よりも女性の方が比率が高い。

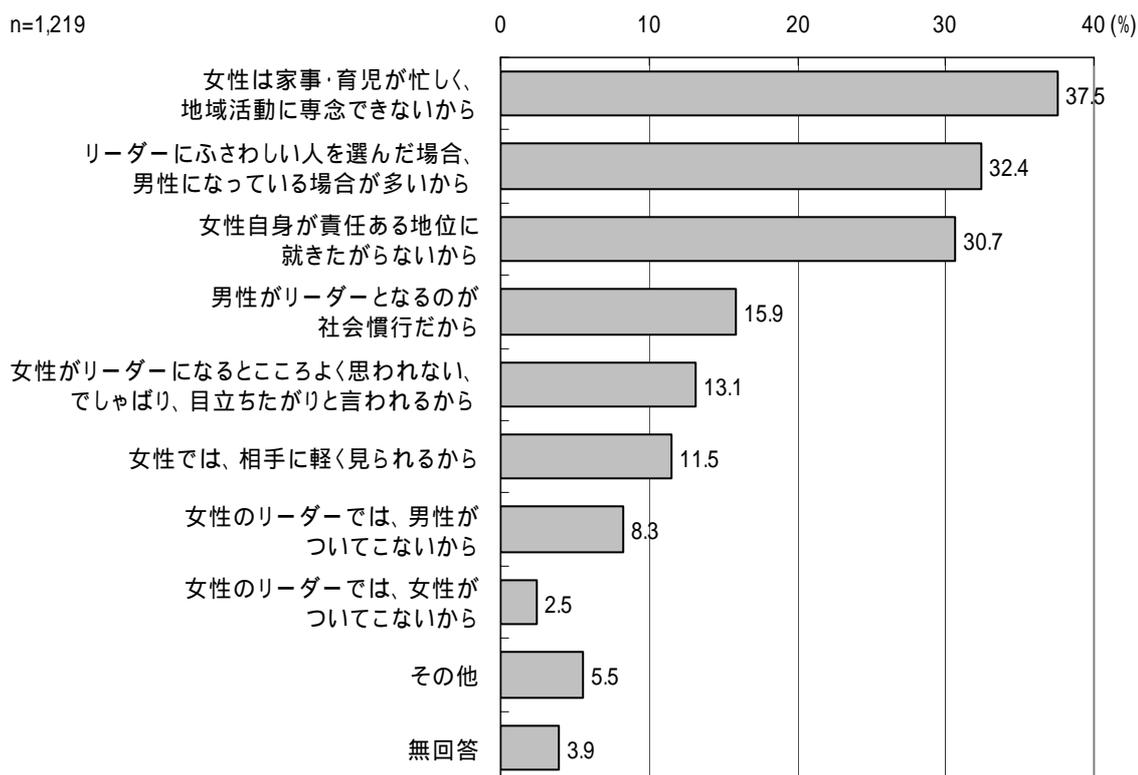
全体で3位だった「基本的に女性が担うべき」は、男性の50歳代、70歳以上で他の年代に比べて比率がやや高い。



(7) 地域活動のリーダーに女性が少ない理由

問27 地域活動(PTA、自治会など)において、会長、副会長などリーダーに女性が少ないようです。その理由は何だと思えますか。【2つまで選んでください】

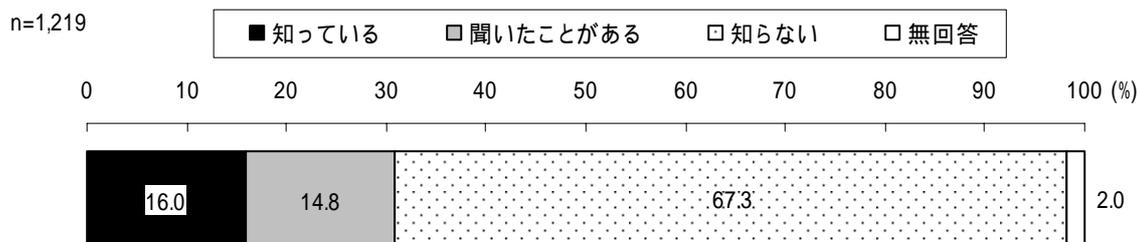
地域活動のリーダーに女性が少ない理由を聞いた結果最も多かったのは、「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」(37.5%)であった。次いで、「リーダーにふさわしい人を選んだ場合、男性になっている場合が多いから」(32.4%)、「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」(30.7%)、「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」(15.9%)、「女性がリーダーになるところよく思われない、でしゃばり、目立ちたがりと言われるから」(13.1%)、「女性では、相手に軽く見られるから」(11.5%)が続く。



(8) ドメスティック・バイオレンスの相談窓口の設置に対する認知度

問28 あなたは、座間市にドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人からの暴力)の相談窓口が設置されていることをご存知ですか。

ドメスティック・バイオレンスの相談窓口の設置に対する認知度を聞いた結果最も多かったのは、「知らない」(67.3%)であった。次いで、「知っている」(16.0%)、「聞いたことがある」(14.8%)が続く。70%ちかくが「知らない」と回答していることから、ドメスティック・バイオレンスの相談窓口の認知度は低い。

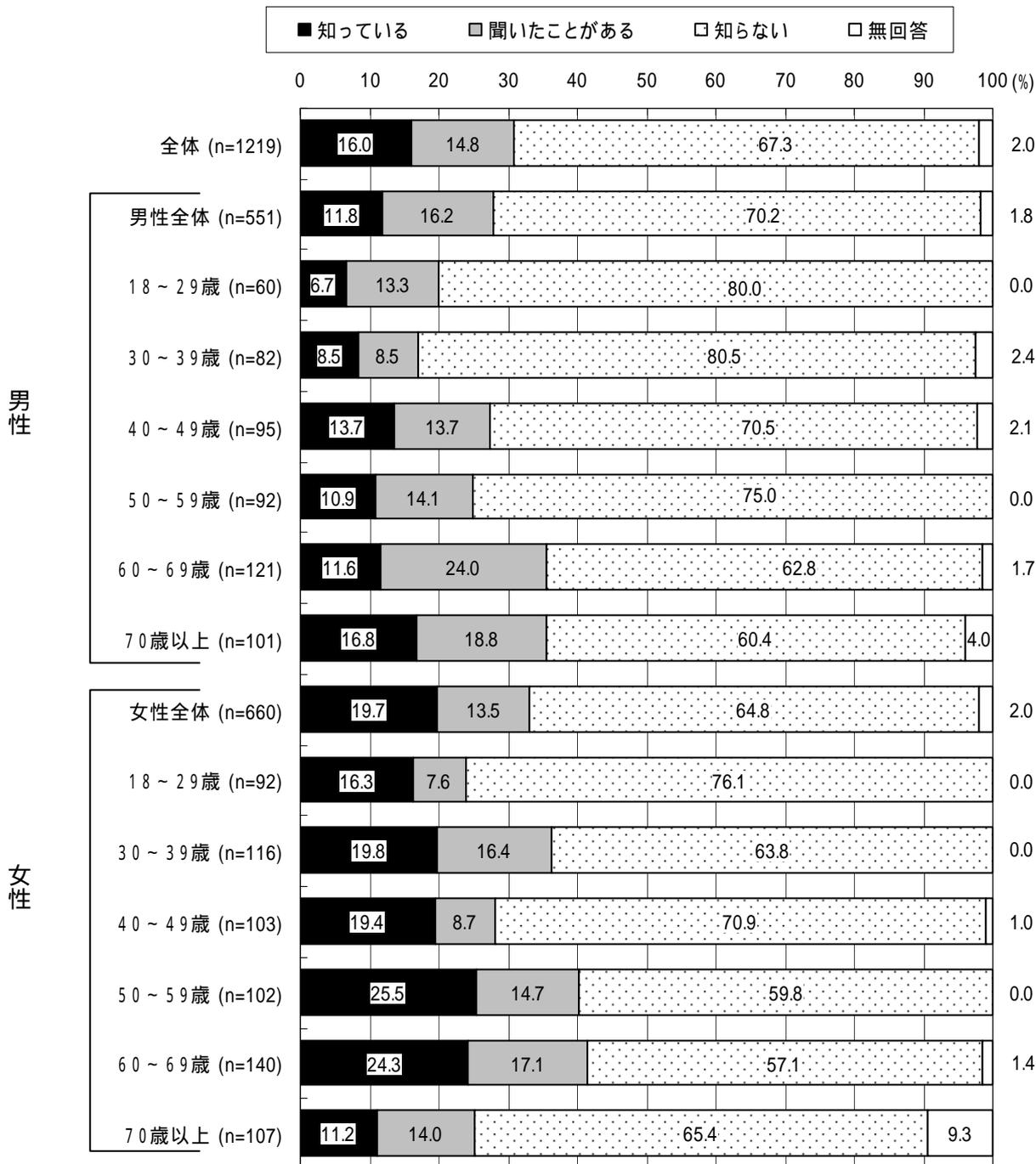


【性別・年齢別】ドメスティックバイオレンスの相談窓口設置に対する認知度

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「知らない」は、女性よりも男性の方が比率が高く、認知度が低かった。特に男性の18歳～29歳、30歳代では 80%を超え、比率が高いのが目立つ。女性では18歳～29歳で比率が高く、認知度が低かった。

全体で2位だった「知っている」は、女性の50歳代、60歳代で比率が高く、この年齢での認知度は比較的高い。

全体で3位だった「聞いたことがある」は、男性の60歳代で比率が高いのが目立つ。

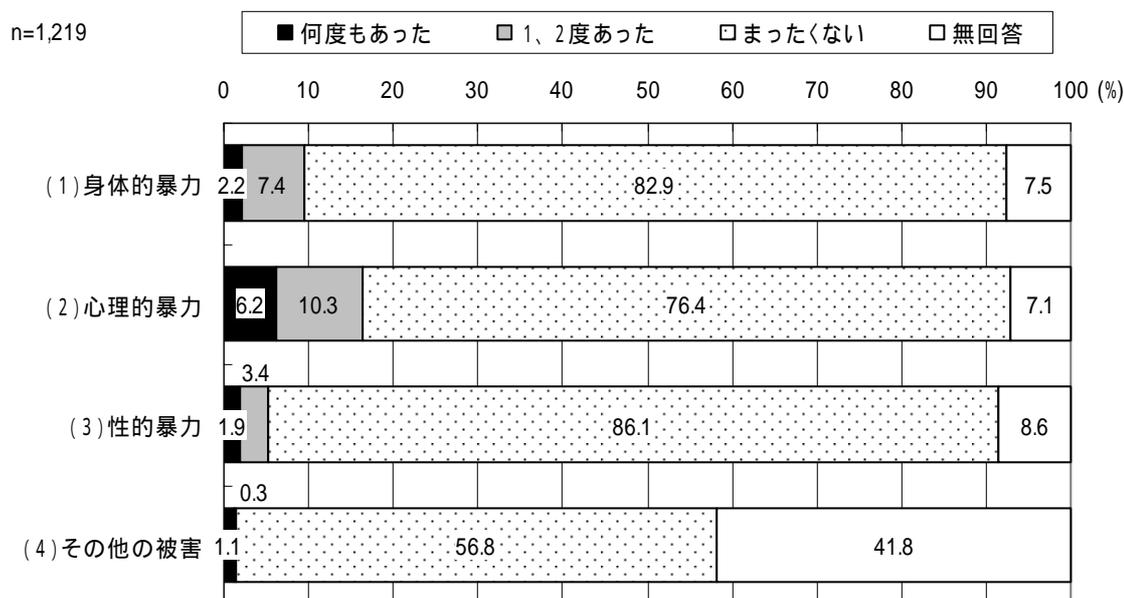


(9) パートナー(配偶者、恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験

問29 あなたはこれまでに、あなたのパートナー(配偶者・恋人)から次のようなことをされたことがありますか。

パートナー(配偶者、恋人)からされたドメスティックバイオレンスの経験を聞いた結果最も多かったのは、どの項目でも「まったくない」であった。次いで、「1、2度あった」、「何度もあった」が続く。心理的暴力を受けた経験がある人の比率が他と比べて高い。

- (1) 身体的暴力(殴る／物を投げる／首を絞める／タバコの火を押し付ける等)
- (2) 心理的暴力(暴言を吐く／大事なものを壊す／交友関係を監視・制限する等)
- (3) 性的暴力(性行為を強要する／避妊に協力しない／ポルノを見せる等)
- (4) その他の被害

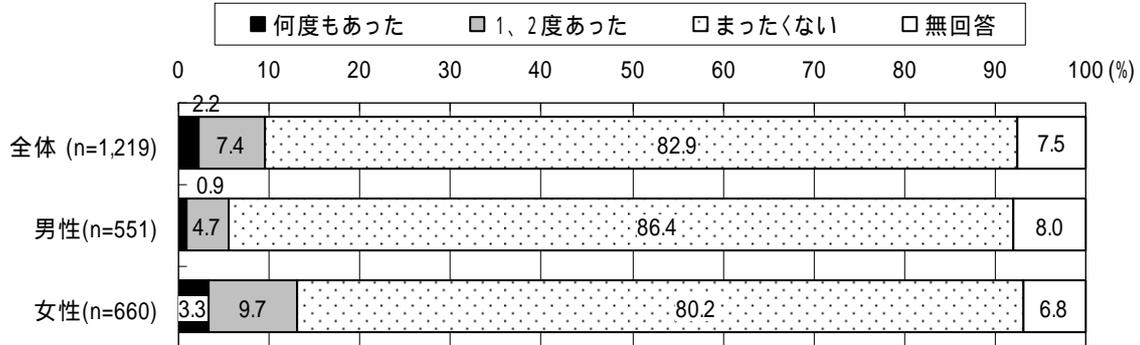


その他の被害では、「他の女性と夫婦同然の生活を続けている」、「子供が暴力を受けている」、「メールで脅迫」、「仕事先の上司や本部などに文句の電話をかける」、「定職に就けず経済的不安」、「ギャンブルによる借金」、「宗教に対しての禁止」、「生活に必要な最低限のお金をくれない」があった。

【性別】パートナー(配偶者、恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験

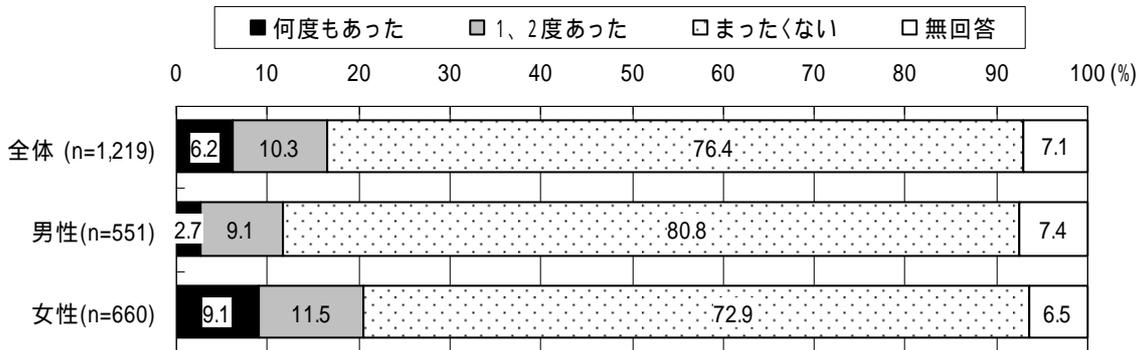
(1) 身体的暴力(殴る/物を投げる/首を絞める/タバコの火を押し付ける等)

「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「何度もあった」、「1、2度あった」ともに被害にあっているのは、男性よりも女性の方が比率が高い。



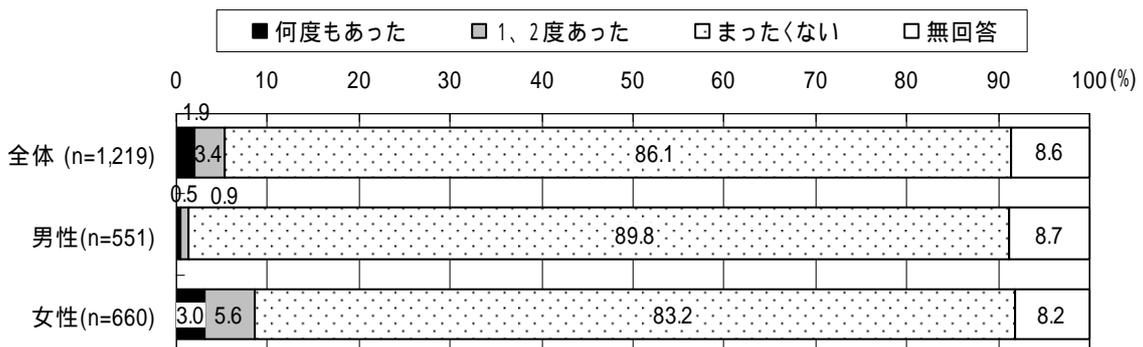
(2) 心理的暴力(暴言を吐く/大事なものを壊す/交友関係を監視・制限する等)

「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「1、2度あった」は、男女にあまり差は見られない。「何どもあった」は男性よりも女性の方が比率が高いのが目立つ。



(3) 性的暴力(性行為を強要する/避妊に協力しない/ポルノを見せる等)

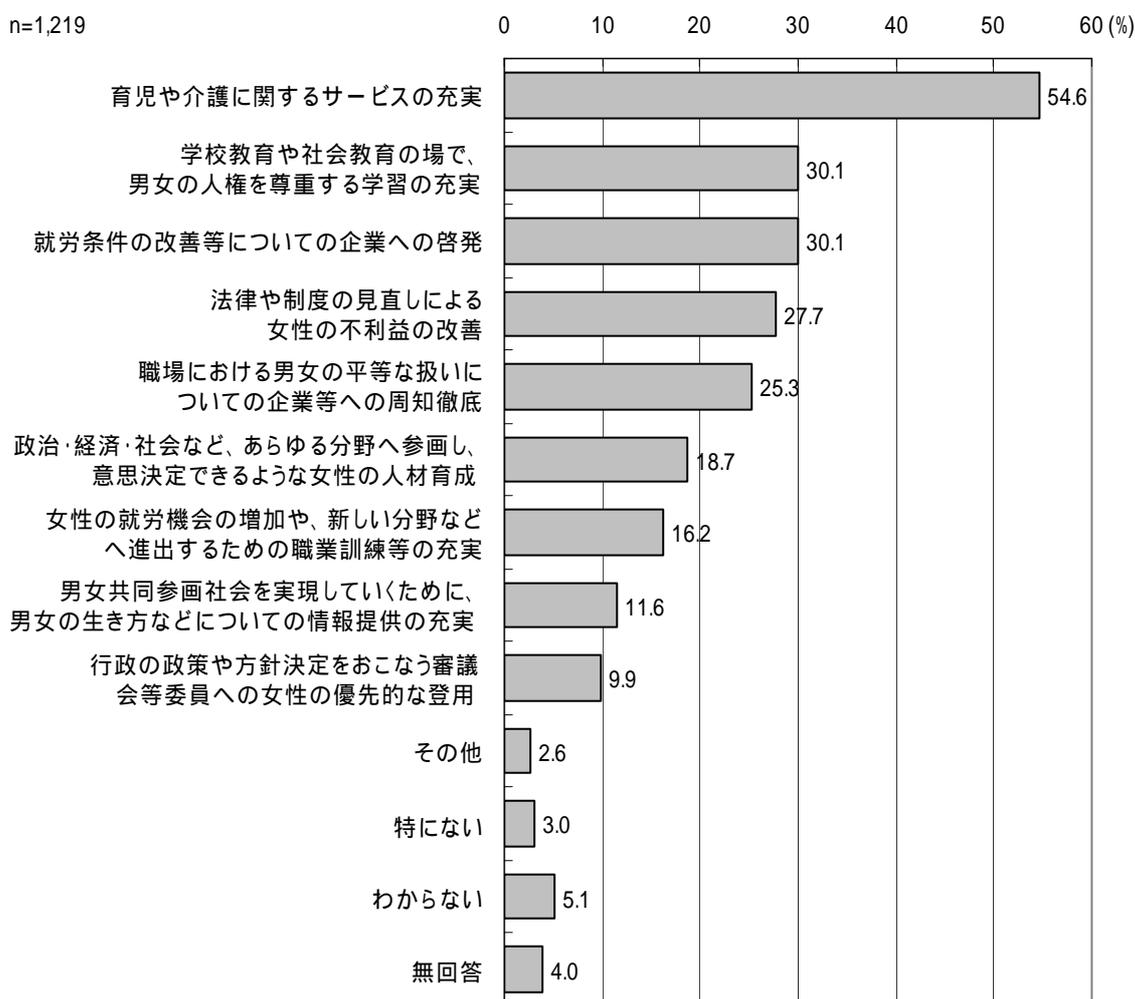
「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「何どもあった」、「1、2度あった」ともに被害にあっているのは、男性よりも女性の方が比率が高い。



(10) 男女共同参画社会を実現していくための施策

問30 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、あなたは行政に対してどのようなことを望みますか。【3つまで選んでください】

男女共同参画社会実現していくための施策を聞いた結果最も多かったのは、「育児や介護に関するサービスの充実」(54.6%)であった。次いで、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」(30.1%)、「就労条件の改善等についての企業への啓発」(30.1%)、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」(27.7%)、「職場における男女の平等な扱いについての企業等への周知徹底」(25.3%)、「政治・経済・社会など、あらゆる分野へ参画し、意思決定できるような女性の人材育成」(18.7%)が続く。



【性別・年齢別】男女共同参画社会を実現していくための施策

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「育児や介護に関するサービスの充実」は、男性よりも女性の方が比率が高く、特に女性の30歳代で70%を超え、比率が高いのが目立つ。男性では18歳～29歳、30歳代、40歳代の若い年齢で比較的比率が高い。

全体で2位だった「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」は、性別・年齢別で他の項目に比べて大きな差は見られない。同じ比率で2位だった「就労条件の改善等についての企業への啓発」は男女ともに40歳代で最も比率が高く、男性の70歳以上で比率が低い。

全体で3位だった「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」は、男性の50歳代で最も比率が高く、反対に女性の50歳代では最も比率が低くなっている。

(その1)

		全体 (実数)	法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善	行政の政策的な方向性の明確化	学校教育や社会教育の充実	野党・経済団体・労働組合の連携	女性の就業訓練等	育児や介護に関するサービスの充実	
全体		1219	27.7	9.9	30.1	18.7	16.2	54.6	
性別・年齢	男性	男性全体	551	29.6	10.7	29.8	19.6	12.5	46.8
		18～29歳	60	26.7	8.3	30.0	21.7	23.3	51.7
		30～39歳	82	20.7	11.0	23.2	9.8	13.4	51.2
		40～49歳	95	31.6	8.4	34.7	18.9	9.5	56.8
		50～59歳	92	39.1	8.7	30.4	16.3	12.0	43.5
		60～69歳	121	28.1	10.7	29.8	21.5	13.2	48.8
		70歳以上	101	29.7	15.8	29.7	27.7	7.9	31.7
		無回答	-	-	-	-	-	-	-
	女性	女性全体	660	26.4	9.4	30.6	17.7	19.5	61.5
		18～29歳	92	34.8	4.3	27.2	13.0	21.7	57.6
		30～39歳	116	27.6	8.6	25.0	12.9	25.9	74.1
		40～49歳	103	30.1	6.8	27.2	12.6	23.3	65.0
		50～59歳	102	17.6	12.7	33.3	22.5	20.6	68.6
		60～69歳	140	22.1	10.0	37.9	19.3	14.3	63.6
70歳以上		107	28.0	13.1	30.8	25.2	13.1	38.3	
無回答		-	-	-	-	-	-	-	

(その2)

		情報など、現況の把握	就業条件の改善等	職場での平等への取り組み	その他	特になし	わからない	無回答	
全体		11.6	30.1	25.3	2.6	3.0	5.1	4.0	
性別・年齢	男性	男性全体	14.3	31.0	24.7	3.4	3.8	4.9	4.9
		18～29歳	11.7	28.3	16.7	5.0	5.0	6.7	1.7
		30～39歳	12.2	37.8	26.8	7.3	7.3	2.4	3.7
		40～49歳	6.3	38.9	23.2	3.2	3.2	2.1	4.2
		50～59歳	19.6	32.6	28.3	4.3	4.3	1.1	2.2
		60～69歳	14.9	31.4	31.4	1.7	2.5	6.6	4.1
		70歳以上	19.8	17.8	17.8	1.0	2.0	9.9	11.9
		無回答	-	-	-	-	-	-	-
	女性	女性全体	8.9	29.7	25.8	2.0	2.3	5.2	3.0
		18～29歳	7.6	30.4	41.3	1.1	-	8.7	-
		30～39歳	5.2	32.8	27.6	4.3	1.7	2.6	-
		40～49歳	4.9	39.8	25.2	-	3.9	1.9	2.9
		50～59歳	12.7	29.4	21.6	2.9	2.0	2.9	1.0
		60～69歳	8.6	20.7	20.0	1.4	2.9	7.1	5.0
70歳以上		15.0	28.0	22.4	1.9	2.8	7.5	8.4	
無回答		-	-	-	-	-	-	-	

12. 自由意見

問31 最後に、あなたのお住まいの地域、あるいは座間市全体で、今後どのような市民生活が送れるようにしていけば良いか、ご意見、ご提言などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見を記入してもらった結果、のべ 1,290 件の意見が寄せられた。項目別に整理し、件数の多い順から掲載した。

まちづくりに関する意見

196件

駅周辺の整備をしてほしい	25
美しい景観が守られるまちづくり	24
安全で安心して暮らせるようなまちづくり	22
高齢者が安心して暮らせるようにしてほしい	16
マンションの建設を制限してほしい	11
市民が参加できるような制度を取り入れてほしい	9
座間駅周辺の整備をしてほしい	8
建築協定を守ったまちづくり	5
子どもが安全に暮らせるまちづくり	4
子どもの遊び場を増やしてほしい	4
相武台前駅整備をしてほしい	4
活気のあるまちづくり	4
商店街を活性化させるまちづくり	4
近隣との合併をしたほうがよい	4
借金しない健全な財政政策が必要である	4
しっかりした計画性の基にやってほしい	4
入谷駅の階段を整備してほしい	3
駐輪場の充実を図ってほしい	3
緑が多いまちづくり	3
駐車場を充実させてほしい	3
生活環境の快適性を重視し、整備、指導を強化してほしい	3
小田急相模原駅周辺の整備をしてほしい	2
既存のものの長所を見つけてそれを伸ばすようなまちづくり	2
一人一人が思いやりの心を大切にしたいまちづくり	2
座間市を誇りに思えるような、まちづくりをしてほしい	2
市民に対し公正、公平な市政を望む	2
観光振興に力を入れ、明るいイメージを表に出すまちづくり	2
駅周辺の車の渋滞を解消してほしい	2
あいさつができるまちづくり	2
放置自転車をなんとかしてほしい	2
道路、交通網に整備を含めた都市計画の構築	1
保健に関する課と生涯学習に関する課が協同して地域づくりを行うこと	1
都心のベッドタウンとして平日は市外、休日は市内で過ごしやすいまちづくり	1
特定地域に機能が集中しすぎている	1
もっともっと洗練された“まち”になるように期待している	1
座間のアピールポイントをはっきりさせてほしい	1
経済効果のある街づくり	1
座間市の歴史・文化に基づく観光PRに努め、地域力を高めてほしい	1
小さくてもまとまりのあるまちづくり	1
景気にあまり左右されないよう、地道なまちづくり	1
まちなみが暗い	1

医療機関の充実を望む	21
総合病院を作してほしい	13
福祉関係に力を入れてほしい	11
子育てに関する施策を充実させてほしい	10
市立病院を作してほしい	9
救急医療の充実を望む	9
介護関係の制度を充実させてほしい	8
児童手当をもっと増やしてほしい	7
小児医療助成制度が使える年齢を延長してほしい	6
高齢者に対する施策を充実させてほしい	5
老人ホームや施設の充実を望む	5
小児科が少ない	3
働く女性が多い中、育児施設(保育園など)の充実を考えていただきたいです	3
医療制度の充実	3
小児医療費補助の所得制限を廃止してほしい	2
障害者が安心して暮らせるまちづくりをしてほしい	2
子どものための施策を充実させてほしい	2
介護保険をもっと利用しやすくしてほしい	2
産科が少ないので子どもを産みにくい	2
高齢者に交通費等の無償化の制度	1
1人住まいの高齢者に目を向けてほしい	1
子育て支援センターを作してほしい	1
人口の老齡化、少子化等への対応(特にソフト面での)を優先すべき	1
保育園や児童ホームの利用時間を延長してほしい	1
公立の幼稚園がほしい	1
一時保育の充実を望む	1
妊娠・出産に対する費用補助がもっと欲しい	1
年金で入れる様な老人ホームがほしい	1
高齢者の日常生活(買物等)を市がバックアップしてほしい	1
年金生活でも安心して医者にかかれる負担額になってほしい	1
医療費を出してもらって感謝している	1
夜間休日診療の充実を望む	1
シルバー人材の活用をすべきである	1
福祉部の職員を専門職にしてもっと詳しくなってほしい	1
保健・医療対策、高齢者・障害者福祉の充実を望む	1

道路に関する意見

136件

道路を整備してほしい	26
道路を拡幅してほしい	24
歩道を整備してほしい	24
歩道の段差をなくしてほしい	13
歩道を拡幅してほしい	10
自転車用の通路と歩道を分けてほしい	10
道路の排水を改善してほしい	4
道路の側溝にふたをしてほしい	4
線路を高架線にすべき	3
道の整備(舗装など)をもっときめ細かく点検、補修して行ってほしい	3
遊歩道を整備してほしい	2
障害者の立場での道路づくりをしてほしい	2
座間市は、坂道が多いので、できれば坂道を少なくしてほしい	2
道路が狭いので、一方通行の導入の推進を図る	2
農道の舗装を進めてほしい	1
歩道のバリアフリー化を進めてほしい	1
自動車優先の道路づくりは止めてほしい	1
通学路に歩道を整備してほしい	1
道が迷路のようなので、区画をもう少し整理してほしい	1
車道と歩道の段差をなくしてほしい	1
国道246号線の車の音がうるさい	1

基地問題に関する意見

93件

航空機騒音を解消してほしい	54
米軍基地の返還を求める	8
米軍の撤去を求める	7
基地問題に真剣に取り組んでほしい	5
米軍キャンプを最大限利用した街づくり	4
防音対策に力を入れてほしい	2
座間キャンプの開放日をもっとほしい	2
基地があっても安心して暮らせるようにしてほしい	2
税金面での優遇がほしい	1
基地との交流を図る	1
座間キャンプ内の施設利用が市民にもっと出来るといい	1
子ども達の英語教育を目的とした交流があるといい	1
米軍キャンプ出入りのアメリカ人のマナーが悪い	1
座間キャンプに伴う住民の危険性をなくしてほしい	1
キャンプ座間があることによって、生活に不安を感じる	1
基地との共存を求める	1
基地の街のイメージを払拭したい	1

自治会への入会を勧める	21
近所付き合いを大切にす	13
自治会の活性化、拡大化を促進する	6
挨拶をすること	4
地元住民の団結が強く他からの転入者は入りづらい	3
責任を果たす人が少なく、権利の主張をする人が多すぎる	3
人が温かく、住みやすい	2
交流の場を市が提供してほしい	2
地域で協力することが大事である	2
町内会で協力していくようにする	2
地域活動の負担が多すぎる	2
外国人とのふれあいイベントがあるとよい	1
老若男女が参加できる集いを行う	1
だれもが得意とする分野でボランティア活動に参加する	1
高齢男性が気軽に参加できる会をふやしてほしい	1
囲碁、将棋、カラオケ等を自治会館や公民館等に設けてほしい	1
婦人会や老人会への入会を積極的に勧める	1
全家族が自治会に入るようにする	1
自治会は個人に負担のかかりすぎるものがある	1
自治会で役職の負担が多すぎる	1
子ども会や老人会はなくさないでほしい	1
出会いの挨拶、声を交わす運動を望む	1
挨拶をする習慣がなくなっている	1
町内会の充実と、近隣互助の精神づくりが大切である	1
子ども会など、子どもと地域と一緒にできる事を色々やってほしい	1
地域協力、地域の活性化を望む	1
お祭り、盆おどりなどがあるとよいと思う	1
住民の主体性を重視した活動にするよう工夫していく	1
有償のボランティアの育成・充実・地元産業に還元できる様なシステム作り	1
ふるさと祭りは地域交流ができて良い	1
お互い様と昔の人付き合いの大切さ等、子供の時から教える	1

防犯・治安に関する意見

64件

街灯の整備をしてほしい	31
防犯対策を強化してほしい	8
治安が悪化している	6
防犯パトロールを行ってほしい	5
治安の良い街にしてほしい	5
夜間の子供達の集団が気になる(公園、コンビニ前)	3
草が枯れているので、火災・防犯の予防の為に綺麗にしてほしい	2
交番の設置を望む	1
2回も盗難被害にあったので防犯強化してほしい	1
今起きている事(例えば、振り込め詐欺)などのポスターを貼る	1
各家庭の門灯などは努めて点灯する様に心掛ける	1

商工業に関する意見

64件

商店街の活性化を図ってほしい	16
大型ショッピングセンターがほしい	11
企業の誘致を積極的に行ってほしい	10
日産工場なき後の企業の誘致と財政の確保	4
全体として企業が少ない	3
商業施設が少なく、買い物が不便	3
座間市内にデパートがほしい	2
コンビニが少ない	2
相武台下駅(相模線)周辺にコンビニがほしい	2
商工業地域の活性化により、財源基盤作りに力を入れていただきたい	2
座間市での就職先がない	2
緑が丘地区にスーパーマーケットがほしい	1
座間市の消費増につながる様な店舗の誘致	1
座間市には、ホテル・旅館がない	1
カフェが少ない、感じの良いおいしい店が出来てほしい	1
仕事帰りでも寄れるような、遅くまで開いているスーパーがほしい	1
住み良い環境の商店街にしてもらいたい	1
スーパーやコンビニはあるが、専門店が少ない	1

交通に関する意見

64件

バスの本数を増やしてほしい	12
コミュニティバスの増設を検討してほしい	10
路線バスは大きな道だけでなく路地も網羅してほしい	8
コミュニティバスの本数を多くしてほしい	8
市役所への交通が不便である	6
交通の便を良くしてほしい	4
コミュニティバスはすぐいっぱいになって乗れない	2
交通機関の整備をしてほしい	2
マイクロバスでもいいので、買い物や病院に行くための交通手段がほしい	1
最寄り駅までのバス路線がほしい	1
南林間駅と座間駅にワンマンバスを走らせてほしい	1
市役所以外の公共施設への交通の便を整えてほしい	1
綾瀬市のバスを座間駅まで来ようようにしてほしい	1
新田宿、四ツ谷地区から海老名駅にバスを運行して欲しい	1
夜間のバスの本数を増やしてほしい	1
コミュニティバスのルートや時間など、まだまだ使いにくい	1
コミュニティバスの本数が少なすぎるし、路線規模も小さい	1
公共施設への交通が不便である	1
ハーモニーホールへの交通が不便である	1
市役所～各駅への無料循環バス等の充実をお願いしたい	1

自然環境に関する意見

49件

緑地の保全に力を入れてほしい	19
今ある自然環境を守って欲しい	9
子供達のために未来へ緑を残そう	2
自然環境について、緑が少ないと思う	2
緑地を多くすることが温暖化防止になる	1
大木で残っているものは移植して守ってほしい	1
緑と街並のバランスが大切である	1
緑地、街路樹などの手入れをきちんとしてほしい	1
緑ゆたかな住環境に満足している	1
緑化計画で置いてあるプランターが邪魔である	1
市として、緑地や樹木を大切にすることを考えてもらいたい	1
桜並木の手入れを少しはしてほしい	1
地球温暖化防止に貢献していきたい	1
地球温暖化のことからももっと緑を増やすべき	1
水源・水辺・山里を残して、それをアピールした町になってほしい	1
自然を大切にホタルがもう1度飛びかう田園風景を	1
自然環境を大切にしながら、環境問題に取り組む市でありたい	1
目久地川の臭いがする時が多くなって来ている	1
鳩川の桜の木、切りすぎに不満	1
緑地帯のメンテナンスがいきとどいていないところをボランティアで対応していきたい	1
空地にどんどん木を植えて緑を増やしてほしい	1

公園に関する意見

40件

公園を増やしてほしい	9
公園を整備してほしい	9
子供が遊べる公園が減っている	3
大規模な公園がほしい	3
子どもが遊べる遊具がある公園がほしい	1
公園の閉園時間ををもっと延ばしてほしい	1
公園を利用した植物や動物の案内などの子どもの教育	1
相武台1丁目の近くに公園がほしい	1
公園の緑を守ってほしい	1
座間公園をもっときれいにしてほしい	1
散歩などが出来る公園がほしい	1
子どもの安全の為に公園の整備(木の剪定、遊具の点検等)をしてほしい	1
公園の遊具が取り除かれたままになっているので行きにくい	1
整備費を使って、いつもきれいな状況に保ってほしい	1
公園のペンキがはげていて手入れが行き届いていない感じがする	1
花園が充実した公園がほしい	1
犬を散歩させやすい公園がほしい	1
公園にある桜の木の落ち葉拾いが大変である	1
公園に駐車場を整備してほしい	1
公園は大小関係なく、一定敷地内に1つ設ける	1

学校・教育・文化に関する意見

34件

青少年のマナー教育・モラル教育が必要である	6
中学校でも給食を実施してほしい	6
通学する学校が遠いので学校を選べるようにしてほしい	3
小学校のトイレが汚い、整備してほしい	2
職業訓練のできる学校がほしい	1
市で開催される医学講座を聞きたい	1
文化の高揚を望む	1
犯罪者や性犯罪を起こす人を作らない教育をして欲しい	1
休日に参加できる講座や教室を充実させてほしい	1
中学に格技場の整備をお願いしたい	1
大学等高等教育が必要である	1
相武台は、座間中の学区になるが、遠いので生徒に負担がないよう区分けしてほしい	1
青少年育成の為に団体や活動に市が積極的に協力してほしい	1
学校が雨漏りしているので整備してほしい	1
学校のピアノの調律を年1回はしてほしい	1
小学校・中学校にプールを整備してほしい	1
学校がみんな古い	1
座間市は教育に関して遅れている	1
学区外の国立高に行かせてほしい	1
義務教育に力を入れてほしい	1
それぞれの小学校に学童保育がほしい	1

ごみ処理に関する意見

34件

ごみの回収日を増やしてほしい	7
ごみの分別を強化する	5
ごみ出しのマナーが悪い	3
ごみの不法投棄防止を強化してほしい	2
美化デーを増やしてきれいな街、ごみのない街を目指したらよい	2
ごみを分別しなくていいようにしてほしい	2
ごみ集積場の整備をしてほしい	2
分別内容を気軽に尋ねられるテレホンサービスがあるとよい	1
目久尻川のごみが気になる	1
道路にごみが多い	1
転入者へのごみ収集日の徹底指導と転出者のごみの捨て方の指導をするべきである	1
ごみを戸別収集にしてほしい	1
ごみのリサイクルされている過程を知りたい	1
集積場が汚い時があり不愉快になるので、ネットから金網にしてほしい	1
ごみ収集が無料なのが助かる、有料化にならないようにしてほしい	1
ごみ回収の時間が日によって違うので統一してほしい	1
資源回収後の処理過程を、一般公開する機会を作ってみてはどうか	1
処理能力がハイレベルなごみ処理場を設置してほしい	1

公共施設に関する意見

33件

図書館の本の充実を望む	5
市役所の周りだけが整備されている	5
公共施設をもっと開放してほしい	4
市役所庁舎が立派過ぎる	3
徒歩で行けるコミュニティーセンターを作してほしい	2
出張所を設けているのに、出張所で出来る事が少なすぎる	2
市の施設として冠婚葬祭、会議、レクレーション等に有料で使用できる建物がほしい	2
ハーモニーホール座間に充実した内容のものを期待したい	1
ハーモニーホールは赤字ではないのか	1
ハーモニーホールは税金の無駄遣いである	1
ハローワーク、社会保険事務所などを作してほしい	1
市役所庁舎移転の意図がわからない	1
駅で利用できる出張窓口を作してほしい	1
出張所が少なく不便である	1
市公民館、コミュニティーセンター等々、趣味・学習等の団体活動の講座の金額が非常に高い	1
相武台には子育て支援センターや公民館の様に子供(幼児)が遊べる様な屋内施設がほしい	1
相模原市は座間よりもずっと充実した施設やサービスがあると思う	1

スポーツ・レクリエーションに関する意見

33件

温水プールを設置してほしい	10
スポーツ施設を充実させてほしい	9
グラウンドを整備してほしい	4
運動公園をつくってほしい	3
ジョギングコースを設けた公園などがほしい	1
スポーツ施設の予約を当日もできるようにしてほしい	1
体育館がほしい	1
体育館の開館時間を延長してほしい	1
球場を増やしてほしい	1
スポーツ施設の予約システムを使いやすくしてほしい	1
学校の空き教室にトレーニング室がほしい	1

交通安全対策に関する意見

32件

暴走族やマナーのない運転者の取り締まりを強化してほしい	5
通学路の交通安全対策に力を入れてほしい	4
違法な路上駐車をなくしてほしい	4
交通安全対策をしてほしい	3
スピード違反を取り締まってほしい	3
狭い道路は一方通行などにしてほしい	2
渋滞を招くような信号の増設はやめてほしい	2
人間より車社会を優先する政策を見直してほしい	1
道路の見通しが悪くなるので、草木の整理をまめをお願いしたい	1
カーブミラーの整備を徹底してほしい	1
鉄道会社と協力して踏切をなくす	1
狭い道では大型トラックが通ると大変危険なので規制してほしい	1
信号無視が多すぎるので取り締まってほしい	1
自動車を運転する方の道路交通法の勉強会などを行ってほしい	1
交通標識を見直してきちんと整備してほしい	1
自転車で乗りながら携帯電話を使うのはやめてほしい	1

上水道・下水道に関する意見

26件

雨水排水対策をしてほしい	11
下水道を整備してほしい	7
座間の水はおいしいので保全してほしい	4
おいしい地下水が座間の自慢である	3
人口の増加による水道水の確保をしてほしい	1

防災に関する意見

14件

防災無線のスピーカーの音が聞き取りにくい	3
防災関係に力を入れてほしい	3
震災に備えて空地の確保をしてほしい	2
実際に被災した時にどうしたら良いのか、情報、対策など具体的に知る機会がほしい	2
防災の実効的行動計画の確立と実効性の確認をしてほしい	1
高齢者に対する災害時の誘導、安全、介護施設の充実を望む	1
電線を地下に埋設すると、地震の時安心できる	1
避難場所が遠い	1

その他の意見

159件

市の情報をもっとわかりやすく伝えてほしい	14
市役所職員の対応が良くない	13
座間市は現在のままで良いと思う	13
税金の無駄遣いになるようなことはやめてほしい	11
市民税が高い	10
ペットを飼っている人はマナーを守ってほしい	8
市民農園にするなど、農地の有効活用してほしい	7
市民意識調査の結果を市民に公開してほしい	7
市役所の職員の数が多すぎる	7
市長に頑張ってもらいたい	5
市の財政基盤が弱い、見直した方がよい	5
広報ざまを、みんなにきちんと配布してほしい	4
座間の良いところをもっとPRしていくべきである	4
歩行中の喫煙を規制してほしい	3
観光のPRに力を入れてほしい	3
市内の農産物市のようなものが近所に来てほしい	3
気軽に相談出来る窓口の充実	3
役所の人々の所得、退職金、福利厚生は一般市民よりかなり優遇されてる	2
座間市へ意見を言える機会があってよかった	2
男女共同参画のアンケートがなされてよかった	2
意見を述べられる広聴相談課があることはとても良かった	1
外国籍で市民税を払っているが住民票にのらないのはなぜか	1
市政や市役所職員一人一人がもっと意識を持ち、良い市づくりに努めてほしい	1
市議会議員の態度が横柄だ	1
封筒の再利用の方法がとても良い	1
現在の座間市にやや満足している	1
町はあとからついてくるもの、まずは資金源を増やすこと	1
サッカーの町として力を入れたらよいのでは	1
市役所奥周辺の花植えは無駄である	1
ひばりが丘にも、市営住宅を建ててほしい	1
近隣の市の職安、保健所などの利用を自由にしてほしい	1
相模川周辺の危なくない所を開放してほしい	1
住みやすさは住民と行政サイドで認識の差があると感じる	1
座間市が大好き	1
地デジの対応をきちんとしてほしい	1
男女共同参画の催しで、関係者の中に男性は一人もいなかった	1
座間市に移り住んで良かった	1
調査票と封筒のサイズが合っていない(冊子の調査票を三つ折りするのは少々大変)	1
調査にミスがあり無駄が生じたことは許さない	1
個人の意識の問題なので、アンケートは重要視しない方がよい	1
外国人が多いので彼らに対するマナーの啓発を重要視してもらいたい	1
火力発電所問題のような環境に劣悪は事業は二度と起こさないでほしい	1
住民自身も住民自治の意識を持つ事が大切だ	1
コスト感覚をもって更なる改善を望む	1
芸能・文化・スポーツ等、良い事でマスコミに等に出るようになってほしい	1
出来る事から、一つ一つ確実に進めて行ってほしい	1
空家等は崩れる危険があるため、地主と話し、取り壊してほしい	1
女性の進出について意見は活発だが、兵隊としては役に立たないのが現状	1
食糧自給率UPを目指してほしい	1
役所の仕事に対する姿勢がだらしない	1
期日前投票所が遠い	1
市政の改革を実行せよ	1
このようなアンケートは無意味	1

IV. 調査票

平成 20 年度座間市民意識調査

ご協力をお願い

日ごろから市政の推進に多大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今回お願いいたしますこの市民意識調査は、市民の皆様のご意見を伺い、将来のまちづくり計画や男女共同参画プランの策定など今後の市政運営に役立てるために実施いたします。

この調査は、市内にお住まいの18歳以上の市民のなかから、無作為に選ばせていただいた2,500人の方々にご協力をお願いしております。

ご回答いただいた結果につきましては、統計的な処理をいたしますので、あなたの意見が外部に漏れたり、ほかの目的に使用されたりすることは決してありません。

調査の結果は、今後の市政運営の貴重な資料として活用してまいります。

お忙しいところ恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年11月

座間市長 遠藤 三紀夫

記入上のお願い

- 1 この調査票は、必ず封筒の宛名のご本人がお答えください。なお、ご本人が記入できない場合は、ご家族の方などが聞き取りのうえ記入していただいても結構です。
- 2 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて 12月18日(木)までにご投函ください。
- 3 調査票にも封筒にも、あなたのお名前、ご住所を書く必要はありません。
- 4 この調査についてのお問い合わせは、次をお願いいたします。

座間市市民部 広聴相談課 広聴係
電話 046 - 255 - 1111(代表)
046 - 252 - 8146(直通)

最初に、あなた自身のことについてお伺いします。

それぞれ、あてはまる番号を○で囲んでください。

F1 あなたの性別はどちらですか。

1. 男 2. 女

F2 あなたの年齢は(平成20年11月1日現在)おいくつですか。

1. 18～29歳 4. 50～59歳
2. 30～39歳 5. 60～69歳
3. 40～49歳 6. 70歳以上

F3 あなたのご職業は何ですか。【兼業の方は、主な職業を1つだけ選んでください】

自営業またはその家族従業者

1. 商工・サービス業
2. 農林業
3. その他自由業(作家、弁護士など)

常勤の勤め人

4. 専門・技術職(医師、教授、技師など)
5. 事務職(一般事務、経理、営業など)
6. 労務職(店員、工員、作業員など)

その他

7. 人材派遣会社への登録
8. パート、アルバイト、内職
9. 学生
10. 専業主婦
11. 無職
12. その他()

F4 **F3**で1から9とお答えの方にお伺いします。あなたの勤務地(通学地)はどこですか。

1. 自宅 4. 横浜市・川崎市
2. 座間市内 5. その他の県内
3. 県央地域(相模原市・厚木市・大和市
海老名市・綾瀬市・愛川町・清川村) 6. 東京都内
7. その他(県)

F5 あなたの同居の家族構成はどれですか。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 単身世帯 | 4. 三世代世帯(親と子と孫) |
| 2. 夫婦のみ | 5. その他() |
| 3. 二世代世帯(親と子) | |

F6 あなたのお住まいは次のうちどれにあてはまりますか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 持家(一戸建て) | 5. 公社・公団の共同住宅 |
| 2. 持家(共同住宅) | 6. 公営住宅 |
| 3. 民営借家(一戸建て) | 7. 官・公舎 |
| 4. 民営借家(共同住宅) | 8. その他() |

F7 あなたはいつごろから座間市にお住まいですか。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 昭和19年以前 | 5. 昭和50年～昭和59年 |
| 2. 昭和20年～昭和29年 | 6. 昭和60年～平成6年 |
| 3. 昭和30年～昭和39年 | 7. 平成 7年～平成16年 |
| 4. 昭和40年～昭和49年 | 8. 平成17年以降 |

F8 あなたがお住まいの地域はどこですか。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 新田宿・四ツ谷 | 7. 相模が丘 |
| 2. 座間 | 8. 小松原 |
| 3. 入谷・明王 | 9. ひばりが丘 |
| 4. 立野台 | 10. 東原・さがみ野 |
| 5. 緑ヶ丘 | 11. 栗原中央・西栗原・南栗原 |
| 6. 相武台・栗原・広野台 | |

座間市の生活環境についてお伺いします。

問1 あなたが座間市にお住まいになった主な理由は何ですか。【1つだけ選んでください】

1. 手ごろな家や土地があったから
2. 結婚や家族の転居にともなって
3. 仕事や学校の関係で
4. 自分の生まれ育ったところだから
5. 通勤・通学が便利だったから
6. 親兄弟や親戚が近くにいたから
7. 自然環境や土地柄が良かったから
8. 自分の家や土地があるから
9. その他()

問2 あなたは、これからも今の場所に住み続けたいと思いますか。それとも他へ移りたいと思いますか。【1つだけ選んでください】

1. 住み続けたい
2. 市内で移りたい
3. 市外へ移りたい
4. わからない

問2 - 1 **問2**で「1.住み続けたい」とお答えの方にお伺いします。今の場所に住み続けたい理由は何ですか。【1つだけ選んでください】

1. 自分の家や土地があるから
2. 住みなれて愛着があるから
3. 自然環境や土地柄がよいから
4. 自分が生まれ育ったところだから
5. 通勤・通学などが便利だから
6. 仕事や学校の関係で
7. 親兄弟や親戚が近くにいるから
8. 人間関係が良いから
9. 子どもの生活環境、教育環境がよいから
10. 何となくイメージがよいから
11. その他()

問2 - 2 **問2**で「2.市内で移りたい」または「3.市外へ移りたい」とお答えの方にお伺いします。他のところに移りたい主な理由は何ですか。【1つだけ選んでください】

1. 自然環境が悪いから
2. 公共施設や病院が不十分だから
3. 自分の家や土地ではないから
4. 通勤・通学などが不便だから
5. 仕事や学校の関係で
6. 何となくイメージがぼっとしないから
7. 日常の買い物が不便だから
8. 地代・家賃が高いから
9. 人間関係が良くないから
10. 子どもの教育の関係で
11. 高級店や娯楽施設が少ないから
12. 航空機騒音がひどいから
13. その他()

問3 あなたは、お住まいの周辺の環境にどの程度満足されていますか。
 【次の(1)～(18)それぞれの事項について、あてはまる番号1つに をつけてください】

	満 足	ま あ 満 足	ふ つ う	や や 不 満	不 満
例 地震や火災に対する安全性は	1	2	3	4	5
(1) 飲み水は	1	2	3	4	5
(2) 日当たりや風通しなどは	1	2	3	4	5
(3) 日常の買い物は	1	2	3	4	5
(4) 台所・風呂などの排水処理は	1	2	3	4	5
(5) ごみ処理は	1	2	3	4	5
(6) 周囲の自然環境は	1	2	3	4	5
(7) 雨水の排水は	1	2	3	4	5
(8) 通勤・通学の便は	1	2	3	4	5
(9) 市役所や出張所への行きやすさは	1	2	3	4	5
(10) 治安や風紀は	1	2	3	4	5
(11) 病院や診療所などは	1	2	3	4	5
(12) 地震や火災に対する安全性は	1	2	3	4	5
(13) 公園や子どもの遊び場は	1	2	3	4	5
(14) 街並みなどの景観は	1	2	3	4	5
(15) 文化・スポーツ・娯楽などの施設は	1	2	3	4	5
(16) 交通安全について	1	2	3	4	5
(17) 道路の整備状況は	1	2	3	4	5
(18) 騒音・大気汚染などは	1	2	3	4	5

問4 **問3**の(1)から(18)までの項目を総合的に考えて、あなたのまわりの環境はいかがですか。【1つだけ選んでください】

1. 住みやすい
2. まあ住みやすい
3. どちらともいえない
4. やや住みにくい
5. 住みにくい

座間市のまちづくりについてお伺いします。

問5 あなたは、今後座間市はどんなことに力をいれるべきだと思いますか。
 【次の(1)～(30)それぞれの事項について、あてはまる番号1つに をつけてください】

	重 要	やや 重要	も ど ち ら で も ない	な い 重 要 で は あ ま り	な い 重 要 で は
例 健康づくりの推進	1	2	3	4	5
(1) 健康づくりの推進	1	2	3	4	5
(2) 保健・医療対策の充実	1	2	3	4	5
(3) 高齢者・心身障害者福祉など福祉の充実	1	2	3	4	5
(4) 少子化対策の推進	1	2	3	4	5
(5) 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	5
(6) 学校教育の充実	1	2	3	4	5
(7) 生涯学習・市民文化の振興	1	2	3	4	5
(8) 青少年の健全育成	1	2	3	4	5
(9) 市民スポーツの振興	1	2	3	4	5
(10) 駅前など再開発や区域整理の推進	1	2	3	4	5
(11) 公園の整備や緑化の推進	1	2	3	4	5
(12) 道路網の整備	1	2	3	4	5
(13) 上水道の水質保全・安定供給	1	2	3	4	5
(14) 下水道・河川の整備	1	2	3	4	5
(15) バス・鉄道(公共交通)の充実	1	2	3	4	5
(16) 地域環境の保全	1	2	3	4	5
(17) ごみ・公害など環境対策	1	2	3	4	5
(18) 消防・防災体制対策の充実	1	2	3	4	5
(19) 防犯・交通安全対策の推進	1	2	3	4	5
(20) 安全な消費生活の推進	1	2	3	4	5
(21) 基地対策(キャンプ座間返還など)	1	2	3	4	5
(22) 航空機騒音対策	1	2	3	4	5
(23) 都市農業の振興	1	2	3	4	5
(24) 商工業の振興	1	2	3	4	5
(25) 観光の振興	1	2	3	4	5
(26) 勤労者福祉の向上	1	2	3	4	5
(27) 自治会、地域のイベントなど地域活動の推進	1	2	3	4	5
(28) 協働まちづくりの推進	1	2	3	4	5
(29) 国際交流や国内都市間交流の推進	1	2	3	4	5
(30) 市の行財政改革の推進	1	2	3	4	5

地域活動についてお伺いします。

問6 あなたは今後どのような近所づきあいをしていきたいと思えますか。
【1つだけ選んでください】

1. お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい
2. 世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい
3. あいさつ程度のつきあいをしたい
4. 近所づきあいはしたくない
5. その他()

問7 あなたはどのような地域活動に参加していますか。
【実際に参加している団体・活動すべてに を付けてください】

1. 自治会
2. 子供会
3. 婦人会
4. 老人クラブ
5. PTA
6. さま遊友クラブ
7. スポーツ団体
8. 農協・商工会などを通じた地域活動
9. 趣味・学習・伝統文化などの団体活動
10. 高齢者、身体・知的・精神障害者などに対する社会福祉活動
11. 国際交流・環境など社会福祉以外のボランティア(社会奉仕)活動
12. リサイクル、不用品交換会などの消費生活活動
13. その他()
14. 特に活動していない

問7 - 1 **問7**で「14.特に活動していない」とお答えの方にお伺いします。活動していない主な理由は何ですか。【3つまで選んでください】

1. 家族の世話など家庭の事情で
2. どのような活動が行われているのかあまり知らないから
3. 近くに参加したい団体・活動がないから
4. 活動する時間がないから
5. 健康・体力にあまり自信がないから
6. 知り合いがいらないから
7. 参加したくないから
8. その他()

市民参加や広報、情報化についてお伺いします。

問8 あなたは身のまわりのことで要求や問題があった場合、それを市政に反映させるためにどのような方法をとりますか。【1つだけ選んでください】

1. 市長あてに手紙・電子メールを出す
2. 自分で直接市役所に連絡する
3. 自治会を通して連絡する
4. 市議会に陳情する
5. 住民運動を通して伝える
6. 地元の有力者に頼む
7. 言っても無駄だと思う
8. その他()

問9 あなたは現在、自分自身の日常生活に役立つ情報を知るためにどのような媒体(メディア)を使っていますか。【よく使う順に3つ選んで、あてはまる選択肢の数字を下のの中に1つずつ記入してください】

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------------------------------------------------|
| 1. 「広報ざま」などの広報紙 | | |
| 2. テレビ | 1番よく使う媒体の番号 | <input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/> |
| 3. ラジオ | | |
| 4. 新聞・雑誌 | 2番目によく使う媒体の番号 | <input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/> |
| 5. 携帯電話 | | |
| 6. 書籍・チラシ | 3番目によく使う媒体の番号 | <input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/> |
| 7. インターネット | | |
| 8. ポスター・看板・掲示板 | | |
| 9. 自治会の回覧版 | | |
| 10. テレフォンサービス | | |
| 11. ファクスサービス | | |
| 12. ダイレクトメール | | |
| 13. 家族・友人・知人 | | |
| 14. その他() | | |

問10 市のお知らせについては、「広報ざま」のほか、今後どのようなものを使うと便利だと思いますか。【あてはまるものをいくつでも選んでください】

1. ビデオテープやDVD等などの貸し出し
2. 市役所や各出張所などでのビデオ上映
3. 録音テープによる電話サービス
4. ケーブルテレビ
5. ファクスサービス
6. その他()

※「広報ざま」のほかに、テレビ「tvkデジタルデータ放送・マイタウン情報」、ラジオ「FMやまと・MIDDAY BREAK」、インターネット「座間市ホームページ」、「座間市緊急情報メール」でも市のお知らせを提供しています。

問11 最近、「高度情報化」という言葉がよく使われます。このような時代に、今後、座間市はどのようなことを重点的に行えば良いとお考えですか。【1つだけ選んでください】

1. 情報産業や研究機関を振興・誘致することで、働く場を確保するとともに情報化に強い人材を育てる
2. インターネットやケーブルテレビなどを活用し、必要な情報を市民が得やすい環境を整える
3. 市役所の情報化を進め、行政サービスや仕事の効率を向上させる
4. コンピュータの使い方などの市民向けの講座を開き、多くの市民が情報化に対応できるようにする
5. その他()
6. 特に情報化に対応する必要はない

問12 あなたは、家、職場・学校、外出先などの日常の場面でインターネットを利用することがありますか。【1つだけ選んでください】

- 1.主に家で利用する
- 2.主に職場で利用する
- 3.主に学校で利用する
- 4.利用することはない
- 5.その他()

問12-1 **問12**で「1.主に家で利用する」「2.主に職場で利用する」「3.主に学校で利用する」とお答えの方にお伺いします。座間市のホームページを閲覧したことがありますか。

1. ある
2. ない

問12-2 **問12-1**で「1.ある」とお答えの方にお伺いします。現在のホームページに満足していますか。【1つだけ選んでください】

1. 満足
2. まあ満足
3. ふつう
4. やや不満
5. 不満

健康づくりについてお伺いします。

問13 あなたは、ご自身の健康づくりのために今後どのようなことが重要だとお考えですか。【2つまで選んでください】

1. 定期検診などによる健康管理
2. 市の健康相談などで自分に合った健康や医療の情報・知識を得る
3. 生活習慣病(成人病)などを予防する食生活
4. スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり
5. 過労防止のための適切な休養
6. その他()
7. 特にない

自由時間(余暇)についてお伺いします。

問14 今後、あなたが自由時間を過ごすために、どのような施策・施設が必要だとお考えですか。【3つまで選んでください】

1. スポーツ大会や文化イベントの開催
2. スポーツ施設の整備
3. 公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供
4. 学校施設などの一般開放
5. 学習情報やスポーツ・レクリエーション情報の提供
6. 学習、スポーツ・レクリエーション指導者の養成・紹介
7. スポーツ教室やレクリエーション教室の開催
8. 趣味・教養講座の開催
9. スポーツ・レクリエーション団体への活動支援
10. 国際交流・環境など社会福祉以外のボランティア(社会奉仕)活動
11. 「自然の村」など野外活動施設の充実
12. 市民農園の整備
13. その他()
14. 特にない

環境問題についてお伺いします。

問15 座間市に住んでいて、一番気になる環境問題は何ですか。【1つだけ選んでください】

1. 大気汚染(自動車の排気ガスなど)
2. 地下水の保全
3. 河川の汚染(相模川など市内の河川)
4. 騒音、振動(工場・自動車など)
5. 航空機騒音
6. 地球温暖化
7. 不法投棄
8. その他()
9. 気になる環境問題はない

問16 あなたは環境のために、今後とも気を付けて実行したいと思っていることは何ですか。【あてはまるものをいくつでも選んでください】

1. 家庭内のごみの減量化
2. ごみの分別の徹底
3. なるべく自家用車を使わない
4. 自宅の植木や鉢植えを増やす
5. 電気や水道水の無駄づかいをしない
6. 油や味噌汁などを下水に流さない
7. 雨水の地下浸透に努める
8. その他()
9. どれも実行しようと思わない

防災についてお伺いします。

問17 あなたの家では、現在、地震や火災に備えてどのような対策をとっていますか。
【あてはまるものをいくつでも選んでください】

1. 近くの学校や公園など避難場所を決めている
2. 家具を固定している
3. 飲料水や食料を準備している
4. 消火器の設置や水のためおきをしている
5. 医薬品や非常持ち出し品を準備している
6. 地域の防災訓練に参加、または隣近所との協力について話し合っている
7. 火災警報器を設置している
8. その他()
9. 特に何もしていない

問18 あなたは、防災対策として座間市が一番力を入れるべき施策は何だと考えますか。
【1つだけ選んでください】

1. 市民の防災意識の高揚
2. 自主防災組織づくり
3. 避難場所の確保
4. 飲料水、食料などの確保
5. 正確な情報を伝達する体制づくり
6. その他()
7. 防災対策として力を入れるべき施策はない

都市景観・都市環境についてお伺いします。

問19 良好な都市景観、都市環境を形成するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
【1つだけ選んでください】

1. 建築物の高さ規制の導入
2. 緑地の保全
3. 農地の保全
4. 並木の創出
5. 身近な地区を対象としたルールづくり
6. 屋外広告物対策
7. 色彩のルールづくり
8. 公共施設における景観への配慮
9. その他()

問20 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合、どう感じますか。
【1つだけ選んでください】

1. 大変気になる
2. 気になる
3. 全く気にならない
4. どちらともいえない
5. その他()

問21 中高層建築物の具体的な問題点は何だと思えますか。【いくつでも選んでください】

1. 日照
2. 圧迫感
3. 電波障害
4. 風害
5. 周辺との不調和
6. 街並み
7. その他()

問22 建築物の高さ制限の必要性についてどのように思えますか。
【1つだけ選んでください】

1. どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である
2. 現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない
3. どちらともいえない
4. わからない
5. その他()

男女共同参画についてお伺いします。

問23 「男は仕事、女は家庭」といった考えがあります。あなたはどう考えますか。
【1つだけ選んでください】

1. 反対
2. どちらかといえば反対
3. どちらかといえば賛成
4. 賛成
5. わからない

問23 - 1 問23で「1.反対」または「2.どちらかといえば反対」とお答えの方にお伺いします。
その理由は次のどれですか。【1つだけ選んでください】

1. 生まれつき男女の役割は決められているものではないから
2. 従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから
3. 現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから
4. 一般に、家事時間が減って自由時間が増えたから
5. 仕事をもつことは当たり前のことだから
6. その他()

問23 - 2 問23で「3.どちらかといえば賛成」または「4.賛成」とお答えの方にお伺いします。
その理由は次のどれですか。【1つだけ選んでください】

1. それが男女それぞれの生まれつきの特性だから
2. 従来の経験や習慣から
3. 子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから
4. 女性は仕事をもっても不利な条件におかれているから
5. その他()

問24 女性が仕事をもつことにおいて、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。
【1つだけ選んでください】

1. 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ
2. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
3. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
4. 結婚して子どもができるまでは仕事をもつが、出産後はもたない
5. 結婚するまでは仕事をもつが、結婚後はもたない
6. 仕事は一生もたない
7. 夫の収入によって答えは変わる
8. その他()

問25 育児休業制度は男性も利用できるようになっていますが、男性の利用者が極めて少ないのが現実です。どうすれば利用できるようになると思いますか。【2つまで選んでください】

1. 育児は女性の役割であるという意識をなくす
2. 男性が育児に参加することに対する周囲の偏見をなくす
3. 職場での理解が得られるようにする
4. 後々、待遇面で不利にならないようにする
5. 育児休業を利用しても収入減にならない制度の策定
6. 育児に参加することに対する男性自身の心理的抵抗をなくす
7. 男性の育児能力の不足を改善する
8. その他()

問26 家族の介護は現状でどなたが行うべきと考えますか。【1つだけ選んでください】

1. 基本的に女性が担うべき
2. 基本的に男性が担うべき
3. 男女にかかわらず家族が担うべき
4. ホームヘルパーや施設入所などの福祉サービスを利用すべき
5. その他()

問27 地域活動(PTA、自治会など)において、会長、副会長などリーダーに女性が少ないようです。その理由は何だと思えますか。【2つまで選んでください】

1. 女性自身が責任ある地位に就きたがらないから
2. 女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから
3. 女性のリーダーでは、女性がついてこないから
4. 女性のリーダーでは、男性がついてこないから
5. 女性では、相手に軽く見られるから
6. 男性がリーダーとなるのが社会慣行だから
7. 女性がリーダーになるところよく思われない、でしゃばり、目立ちたがりと言われるから
8. リーダーにふさわしい人を選んだ場合、男性になっている場合が多いから
9. その他()

問28 あなたは、座間市にドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人からの暴力)の相談窓口が設置されていることをご存知ですか。

1. 知っている
2. 聞いたことがある
3. 知らない

問29 あなたはこれまでに、あなたのパートナー(配偶者・恋人)から次のようなことをされたことがありますか。
【次の(1)～(4)それぞれの事項について、あてはまる番号1つに をつけてください】

	何度もあった	1、2度あった	まったくない
(1) 身体的暴力 (殴る／物を投げる／首を絞める／タバコの火を押し付ける等)	1	2	3
(2) 心理的暴力 (暴言を吐く／大事なものを壊す／交友関係を監視・制限する等)	1	2	3
(3) 性的暴力 (性行為を強要する／避妊に協力しない／ポルノを見せる等)	1	2	3
(4) その他の被害()	1	2	3

問30 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、あなたは行政に対してどのようなことを望みますか。
【3つまで選んでください】

1. 法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善
2. 行政の政策や方針決定をおこなう審議会等委員への女性の優先的な登用
3. 学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実
4. 政治・経済・社会など、あらゆる分野へ参画し、意思決定できるような女性の人材育成
5. 女性の就労機会の増加や、新しい分野などへ進出するための職業訓練等の充実
6. 育児や介護に関するサービスの充実
7. 男女共同参画社会を実現していくために、男女の生き方などについての情報提供の充実
8. 就労条件の改善等についての企業への啓発
9. 職場における男女の平等な扱いについての企業等への周知徹底
10. その他()
11. 特にない
12. わからない

全体を通した自由意見をお聞かせください。

問31 最後に、あなたのお住まいの地域、あるいは座間市全体で、今後どのような市民生活
が送れるようにしていけば良いか、ご意見、ご提言などがありましたら、ご自由にお書き
ください。

(1) あなたのお住まいの地域のまちづくりについて

(2) 座間市全体のまちづくりについて

(3) その他

ご協力ありがとうございました。

調査はこれで終わります。調査票は同封の返信用封筒(切手不要)に入れて12月18日(木)ま
でにご投函ください。